

男女共同参画社会づくりに向けての 市民意識調査報告書

筑紫野市

平成 29 年 3 月

目次

I	調査の概要	1
	1. 調査の目的	1
	2. 調査の内容	1
	3. 調査の性格	1
	4. 回答者の属性	1
	5. 調査結果利用上の注意	4
II	調査結果	5
	第1章 男女平等に関する考え方について	
	1. 性別役割分担意識	5
	2. 男女の地位の平等感	7
	3. 政策・方針決定の場で女性が少ない理由	23
	第2章 子育て・教育に関する考え方について	
	1. 子どもの育て方について	25
	2. 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること	31
	第3章 家庭に関することについて	
	1. 家庭内の役割分担の状況	33
	第4章 防災に関することについて	
	1. 災害に備えるために必要なこと	47
	第5章 仕事について	
	1. 女性が職業を持つことについての考え方	49
	2. 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由	52
	3. 女性の実際の働き方	54
	4. 職場の環境	57
	第6章 社会活動などへの参加・参画について	
	1. 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと	59
	2. 地域の役職に女性が推薦された場合の対処	61
	3. 断る理由	63
	第7章 慣習・しきたりについて	
	1. 身の回りにおける男女の役割分担	65
	2. 選択的夫婦別姓について	74
	第8章 暴力などの人権侵害について	
	1. セクシュアル・ハラスメントの経験	76

2. 配偶者・パートナーからの暴力について……………	80
(1) 配偶者・パートナーからの暴力の経験……………	80
(2) 相談の有無……………	86
(3) 相談先……………	87
(4) 相談しなかった理由……………	88
第9章 男女共同参画社会の実現について	
1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知……………	89
2. 「男女共同参画社会」を実現するために行政が今後力を入れること……………	92
Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題……………	95
◎ 参考資料	
使用した調査票……………	107

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は「第3次ちくしの男女共同参画プラン」の策定にあたり、市民の男女平等に関する意識と実態を把握し、今後の施策検討の基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の内容

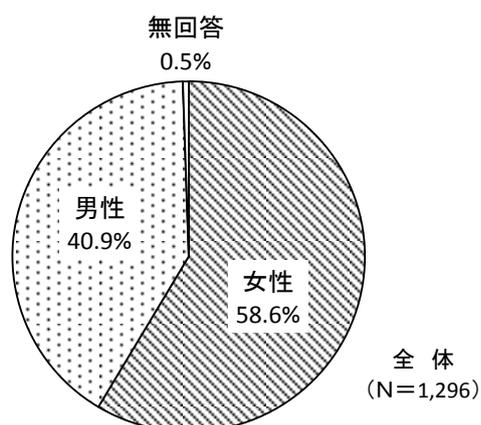
- (1) 男女平等に関する考え方について
- (2) 子育て・教育について
- (3) 家庭に関することがらについて
- (4) 防災に関することについて
- (5) 仕事について
- (6) 社会活動などへの参加・参画について
- (7) 慣習・しきたりについて
- (8) 暴力などの人権侵害について
- (9) 男女共同参画社会の実現について

3. 調査の性格

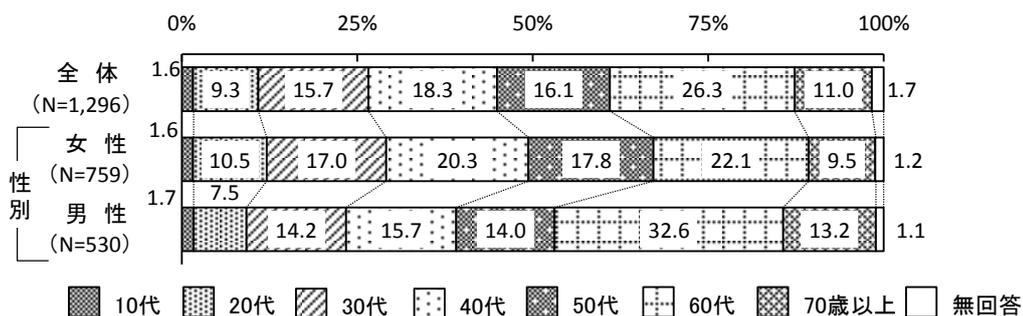
- | | |
|-------------------|------------------------------|
| (1) 調査地域 | 筑紫野市全域 |
| (2) 調査対象者 | 18歳以上の男女 3,000人 |
| (3) 回収率 | 有効回収数 1,296人 (有効回収率 43.2%) |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 調査方法 | 郵送法 |
| (6) 調査期間 | 平成28年11月11日(金)～12月13日(火) |
| (7) 調査企画 | 筑紫野市市民生活部男女共同参画推進課 |
| (8) 調査の実施 | 特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所 |
| (9) 分析の監修と
まとめ | 倉富史枝 (特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所理事) |

4. 回答者の属性

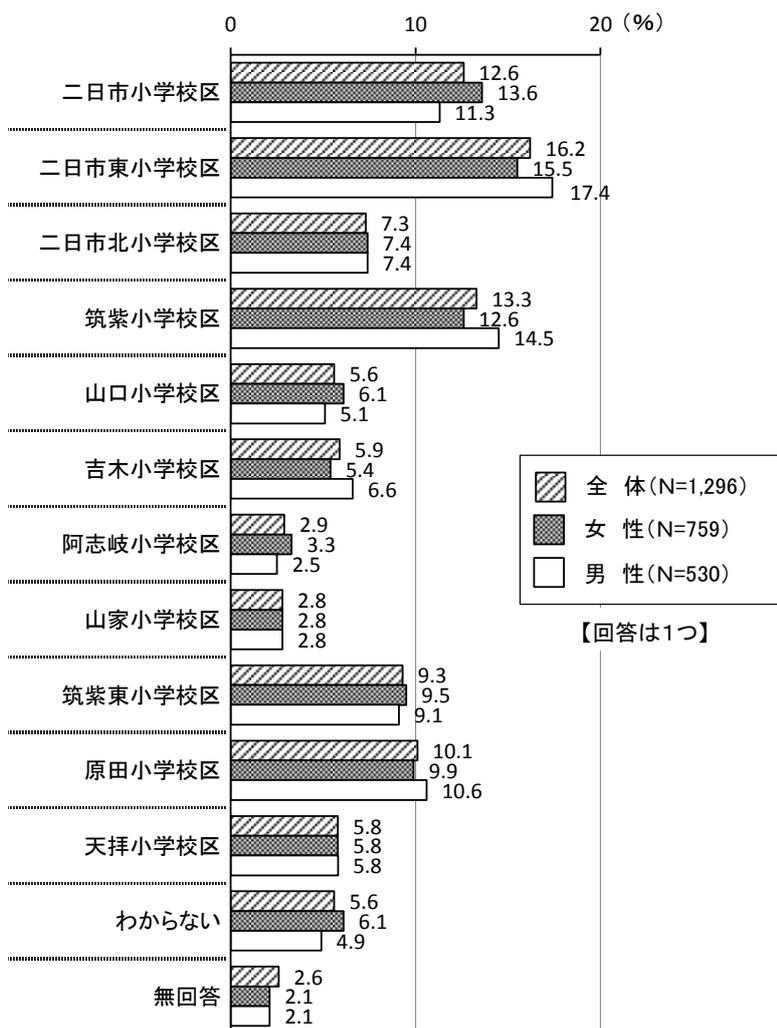
◎性別



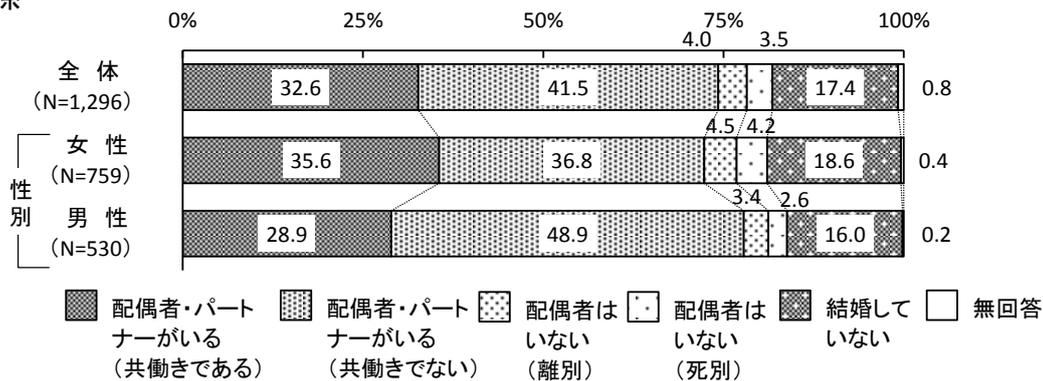
◎年代



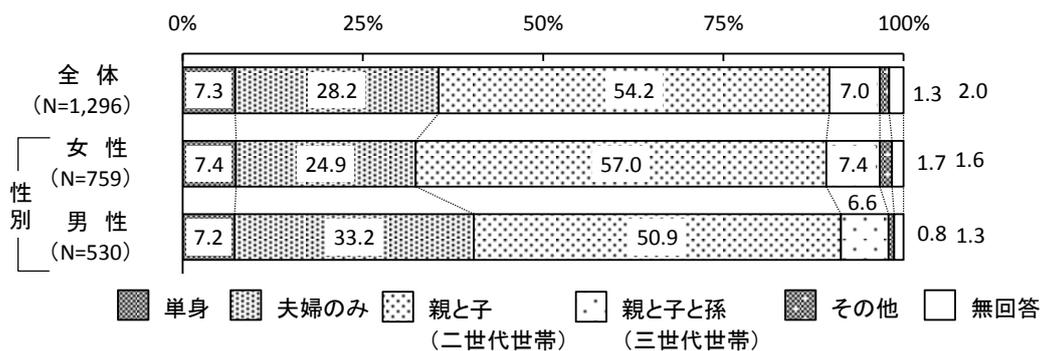
◎居住地区



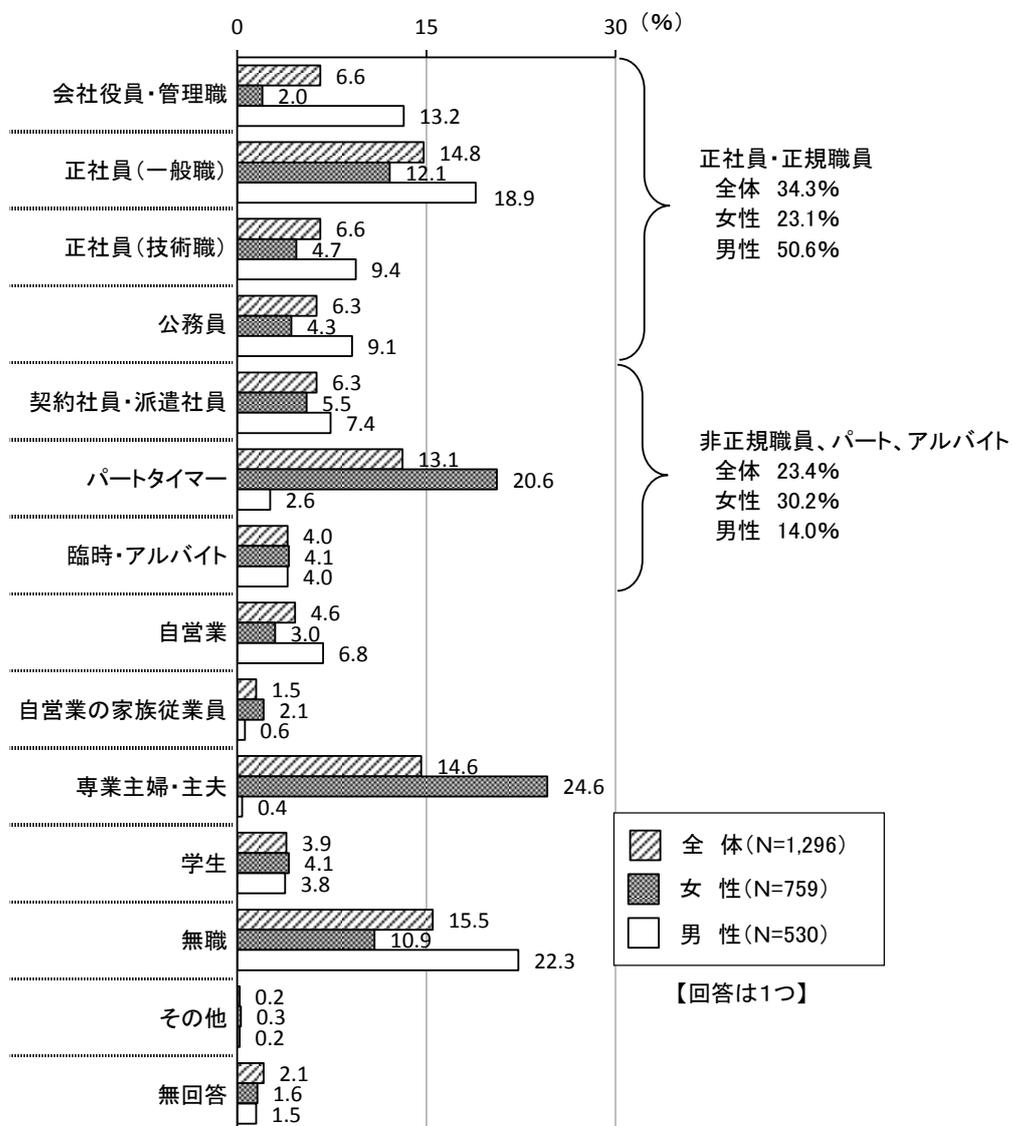
◎配偶関係



◎家族構成



◎職業や立場



5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問○-○は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (7) 今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。
 - 筑紫野市 「男女共同参画市民意識調査」平成23年9月実施
 - 福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」平成26年12月実施
 - 内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」平成28年9月実施
 - 内閣府 「男女間における暴力に関する調査」平成26年12月実施

Ⅱ 調査結果

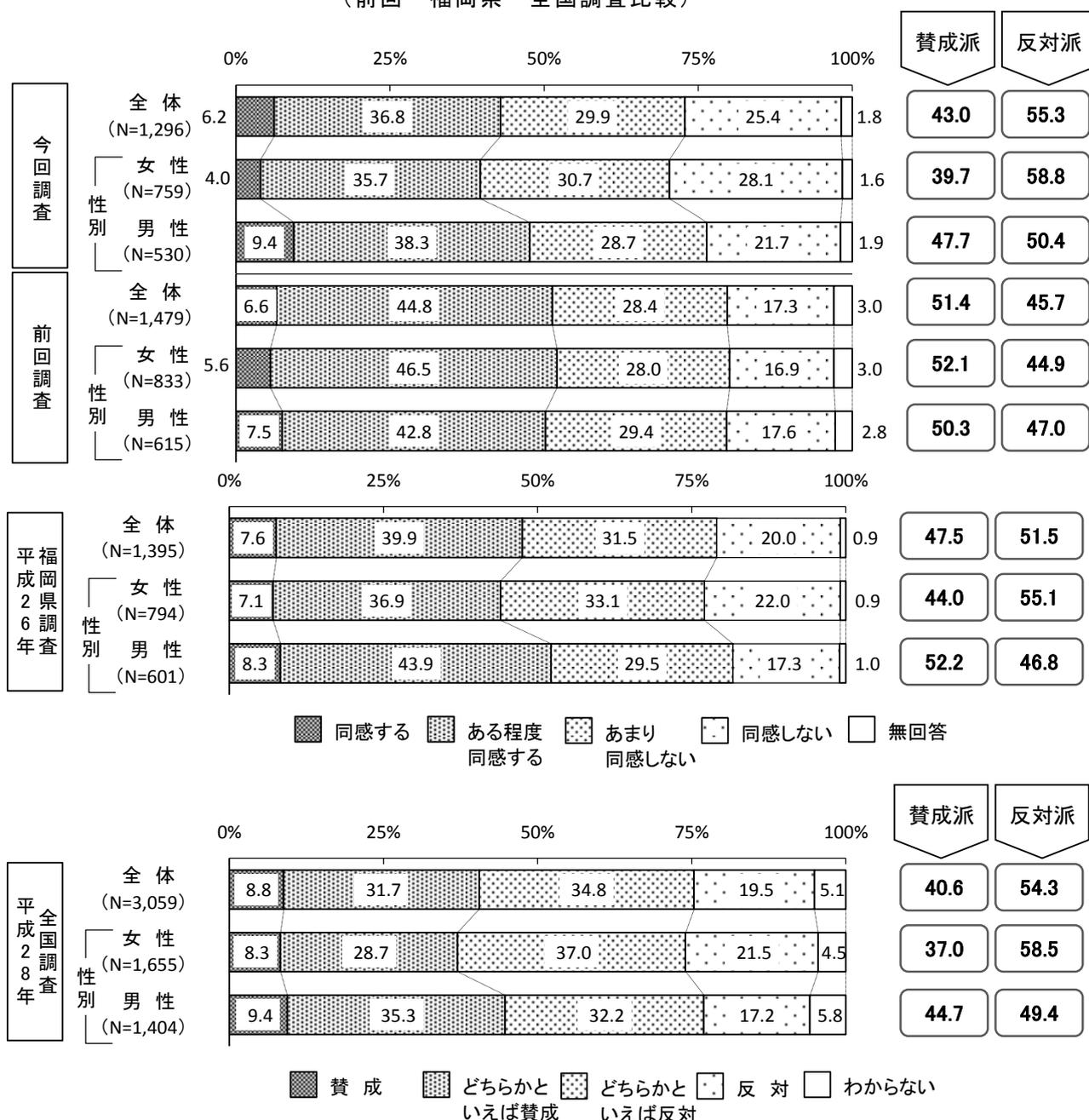
Ⅱ 調査結果

第1章 男女平等に関する考え方について

1. 性別役割分担意識

問1. 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方があります。あなたの気持ちとして、この考え方にどの程度同感しますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表1-1 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について〔全体、性別〕
(前回・福岡県・全国調査比較)



「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という、性別役割分担意識についてたずねたところ、「同感する」は6.2%、「ある程度同感する」は36.8%でこれらを合わせた『賛成派』は43.0%となっている。一方、「同感しない」は25.4%、「あまり同感しない」は29.9%でこれらを合わせた『反対派』は55.3%で、『賛成派』を12.3ポイント上回っている。

性別でみると、女性の『反対派』は58.8%に対し、男性は50.4%と女性の方が8.4ポイント高く、『賛成派』は女性が39.7%、男性が47.7%と男性の方が8ポイント上回り、男性の方が性別役割分担を容認する人が多い。

平成23年9月に実施された「筑紫野市男女共同参画市民意識調査」（以下、前回調査という）と比較すると、男女とも『反対派』の割合は増えているが、男性は3.4ポイント高くなっているのに対し、女性は13.9ポイントと、女性において性別役割分担に反対する人が大きく増えている。

平成26年12月に実施された「福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査」（以下、福岡県調査という）と比べると、『反対派』（福岡県：女性55.1%、男性46.8%）は男女とも今回調査の方が約4ポイント高く、性別役割分担意識を容認しない人は本市の方がやや多い。

平成28年9月に実施された内閣府の「男女共同参画に関する世論調査」（以下、全国調査という）と比べると、設問項目が異なるため正確な比較はできないが、『反対派』は男女とも同じ程度であるものの、『賛成派』は今回調査の方が男女とも約3ポイント高くなっている。

年代別でみると、男女とも年代が低い層では『反対派』の割合が6割を超えて高くなり、高い層では『賛成派』の割合が5割から6割台と高くなる傾向にある。『賛成派』の割合が『反対派』の割合を上回るのは、女性は70歳以上のみであるが、男性は60代と70歳以上で上回り、これらの年代で性別役割分担を容認する人が多い。

図表1-2 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について〔全体、年代別〕
(%)

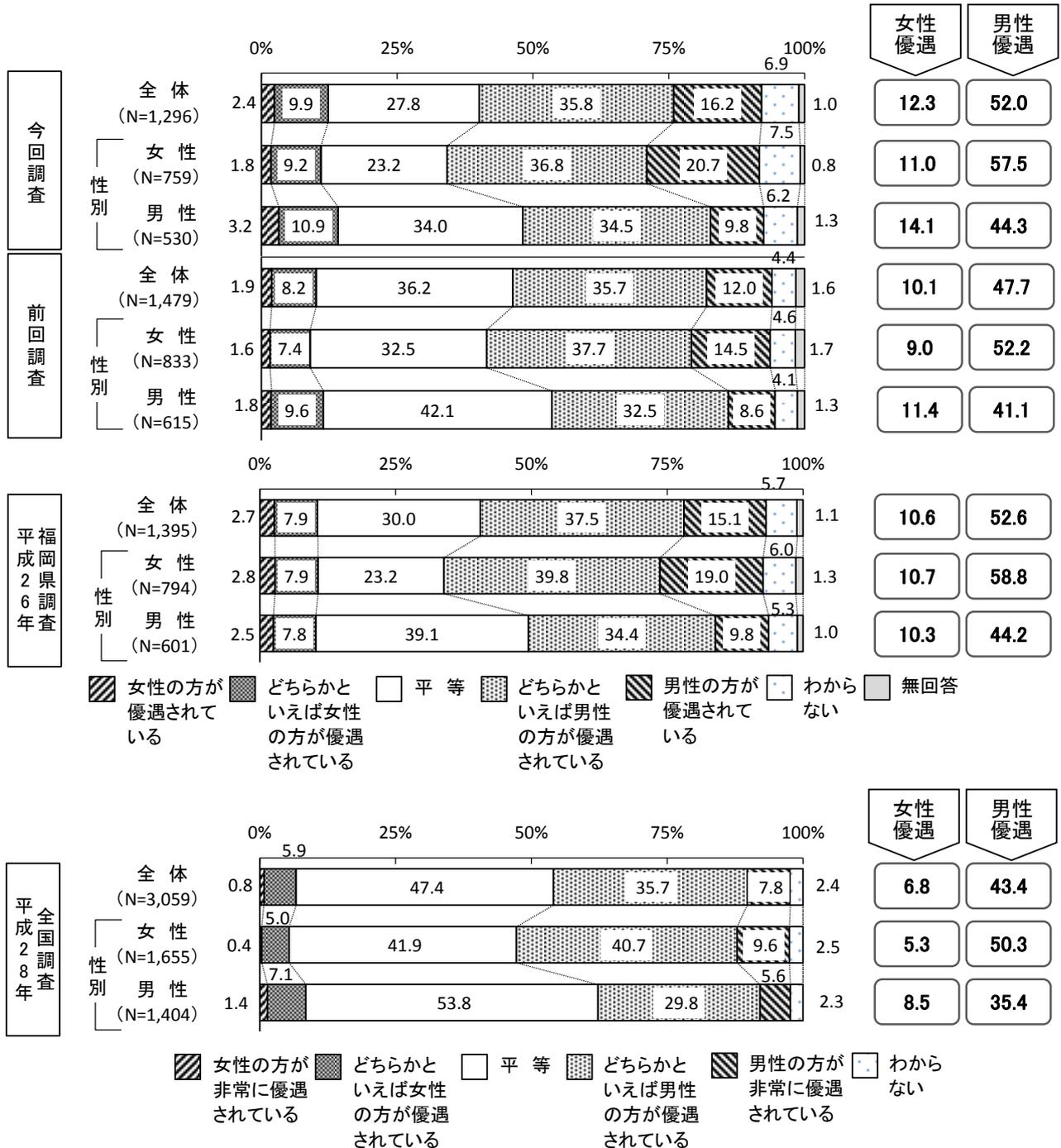
		標本数	同感する	ある程度同感	あまり同感しない	同感しない	無回答	『賛成派』	『反対派』
全体		1,296 100.0	80 6.2	477 36.8	387 29.9	329 25.4	23 1.8	557 43.0	716 55.3
年代別	女性:10・20代	92	6.5	26.1	40.2	27.2	-	32.6	67.4
	女性:30代	129	2.3	34.9	30.2	31.0	1.6	37.2	61.2
	女性:40代	154	0.6	35.7	34.4	26.6	2.6	36.3	61.0
	女性:50代	135	5.9	37.0	27.4	28.1	1.5	42.9	55.5
	女性:60代	168	3.6	38.1	29.8	26.8	1.8	41.7	56.6
	女性:70歳以上	72	6.9	43.1	18.1	30.6	1.4	50.0	48.7
	男性:10・20代	49	6.1	28.6	34.7	30.6	-	34.7	65.3
	男性:30代	75	6.7	30.7	37.3	25.3	-	37.4	62.6
	男性:40代	83	3.6	43.4	32.5	19.3	1.2	47.0	51.8
	男性:50代	74	6.8	36.5	33.8	20.3	2.7	43.3	54.1
	男性:60代	173	11.0	41.0	23.7	21.4	2.9	52.0	45.1
	男性:70歳以上	70	21.4	42.9	15.7	17.1	2.9	64.3	32.8
	無回答	22	4.5	31.8	40.9	18.2	4.5	36.3	59.1

2. 男女の地位の平等感

問2. あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
 ①～⑧のそれぞれについて、あなたの気持ちに近いものを1つ選び番号に○
 印をつけてください。

①家庭生活で

図表1-3 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別]
 (前回・福岡県・全国調査比較)



「家庭生活」における男女の地位について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は35.8%と最も高く、「男性の方が優遇されている」(16.2%)を合わせた『男性優遇』は52.0%と半数を超えている。「平等」は27.8%、「女性の方が優遇されている」(2.4%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(9.9%)を合わせた『女性優遇』は12.3%と低い。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は57.5%に対し、男性は44.3%と女性の方が13.2ポイント高く、男性の「平等」は34.0%に対し、女性は23.2%と男性の方が10.8ポイント高くなるなど、女性は「家庭生活」では男性の方が優遇されていると感じているが、男性は女性が感じるほど自身が優遇されていると感じておらず、平等であると感じているようである。

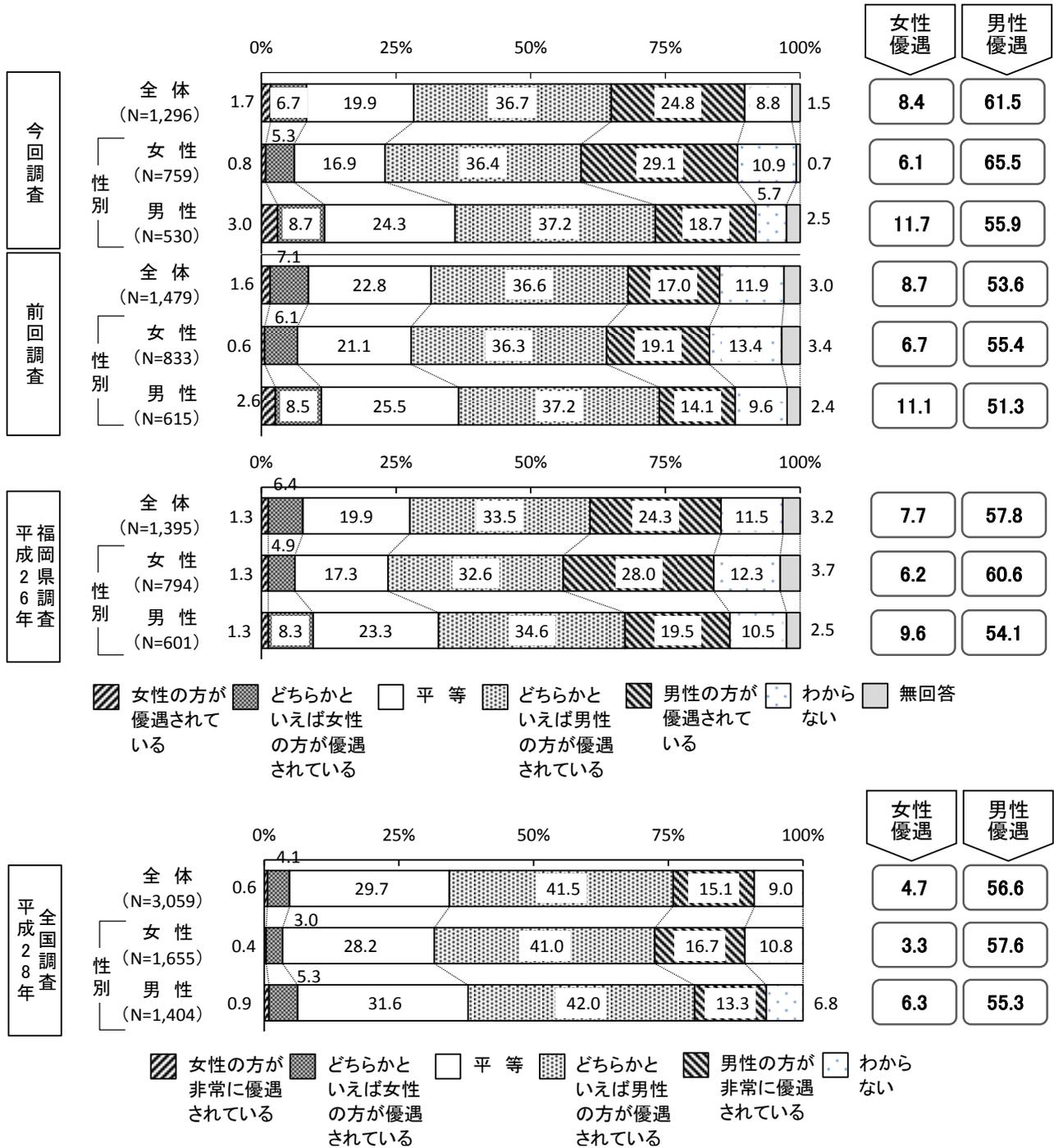
前回調査と比べると、男女とも「平等」の割合が約8～9ポイント減り、『男性優遇』が約3～5ポイント、『女性優遇』もやや増えており、不平等感は男女とも今回調査の方が強くなっている。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』『平等』の割合は男女とも同様の結果となっている。

全国調査と比べると、男女とも「平等」の割合は約19～20ポイント今回調査の方が低く、『男性優遇』の割合は約7～9ポイント高くなるなど、全国に比べ男性は優遇されているという認識が男女とも高くなっている。

②職場で

図表1-4 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「職場」における男女の地位については、『男性優遇』は61.5%、「平等」は19.9%となっており、不平等感は強い。

性別でみると、女性の『男性優遇』は65.5%であるのに対し、男性は55.9%と女性の方が9.6ポイント上回っている。男性は「平等」が24.3%であるのに対し、女性は16.9%と男性の方が7.4ポイント上回り、また『女性優遇』も男性が11.7%と女性(6.1%)を5.6ポイント上回るなど、性別による違いがみられる。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が増えているが、男性は4.6ポイント高くなっているのに対し、女性は10.1ポイント増、特にそのうち「男性の方が優遇されている」が10ポイント高くなっており不平等感が強くなっている。

福岡県調査と比べると、女性で『男性優遇』の割合が今回調査の方が4.9ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、男女とも「平等」の割合が今回調査の方が約7～11ポイント低く、『男性優遇』の割合は女性で7.9ポイント高いなど、今回調査の女性で不平等感が強くなっている。

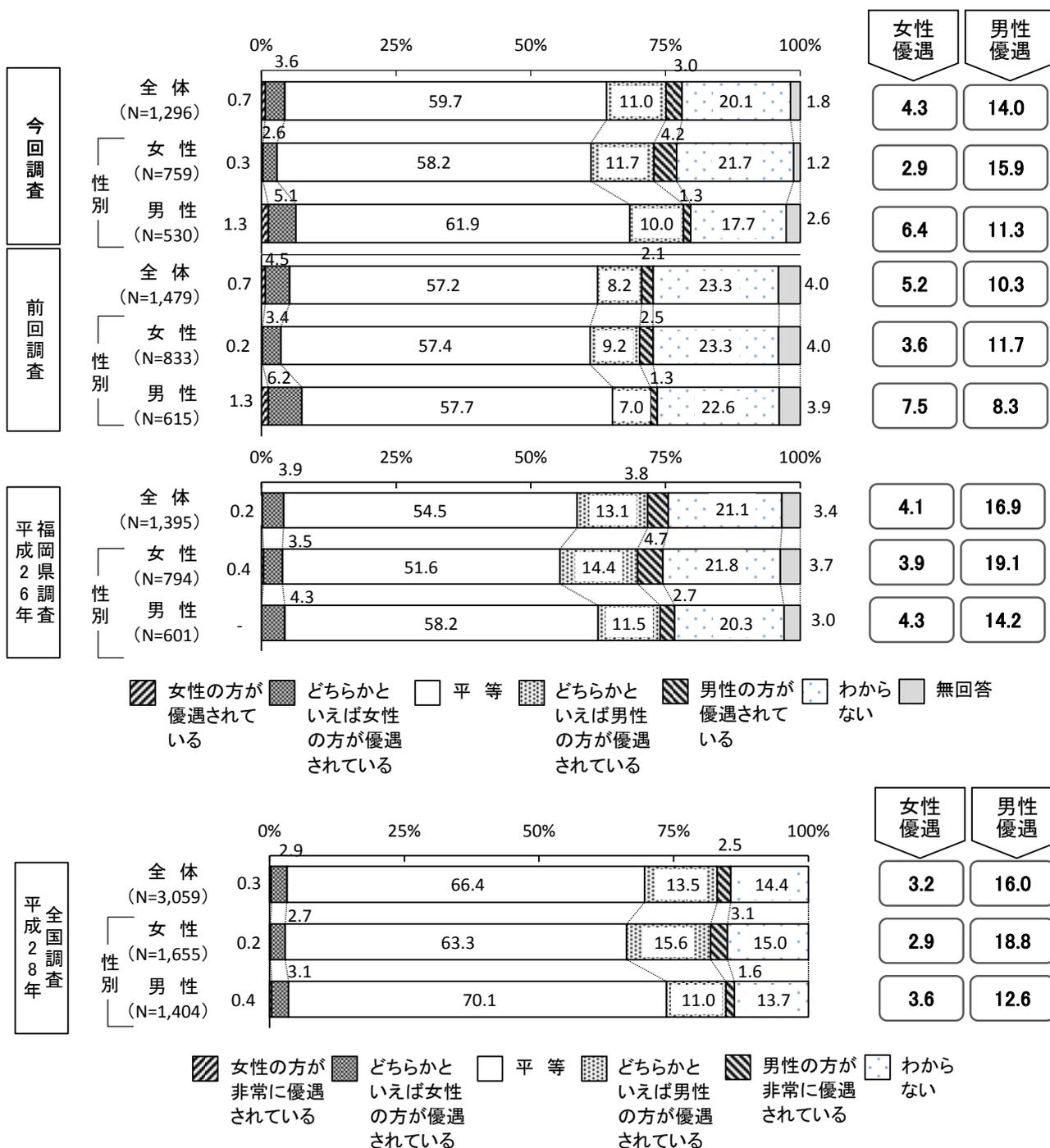
職業や立場別でみると、女性の契約社員・派遣社員や臨時・アルバイト、専業主婦などで『男性優遇』が7割を超えており、また自営業でも約7割で高率となっている。

図表1-5 職場での男女の地位の平等感 [全体、職業や立場別]

		標本数	女性の方が優遇	どちらか一方が優え	平等	どちらか一方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		1,296 100.0	22 1.7	87 6.7	258 19.9	475 36.7	321 24.8	114 8.8	19 1.5	109 8.4	796 61.5
職業や立場別	女性:会社役員・管理職	15	-	13.3	33.3	40.0	13.3	-	-	13.3	53.3
	女性:正社員(一般職)	92	2.2	3.3	25.0	30.4	30.4	8.7	-	5.5	60.8
	女性:正社員(技術職)	36	-	11.1	30.6	33.3	19.4	5.6	-	11.1	52.7
	女性:公務員	33	3.0	15.2	33.3	30.3	12.1	3.0	3.0	18.2	42.4
	女性:契約社員・派遣社員	42	-	4.8	16.7	47.6	23.8	7.1	-	4.8	71.4
	女性:パートタイマー	156	-	7.1	23.7	34.0	28.2	7.1	-	7.1	62.2
	女性:臨時・アルバイト	31	-	6.5	12.9	32.3	41.9	6.5	-	6.5	74.2
	女性:自営業	23	-	4.3	4.3	43.5	26.1	21.7	-	4.3	69.6
	女性:自営業の家族従業員	16	-	6.3	25.0	31.3	31.3	6.3	-	6.3	62.6
	女性:専業主婦	187	-	1.1	4.3	46.0	31.6	15.5	1.6	1.1	77.6
	女性:学生	31	-	6.5	25.8	22.6	22.6	22.6	-	6.5	45.2
	女性:無職	83	3.6	2.4	8.4	31.3	37.3	15.7	1.2	6.0	68.6
	女性:その他	2	-	50.0	-	-	50.0	-	-	50.0	50.0
	男性:会社役員・管理職	70	2.9	11.4	20.0	32.9	25.7	5.7	1.4	14.3	58.6
	男性:正社員(一般職)	100	5.0	10.0	26.0	36.0	18.0	5.0	-	15.0	54.0
	男性:正社員(技術職)	50	6.0	12.0	28.0	36.0	14.0	2.0	2.0	18.0	50.0
	男性:公務員	48	4.2	16.7	29.2	31.3	16.7	2.1	-	20.9	48.0
	男性:契約社員・派遣社員	39	-	10.3	28.2	38.5	15.4	7.7	-	10.3	53.9
	男性:パートタイマー	14	-	-	28.6	50.0	21.4	-	-	-	71.4
	男性:臨時・アルバイト	21	-	9.5	19.0	47.6	14.3	4.8	4.8	9.5	61.9
男性:自営業	36	2.8	5.6	30.6	38.9	16.7	2.8	2.8	8.4	55.6	
男性:自営業の家族従業員	3	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	
男性:専業主婦	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	
男性:学生	20	5.0	-	35.0	25.0	10.0	20.0	5.0	5.0	35.0	
男性:無職	118	0.8	5.1	18.6	38.1	22.9	7.6	6.8	5.9	61.0	
男性:その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	
無回答	27	3.7	11.1	14.8	33.3	22.2	11.1	3.7	14.8	55.5	

③学校教育の場で

図表1-6 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「学校教育の場」における男女の地位については、「平等」が 59.7%と全ての分野の中で唯一5割を超え最も高くなっている。一方で「わからない」も 20.1%と8分野中最も高く、学校教育の場は平等であるという認識はあるものの、実態は把握しにくい様子がかがわれる。

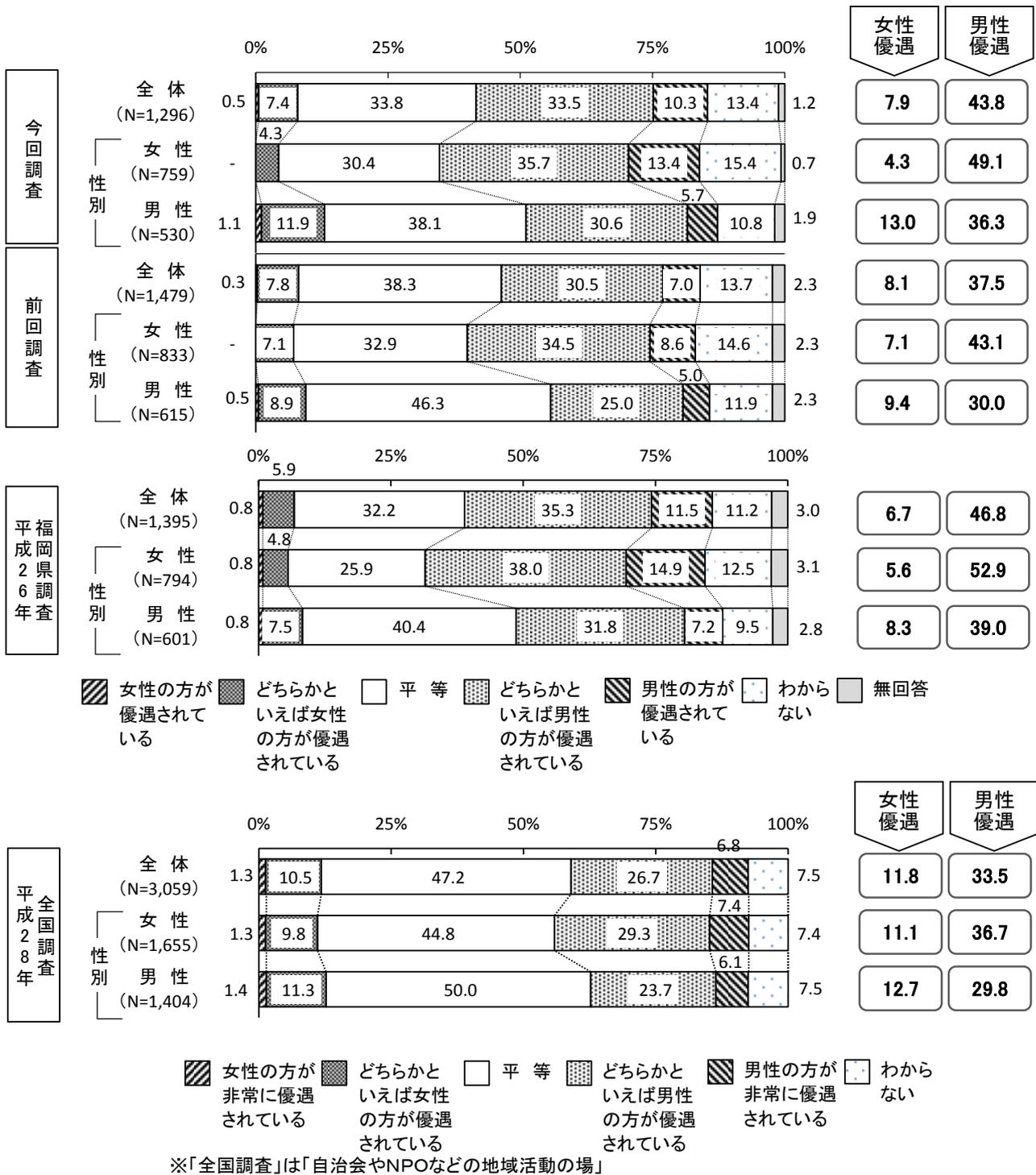
前回調査と比べると、男女とも「平等」がやや増えながらも『男性優遇』も増えている。

福岡県調査と比べると、男女とも「平等」は今回調査の方が高く、女性で 6.6 ポイント、男性で 3.7 ポイント高くなっている。

しかし、全国調査と比べると、「平等」は今回調査の方が男女とも低く、女性で 5.1 ポイント、男性で 8.2 ポイント低くなっている。

④地域活動・社会活動の場で

図表1-7 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「地域活動・社会活動の場」における男女の地位については、『男性優遇』は43.8%、「平等」は33.8%と、「学校教育の場」に次いで『男性優遇』の割合は低く、「平等」の割合は高くなっている。

性別でみると、女性は『男性優遇』が49.1%と5割近くであるのに対し、男性は36.3%と12.8ポイントの差がある。また、「平等」は女性が30.4%であるのに対し、男性は38.1%と7.7ポイント差、『女性優遇』は女性が4.3%で、男性は13.0%と8.7ポイント差など男女の認識の差は大きい。

前回調査と比べると、女性は『女性優遇』と「平等」がやや低くなり、『男性優遇』が6ポイント高くなっている。男性は、「平等」が8.2ポイント低くなり、『男性優遇』が6.3ポイント、『女性優遇』が2.6ポイント高くなるなど、前回調査に比べ不平等感が強くなっている。

福岡県調査と比べると、「平等」は今回調査の女性の方が4.5ポイント高く、『男性優遇』は3.8ポイント低くなっている。一方、男性は「平等」『男性優遇』とも今回調査の方がやや低く、『女性優遇』が4.7ポイント高くなっている。

全国調査（「自治会やNPOなどの地域活動の場」）と比べると、男女とも「平等」は10ポイント以上今回調査の方が低く、『男性優遇』は女性で12.4ポイント、男性で6.5ポイント高いなど、地域活動や社会活動の場での不平等感は、全国調査よりも強くなっている。

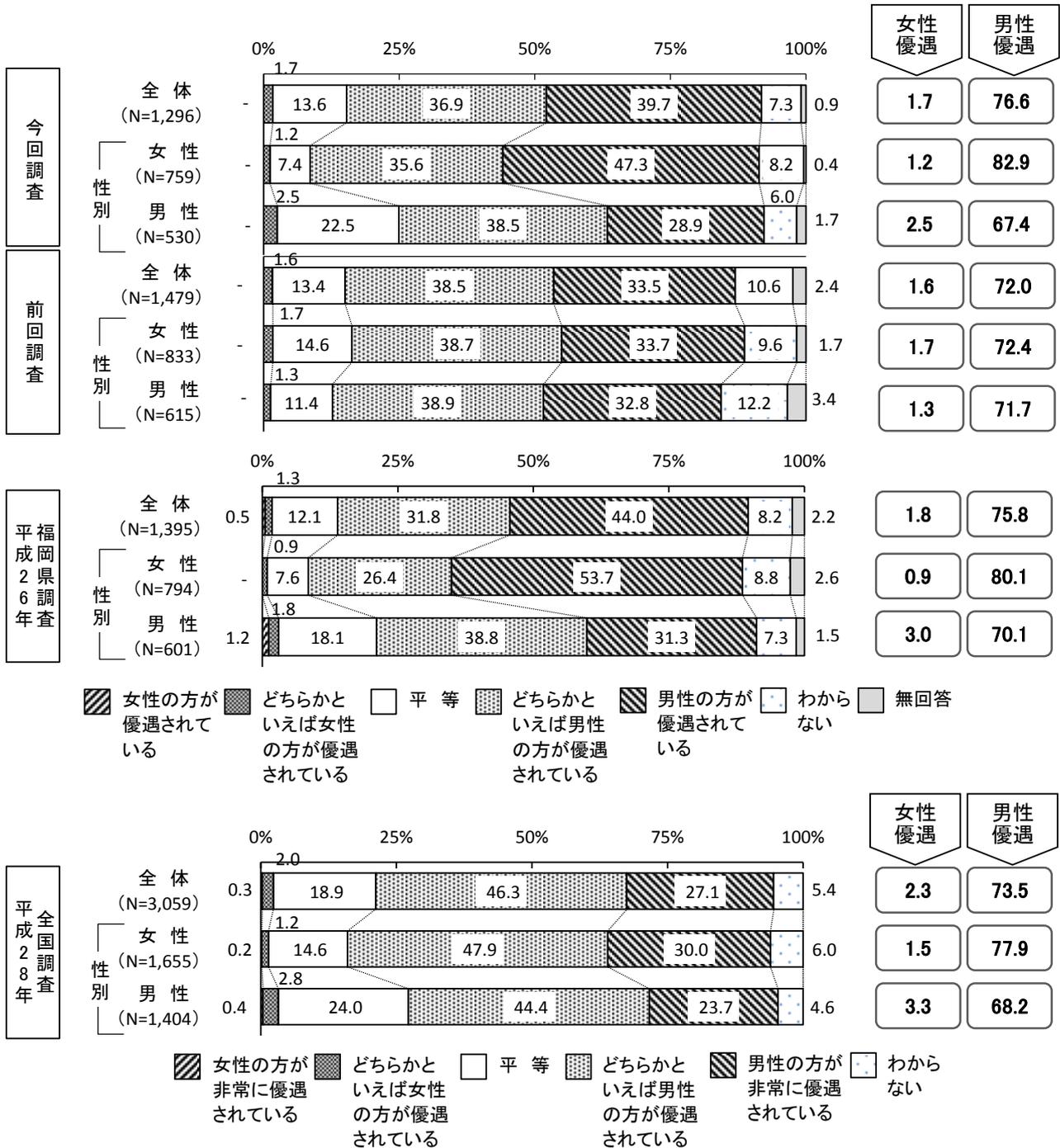
年代別でみると、女性は40代以上の年代で『男性優遇』は5割を超えており、特に60代では58.4%と6割近くとなっている。男性は60代以上で『男性優遇』が4割台であるのが、その他の年代では2割から3割台と低く、「平等」は10・20代では4割半ば、40代と50代では約4割と高くなっている。また、70歳以上を除くすべての年代で『女性優遇』が1割を超えている。

図表1-8 地域活動・社会活動での男女の地位の平等感 [全体、年代別]

		標本数	い る 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	の ど 方 が ら か 優 遇 さ れ て い る 女 性	平 等	の ど 方 が ら か 優 遇 さ れ て い る 男 性	い る 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て	わ か ら な い	無 回 答	『 女 性 優 遇 』	『 男 性 優 遇 』
全 体		1,296 100.0	6 0.5	96 7.4	438 33.8	434 33.5	133 10.3	174 13.4	15 1.2	102 7.9	567 43.8
年 代 別	女性:10・20代	92	-	6.5	31.5	20.7	5.4	35.9	-	6.5	26.1
	女性:30代	129	-	4.7	30.2	31.0	11.6	22.5	-	4.7	42.6
	女性:40代	154	-	3.9	29.9	38.3	13.0	14.3	0.6	3.9	51.3
	女性:50代	135	-	1.5	36.3	41.5	13.3	7.4	-	1.5	54.8
	女性:60代	168	-	5.4	24.4	40.5	17.9	10.7	1.2	5.4	58.4
	女性:70歳以上	72	-	4.2	31.9	36.1	18.1	6.9	2.8	4.2	54.2
	男性:10・20代	49	2.0	10.2	46.9	18.4	4.1	14.3	4.1	12.2	22.5
	男性:30代	75	-	14.7	33.3	32.0	5.3	14.7	-	14.7	37.3
	男性:40代	83	1.2	13.3	39.8	27.7	2.4	13.3	2.4	14.5	30.1
	男性:50代	74	5.4	5.4	41.9	21.6	9.5	14.9	1.4	10.8	31.1
	男性:60代	173	-	13.3	35.3	37.0	6.9	5.8	1.7	13.3	43.9
	男性:70歳以上	70	-	8.6	38.6	35.7	4.3	10.0	2.9	8.6	40.0
無回答		22	-	18.2	50.0	22.7	9.1	-	-	18.2	31.8

⑤政治の場で

図表1-9 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「政治の場」における男女の地位については、『男性優遇』は76.6%と8分野中2番目に高くなっており、男性が優遇されていると強く認識されている。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は82.9%と8分野中最も高くなっているのに対し、男性は67.4%と15.5ポイントの差がある。また、「平等」は女性では7.4%と1割に満たないが、男性は22.5%と2割を超え15.1ポイントの差があり、女性は強く男性の方が優遇されていると認識していることがわかる。

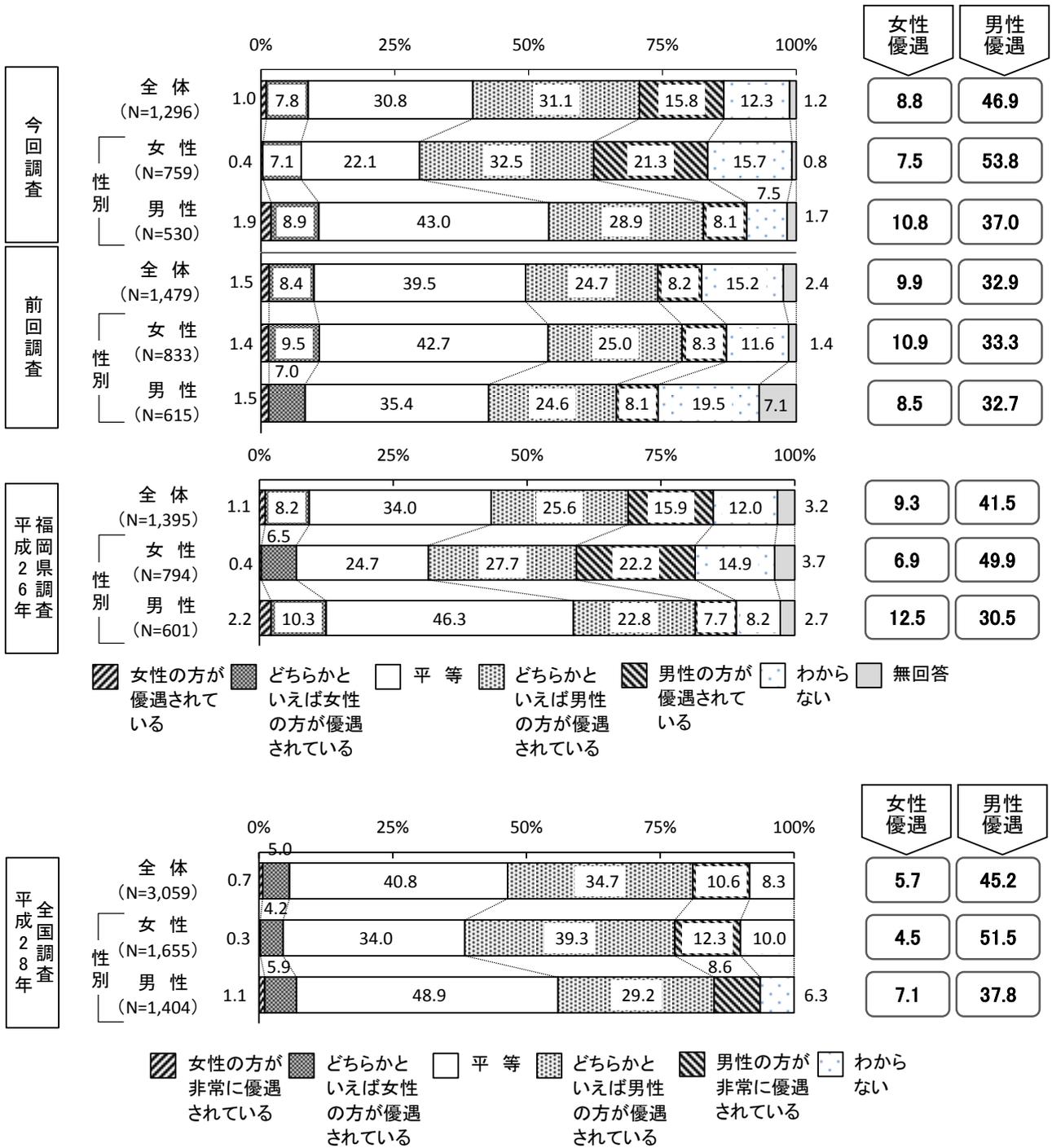
前回調査と比べると、女性は『男性優遇』が10.5ポイント高くなっているが、反対に男性は4.3ポイント低くなり、「平等」が11.1ポイント高くなっている。男女での認識の差が前回調査よりも大きくなっている。

福岡県調査と比べると、男性は今回調査の方が『男性優遇』はやや低く、「平等」がやや高いなど、福岡県ほど男性が優遇されているとの認識はないようである。

全国調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方が5ポイント高く、「平等」は7.2ポイント低い。全国と比べても今回調査の女性の政治の場における男性優遇の認識は強いものとなっている。

⑥ 法律や制度のうえで

図表1-10 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「法律や制度のうえ」における男女の地位については、『男性優遇』は 46.9%、「平等」が 30.8%と「地域活動・社会活動の場」に次いで、『男性優遇』は低く、「平等」が高くなっている。

性別で見ると、女性の『男性優遇』は 53.8%と 5割を超えているが、男性は 37.0%と 16.8ポイント差、「平等」は女性が 22.1%に対し、男性は 43.0%と 20.9ポイント差など男女差が大きく、認識の違いが明らかとなっている。

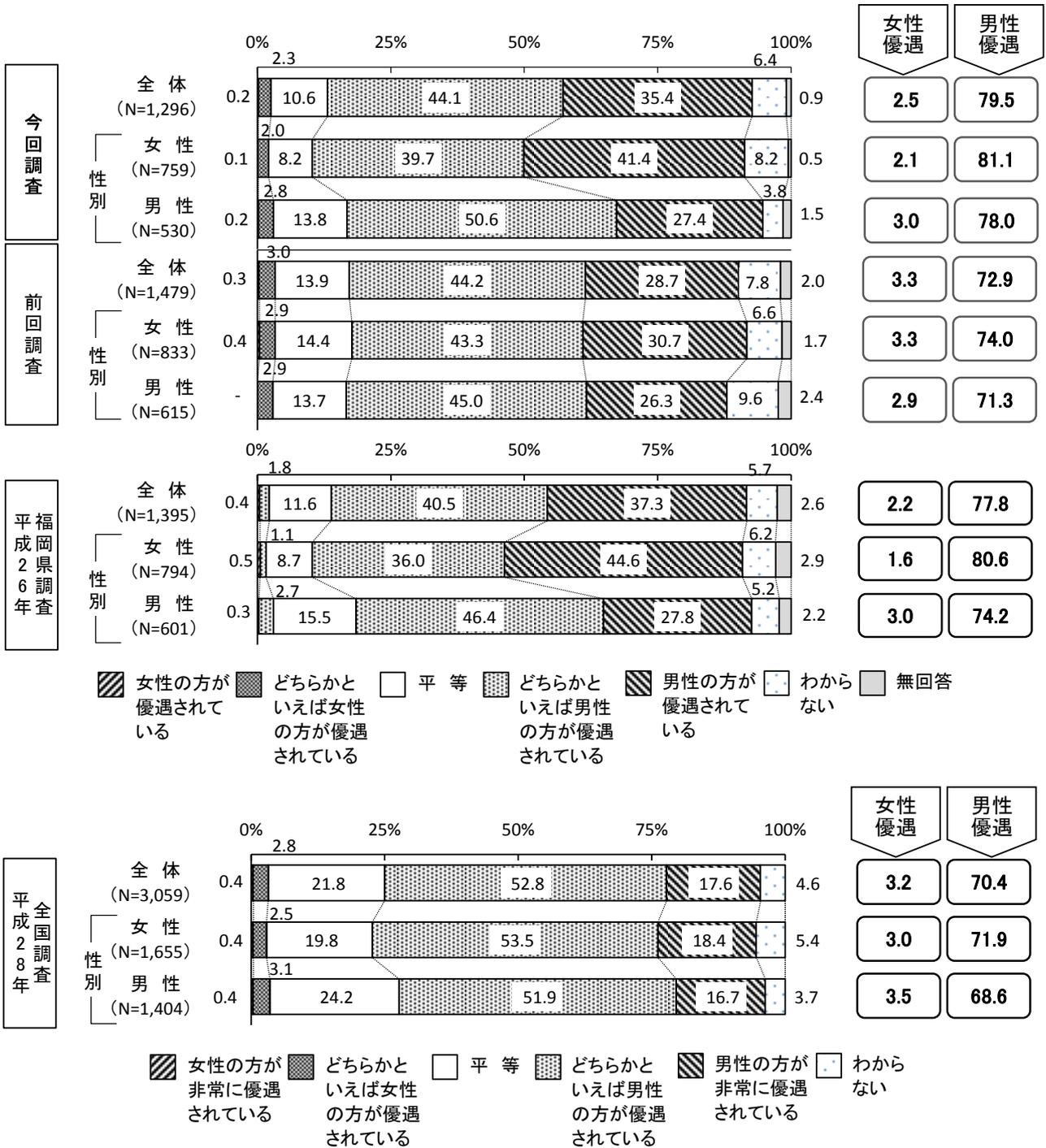
前回調査と比べると、女性は「平等」が 20.6ポイントも低くなり、『男性優遇』が 20.5ポイント高くなっている。一方、男性は「わからない」の割合が低くなり、「平等」が 7.6ポイント、『男性優遇』が 4.3ポイント高くなっている。女性において、前回調査よりも不平等感は強くなっている。

福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合は今回調査の方が約 4～7ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、男女とも「平等」の割合は今回調査の方が低くなっている。

⑦ 社会通念・習慣・しきたりなどで

図表1-11 法律や制度のうえ社会通念・習慣・しきたりなどでの男女の地位の平等感
[全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



「社会通念・慣習・しきたりなど」における男女の地位については、『男性優遇』は79.5%と全ての分野の中で最も高く、「平等」は10.6%と最も低くなっており、男性優遇との認識が強い分野となっている。

性別で見ると、『男性優遇』は女性で81.1%と8割を超えており、男性でも78.0%と8割近くとなっており、男女ともに社会通念や慣習、しきたりなどについては男性が優遇されているとの認識が強いことがわかる。

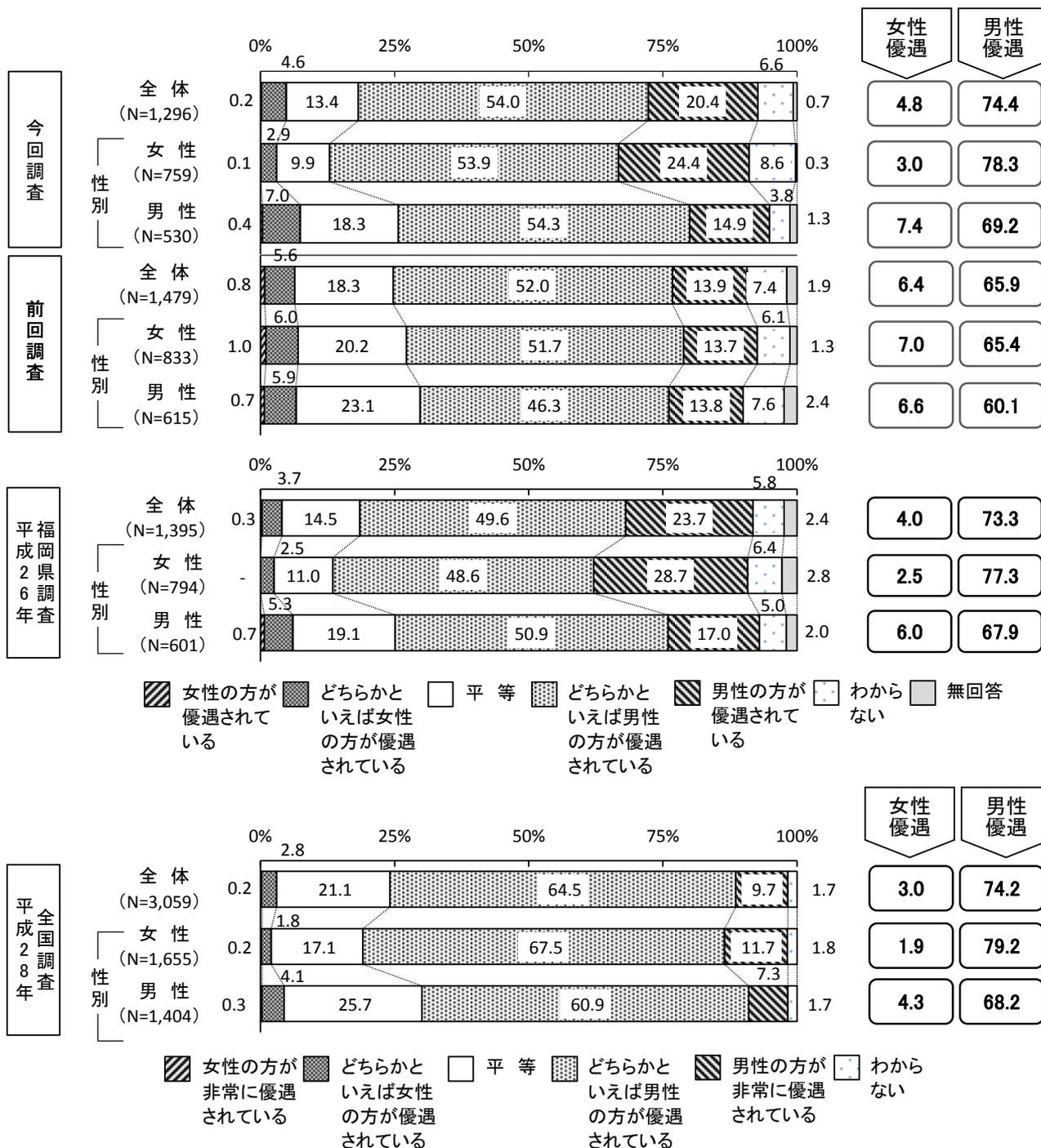
前回調査と比べると、女性は「平等」が6.2ポイント低くなり、『男性優遇』が7.1ポイント増で、特にそのうち「男性の方が優遇されている」は10.7ポイント高くなっている。男性も『男性優遇』が6.7ポイント高くなっているが、そのうち「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が5.6ポイント高くなっている。女性において、不平等感は前回調査よりも強くなっている。

福岡県調査と比べると、女性はほぼ同様の結果となっており、男性は『男性優遇』の割合が今回調査の方がやや高くなっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が『男性優遇』の割合は男女とも約9ポイント高く、「平等」は約10ポイント低いなど全国に比べて男性優遇の認識は強くなっている。

⑧ 社会全体で見た場合

図表1-12 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



「社会全体で見た場合」の男女の地位については、『男性優遇』は 74.4%と全ての分野の中で3番目に高くなっている。「平等」は 13.4%と2番目に低くなっており、男性が優遇されている社会と認識されていることがわかる。

前回調査と比べると、男女とも「平等」が約5～10ポイント低くなり、『男性優遇』が約9～13ポイント高くなっている。男女とも不平等感は、前回調査よりも強くなっている。

福岡県調査と比べると、男女ともほぼ同様の結果となっている。

全国調査と比べると、『男性優遇』の割合は男女とも同程度であるが、今回調査では『男性優遇』のうち「男性の方が優遇されている」の割合が全国調査よりも約8～13ポイント高く、「平等」の割合は今回調査の方が約7ポイント低くなるなど、不平等感は今回調査の方が強いといえる。

年代別でみると、女性の50代で『男性優遇』が83.7%と最も高く、その前後の年代でも8割を超え、30代と70歳以上でも8割近くと高率である。男性は10・20代と40代で「平等」が3割前後と他の年代に比べると高く、『男性優遇』の割合は約5割から6割弱と他の年代に比べて低くなっている。

図表1-13 社会全体で見た場合の男女の地位の平等感 [全体、年代別]

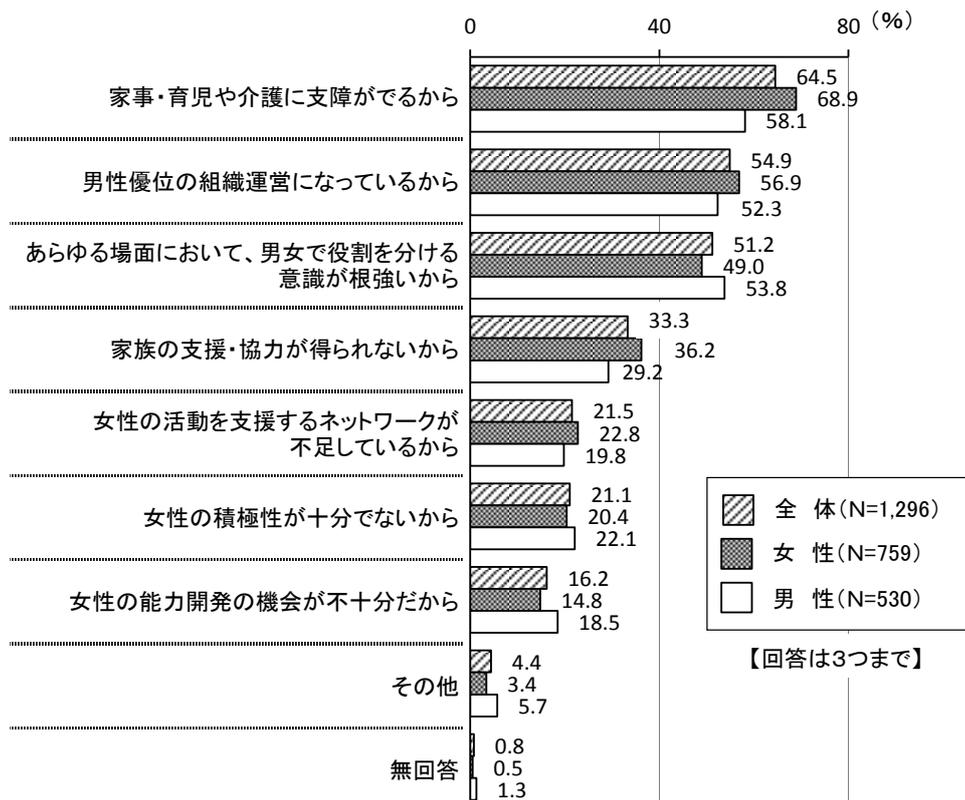
(%)

		標本数	い女性の方が優遇されている	のどちがら優遇さ い女性	平等	のどちがら優遇さ い男性	い男性の方が優遇されている	わからない	無回答	『女性優遇』	『男性優遇』
全体		1,296 100.0	3 0.2	60 4.6	174 13.4	700 54.0	264 20.4	86 6.6	9 0.7	63 4.8	964 74.4
年代別	女性:10・20代	92	1.1	4.3	19.6	43.5	13.0	18.5	-	5.4	56.5
	女性:30代	129	-	3.1	9.3	52.7	26.4	8.5	-	3.1	79.1
	女性:40代	154	-	1.9	9.1	55.2	25.3	7.8	0.6	1.9	80.5
	女性:50代	135	-	2.2	7.4	57.0	26.7	6.7	-	2.2	83.7
	女性:60代	168	-	2.4	7.7	53.0	28.6	8.3	-	2.4	81.6
	女性:70歳以上	72	-	5.6	11.1	61.1	18.1	2.8	1.4	5.6	79.2
	男性:10・20代	49	-	10.2	30.6	34.7	14.3	10.2	-	10.2	49.0
	男性:30代	75	-	14.7	12.0	56.0	12.0	5.3	-	14.7	68.0
	男性:40代	83	-	6.0	28.9	47.0	10.8	6.0	1.2	6.0	57.8
	男性:50代	74	1.4	5.4	10.8	63.5	16.2	1.4	1.4	6.8	79.7
	男性:60代	173	-	5.2	16.2	58.4	16.2	2.3	1.7	5.2	74.6
	男性:70歳以上	70	1.4	2.9	17.1	54.3	20.0	1.4	2.9	4.3	74.3
無回答		22	-	9.1	13.6	59.1	13.6	4.5	-	9.1	72.7

3. 政策・方針決定の場で女性が少ない理由

問3. 女性の社会進出は進みつつありますが、政策・方針決定の場にはまだまだ女性が少ないのが現状です。そこにはどのような理由があると思いますか。あてはまるものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

図表1-14 政策・方針決定の場で女性が少ない理由 [全体、性別]



政策・方針決定の場に女性が少ない現状から、その理由をたずねたところ、「家事・育児や介護に支障がでるから」が64.5%で最も高く、次いで「男性優位の組織運営になっているから」が54.9%、「あらゆる場面において、男女で役割を分ける意識が根強いから」が51.2%と、上位3項目で5割を超えて高くなっている。

性別で見ると、女性は「家事・育児や介護に支障がでるから」「男性優位の組織運営になっているから」の上位2項目に加え、「家族の支援・協力が得られないから」(36.2%)が男性よりも約5~10ポイント高く、男性は「あらゆる場面において、男女で役割を分ける意識が根強いから」が4.8ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の40代以下で7割を超え、「男性優位の組織運営になっているから」は女性の50代と60代、男性の60代で約6割と高くなっている。「あらゆる場面において、男女で役割を分ける意識が根強いから」は男性の10・20代と70歳以上で6割台と高くなっている。その他「家族の支援・協力が得られないから」は女性の30代と40代で4割台、「女性の積極性が十分でないから」は男女の70歳以上、「女性の能力開発の機会が不十分だから」は女性の70歳以上で3割台と他の年代に比べて高くなっている。

図表1-15 政策・方針決定の場で女性が少ない理由〔全体、年代別〕

			男性優位の組織運営に	、あらゆる場面で役割を分け	家族の支援・協力が得	家事・育児や介護に支	女性の能力開発の機会	ネットワークが不足する	女性の積極性が十分で	その他	無回答
全体		1,296 100.0	711 54.9	664 51.2	432 33.3	836 64.5	210 16.2	278 21.5	274 21.1	57 4.4	11 0.8
年代別	女性:10・20代	92	54.3	57.6	25.0	70.7	14.1	17.4	15.2	1.1	-
	女性:30代	129	58.1	40.3	41.9	76.0	9.3	23.3	17.8	6.2	-
	女性:40代	154	57.8	50.6	43.5	73.4	6.5	15.6	15.6	5.8	0.6
	女性:50代	135	59.3	48.1	34.8	65.9	17.0	25.2	17.8	3.0	0.7
	女性:60代	168	61.9	46.4	35.1	65.5	15.5	29.2	27.4	1.2	1.2
	女性:70歳以上	72	40.3	54.2	33.3	61.1	34.7	25.0	30.6	2.8	-
	男性:10・20代	49	38.8	65.3	20.4	51.0	12.2	18.4	18.4	8.2	-
	男性:30代	75	49.3	56.0	24.0	58.7	14.7	21.3	17.3	12.0	-
	男性:40代	83	44.6	51.8	37.3	57.8	15.7	13.3	18.1	3.6	1.2
	男性:50代	74	52.7	43.2	32.4	62.2	20.3	14.9	20.3	5.4	1.4
男性:60代	173	60.1	50.9	31.8	59.5	21.4	23.7	20.8	5.2	1.7	
男性:70歳以上	70	55.7	61.4	22.9	55.7	21.4	22.9	38.6	1.4	2.9	
無回答		22	40.9	86.4	18.2	54.5	18.2	13.6	27.3	4.5	-

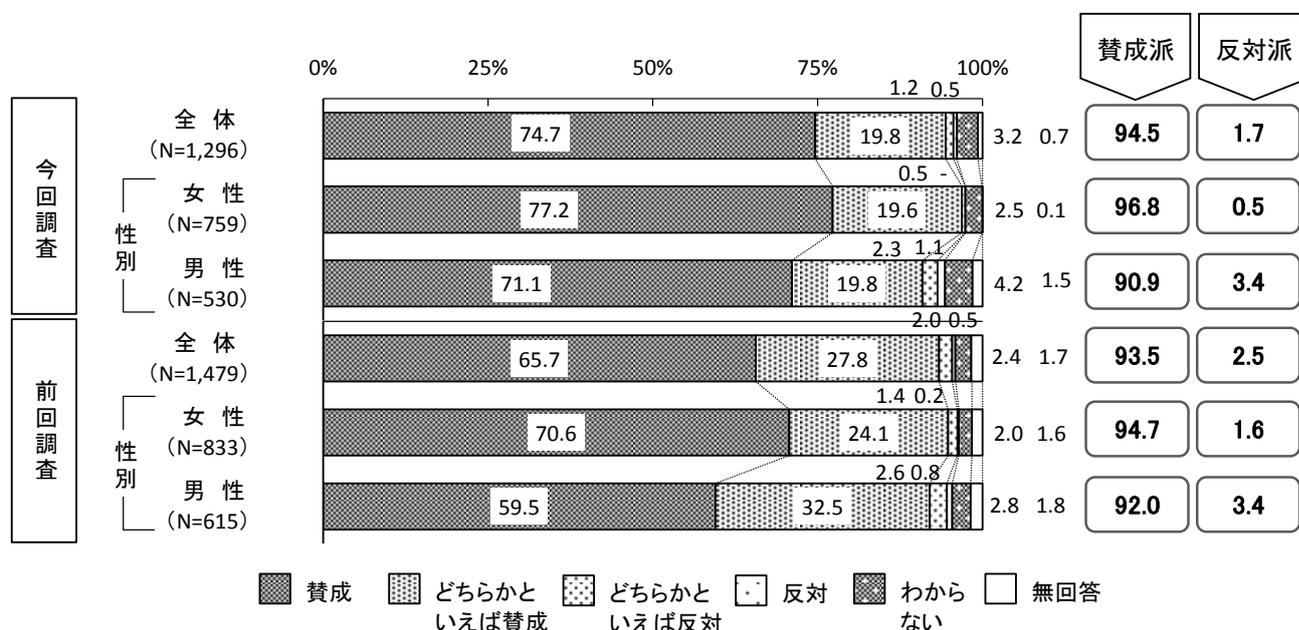
第2章 子育て・教育に関する考え方について

1. 子どもの育て方について

問4. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。次の①～③のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。【現在、子育て中でない方も、お答えください。】

①女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図表2-1 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ
[全体、性別] (前回調査比較)



子どもの育て方について、子育て中でない人にもその考え方をたずねた。「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」について、「賛成」は74.7%、「どちらかといえば賛成」は19.8%でこれらを合わせた『賛成派』は94.5%で、「反対」(0.5%)と「どちらかといえば反対」(1.2%)を合わせた『反対派』(1.7%)を大きく上回っている。

性別で見ると、男女とも『賛成派』は9割を超えているが、女性は96.8%と男性(90.9%)より5.9ポイント高く、『賛成派』のうち積極的な「賛成」も77.2%と男性より6.1ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも積極的な「賛成」が高くなっており、女性で6.6ポイント、男性では11.6ポイント高くなっている。女の子も男の子も経済的自立は大切だと考える人が前回調査よりも増えており、特に男性に多くなっている。

年代別で見ると、女性は各年代とも95%前後と高率であるが、女性の50代では積極的な「賛成」が83.7%と8割を超えている。男性は40代の95.2%をピークにそれ以下、それ以上の年代で割合は減ってきており、10・20代と30代では8割台と低くなっている。

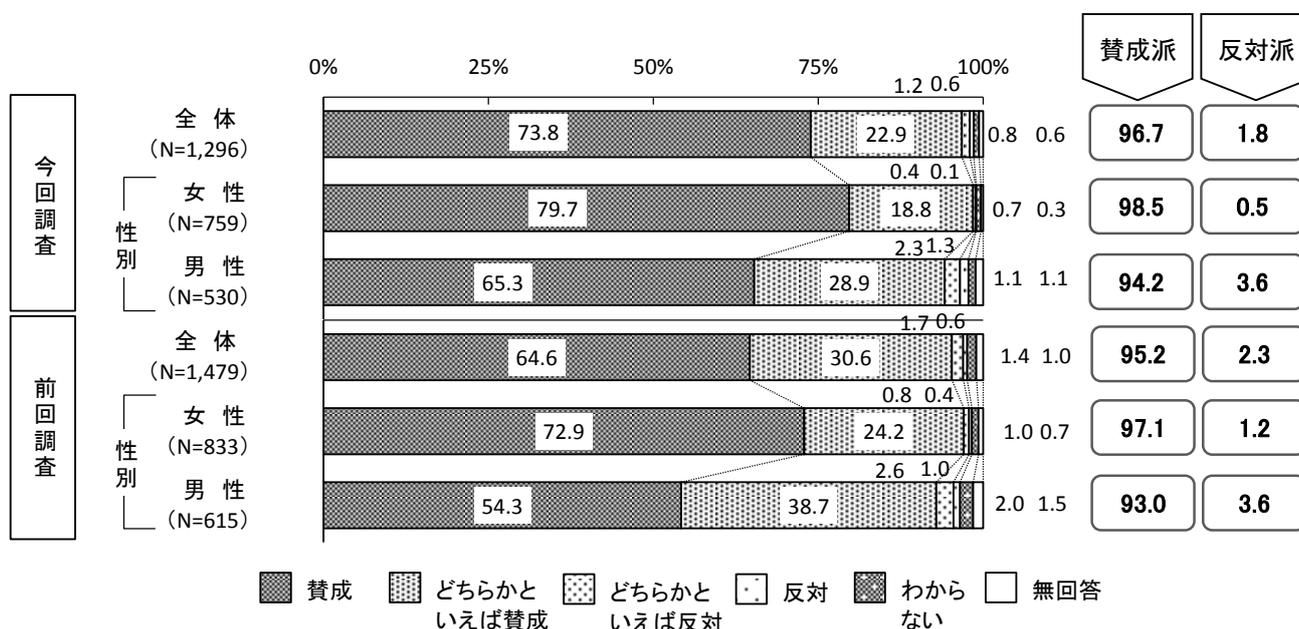
性別役割分担意識別で見ると、男女とも性別役割分担に反対の人では積極的な「賛成」の割合が高い傾向がみられる。

図表2-2 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

			賛成	いど えち らば ら賛 か 成と	いど えち らば ら反 か 対と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 派 』	『 反 対 派 』
全 体		1,296 100.0	968 74.7	256 19.8	16 1.2	6 0.5	41 3.2	9 0.7	1,224 94.5	22 1.7
年 代 別	女性:10・20代	92	70.7	23.9	1.1	-	4.3	-	94.6	1.1
	女性:30代	129	79.1	16.3	1.6	-	3.1	-	95.4	1.6
	女性:40代	154	76.0	20.8	0.6	-	1.9	0.6	96.8	0.6
	女性:50代	135	83.7	13.3	-	-	3.0	-	97.0	-
	女性:60代	168	76.8	21.4	-	-	1.8	-	98.2	-
	女性:70歳以上	72	73.6	25.0	-	-	1.4	-	98.6	-
	男性:10・20代	49	59.2	22.4	-	6.1	12.2	-	81.6	6.1
	男性:30代	75	69.3	17.3	2.7	-	9.3	1.3	86.6	2.7
	男性:40代	83	77.1	18.1	1.2	-	3.6	-	95.2	1.2
	男性:50代	74	75.7	17.6	1.4	1.4	2.7	1.4	93.3	2.8
	男性:60代	173	71.7	20.2	3.5	0.6	1.7	2.3	91.9	4.1
	男性:70歳以上	70	67.1	24.3	2.9	1.4	1.4	2.9	91.4	4.3
	無回答	22	77.3	22.7	-	-	-	-	100.0	-
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	30	76.7	13.3	3.3	-	6.7	-	90.0	3.3
	女性:ある程度同感する	271	64.2	31.0	1.1	-	3.7	-	95.2	1.1
	女性:あまり同感しない	233	80.7	19.3	-	-	-	-	100.0	-
	女性:同感しない	213	89.7	7.5	-	-	2.8	-	97.2	-
	男性:同感する	50	60.0	22.0	6.0	8.0	4.0	-	82.0	14.0
	男性:ある程度同感する	203	70.0	21.2	3.9	0.5	3.9	0.5	91.2	4.4
	男性:あまり同感しない	152	69.7	23.0	0.7	0.7	4.6	1.3	92.7	1.4
	男性:同感しない	115	83.5	12.2	-	-	4.3	-	95.7	-
	無回答	29	62.1	13.8	-	-	3.4	20.7	75.9	-

②男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

図表2-3 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい
[全体、性別] (前回調査比較)



「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」という考え方については、『賛成派』は 96.7%、『反対派』は 1.8%とわずかで経済的な自立よりも『賛成派』の割合は高くなっている。

性別でみると、女性の積極的な「賛成」は 79.7%と男性 (65.3%) を 14.4 ポイント上回っており、女性において子どもには生活技術を身につけさせた方がよいと積極的に考えていることがわかる。

前回調査と比べると、男女とも積極的な「賛成」が約 7～11 ポイント高くなっており、男の子も女の子も生活技術を身につけさせることは必要だと考える人が前回調査よりも増えており、特に男性で多くなっている。

年代別でみると、男性の 60 代と 70 歳以上で積極的な「賛成」が 5 割半ばと他の年代に比べて低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、経済的自立と同様に男女とも性別役割分担に反対の人では積極的な「賛成」の割合が高い傾向がみられるが、女性においてより顕著となっている。

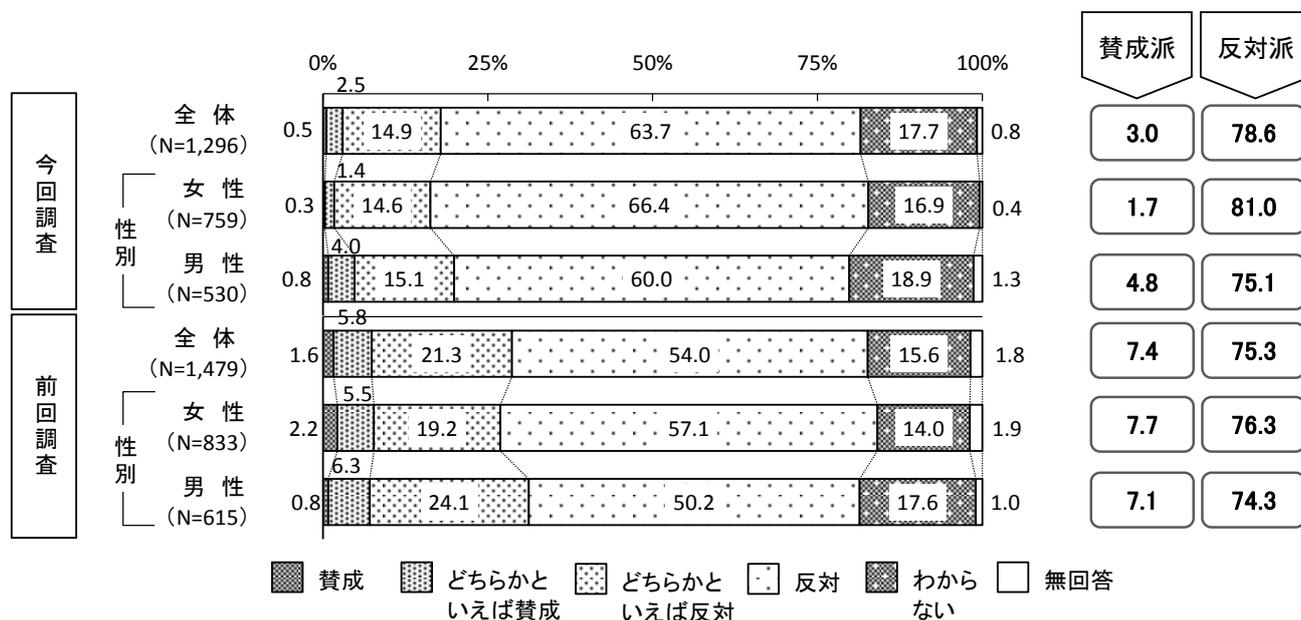
図表2-4 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい
 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

(%)

		標 本 数	賛 成	い ど え ち ら ば ら 賛 か 成 と	い ど え ち ら ば ら 反 か と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 派 』	『 反 対 派 』
全 体		1,296 100.0	957 73.8	297 22.9	15 1.2	8 0.6	11 0.8	8 0.6	1,254 96.7	23 1.8
年 代 別	女性:10・20代	92	76.1	19.6	1.1	-	3.3	-	95.7	1.1
	女性:30代	129	87.6	11.6	0.8	-	-	-	99.2	0.8
	女性:40代	154	81.8	17.5	-	-	-	0.6	99.3	-
	女性:50代	135	85.9	13.3	-	-	0.7	-	99.2	-
	女性:60代	168	74.4	25.0	-	0.6	-	-	99.4	0.6
	女性:70歳以上	72	65.3	30.6	1.4	-	1.4	1.4	95.9	1.4
	男性:10・20代	49	69.4	26.5	2.0	-	2.0	-	95.9	2.0
	男性:30代	75	69.3	26.7	2.7	-	1.3	-	96.0	2.7
	男性:40代	83	73.5	24.1	1.2	-	-	1.2	97.6	1.2
	男性:50代	74	79.7	17.6	-	-	1.4	1.4	97.3	-
男性:60代	173	55.5	35.8	3.5	2.9	1.2	1.2	91.3	6.4	
男性:70歳以上	70	57.1	32.9	2.9	2.9	1.4	2.9	90.0	5.8	
	無回答	22	81.8	18.2	-	-	-	-	100.0	-
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	30	73.3	23.3	-	-	3.3	-	96.6	-
	女性:ある程度同感する	271	66.1	31.7	1.1	-	0.7	0.4	97.8	1.1
	女性:あまり同感しない	233	85.0	15.0	-	-	-	-	100.0	-
	女性:同感しない	213	92.0	6.6	-	0.5	0.9	-	98.6	0.5
	男性:同感する	50	62.0	30.0	2.0	4.0	2.0	-	92.0	6.0
	男性:ある程度同感する	203	57.6	34.0	4.9	2.0	1.5	-	91.6	6.9
	男性:あまり同感しない	152	66.4	30.3	0.7	0.7	1.3	0.7	96.7	1.4
	男性:同感しない	115	81.7	18.3	-	-	-	-	100.0	-
	無回答	29	65.5	13.8	-	-	-	20.7	79.3	-

③男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい

図表 2-5 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい
[全体、性別] (前回調査比較)



「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」という考え方については、『反対派』が 78.6%となっているが、「わからない」も 17.7%と、経済的自立、生活技術の自立の考え方に比べ高くなっている。

性別で見ると、女性の『反対派』は 81.0%と男性（75.1%）を 5.9 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『反対派』が高くなっており、特にそのうち積極的な「反対」が約 9～10 ポイント高くなっている。

年代別で見ると、積極的な「反対」は女性の 50 代で 77.8%と最も高く、次いで男性の 10・20 代で 73.5%となっている。女性の 10・20 代や 70 歳以上、男性の 30 代、40 代では「わからない」の割合が約 2 割半ばから 3 割と他の年代に比べて高くなっている。

性別役割分担意識別で見ると、男女とも性別役割分担に反対する人ほど「反対」の割合が高くなっている。

図表2-6 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい

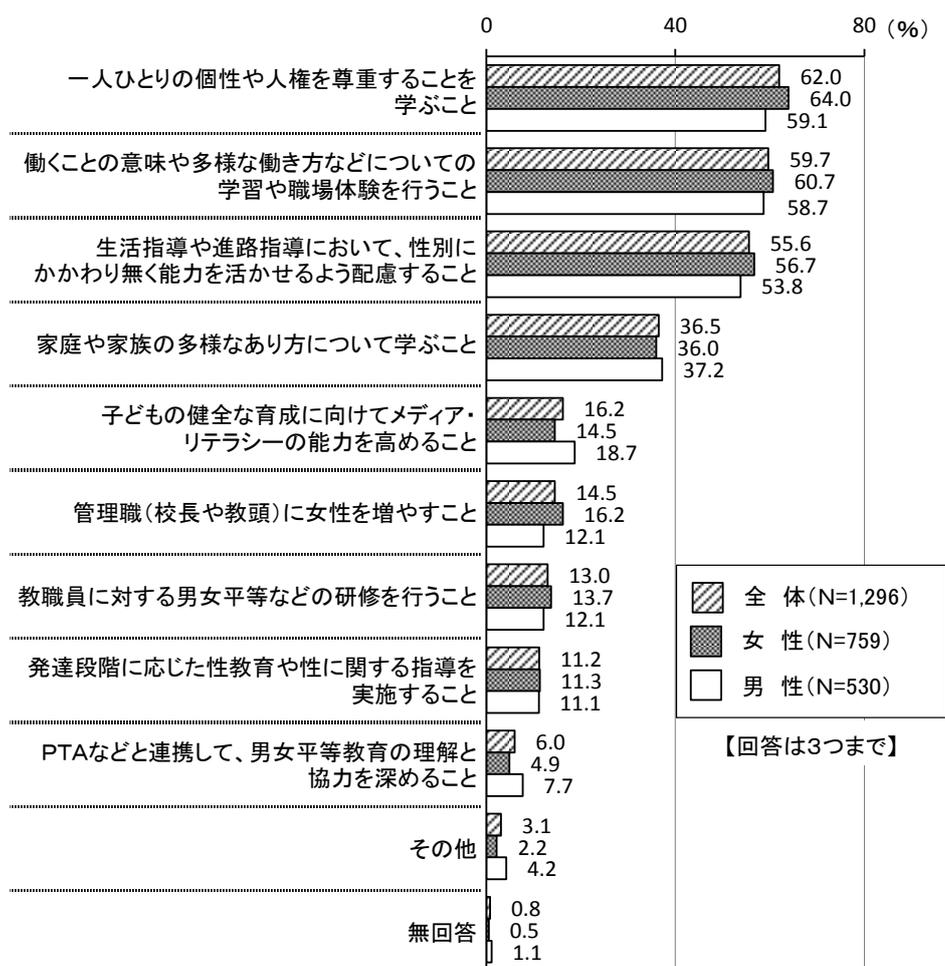
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

									(%)	
		標本数	賛成	いど えち らば らか と 賛成	いど えち らば らか と 反対	反対	わ か ら な い	無 回 答	『 賛 成 派 』	『 反 対 派 』
全 体		1,296 100.0	6 0.5	32 2.5	193 14.9	825 63.7	230 17.7	10 0.8	38 3.0	1,018 78.6
年 代 別	女性:10・20代	92	-	1.1	16.3	58.7	23.9	-	1.1	75.0
	女性:30代	129	-	-	12.4	70.5	17.1	-	-	82.9
	女性:40代	154	-	1.3	12.3	69.5	15.6	1.3	1.3	81.8
	女性:50代	135	-	0.7	11.9	77.8	9.6	-	0.7	89.7
	女性:60代	168	0.6	1.2	19.6	62.5	16.1	-	1.8	82.1
	女性:70歳以上	72	1.4	5.6	15.3	51.4	25.0	1.4	7.0	66.7
	男性:10・20代	49	-	4.1	4.1	73.5	18.4	-	4.1	77.6
	男性:30代	75	-	2.7	13.3	54.7	29.3	-	2.7	68.0
	男性:40代	83	-	-	13.3	59.0	25.3	2.4	-	72.3
	男性:50代	74	-	2.7	9.5	70.3	16.2	1.4	2.7	79.8
	男性:60代	173	0.6	5.8	17.3	60.1	15.0	1.2	6.4	77.4
	男性:70歳以上	70	2.9	7.1	25.7	47.1	14.3	2.9	10.0	72.8
	無回答	22	4.5	4.5	22.7	50.0	18.2	-	9.0	72.7
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	30	3.3	6.7	16.7	46.7	26.7	-	10.0	63.4
	女性:ある程度同感する	271	-	2.2	17.3	56.8	23.2	0.4	2.2	74.1
	女性:あまり同感しない	233	0.4	0.4	17.2	64.8	16.7	0.4	0.8	82.0
	女性:同感しない	213	-	0.9	7.5	83.6	8.0	-	0.9	91.1
	男性:同感する	50	2.0	10.0	12.0	50.0	26.0	-	12.0	62.0
	男性:ある程度同感する	203	0.5	5.4	19.7	51.7	22.2	0.5	5.9	71.4
	男性:あまり同感しない	152	0.7	2.0	19.1	56.6	21.1	0.7	2.7	75.7
	男性:同感しない	115	0.9	1.7	3.5	85.2	8.7	-	2.6	88.7
	無回答	29	-	-	20.7	48.3	10.3	20.7	-	69.0

2. 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること

問5. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

図表2-7 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること
[全体、性別]



男女共同参画を進めていくために、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいかたずねた。「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が62.0%、「働くことの意味は多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」が59.7%、「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず能力を活かせるよう配慮すること」が55.6%で上位3位となっている。

性別でもあまり大きな差はみられないが、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は女性の方が4.9ポイント男性よりも高くなっている。

年代別でみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は女性では30代を除く各年代で、男性は50代以上で6割を超えている。「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」は女性の50代以上、男性の60代以上で6割を超えて高くなっている。また、「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」は女性の40代以上、男性の40代で6割を超えるなど、これらの上位項目については比較的年齢の高い層での割合が高くなっている。「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は女性の30代以下、男性の40代以下で4割台から5割台、「管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと」は女性の30代以下、男性の30代で2割台と比較的年齢の低い層での割合が高くなっている。

図表2-8 男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れること
[全体、年代別]

		標本数	一人ひとりの個性や人権を尊重すること	発達段階に応じた性教育や性に 関する指導を実施すること	家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと	生活指導や進路指導に おいて性別や進路に 関係なく能力を活かせる よう配慮すること	子ども・健全育成の ための健康・安全な育 成に向けた取り組み	PTAなど連携して、男 子・女子の理解を深め ること	働くことの意味や多 様な働き方などについて の学習や職場体験を行う こと	管理職（校長や教頭）に 女性を増やすこと	教職員に対する男女平 等な研修を行うこと	その他	無回答
全体		1,296 100.0	804 62.0	145 11.2	473 36.5	720 55.6	210 16.2	78 6.0	774 59.7	188 14.5	169 13.0	40 3.1	10 0.8
年代別	女性:10・20代	92	65.2	10.9	45.7	41.3	13.0	2.2	51.1	23.9	14.1	2.2	-
	女性:30代	129	48.1	10.1	53.5	44.2	16.3	1.6	55.0	24.0	17.8	2.3	-
	女性:40代	154	63.0	10.4	29.9	53.2	14.9	2.6	63.6	17.5	13.0	3.9	0.6
	女性:50代	135	68.9	10.4	38.5	63.0	12.6	2.2	63.0	11.1	10.4	1.5	0.7
	女性:60代	168	69.6	14.9	27.4	67.9	13.7	10.1	64.3	10.7	13.1	2.4	-
	女性:70歳以上	72	69.4	8.3	20.8	70.8	18.1	11.1	63.9	11.1	13.9	-	2.8
	男性:10・20代	49	51.0	18.4	40.8	46.9	20.4	2.0	57.1	10.2	12.2	6.1	-
	男性:30代	75	45.3	18.7	52.0	49.3	17.3	2.7	54.7	20.0	10.7	6.7	-
	男性:40代	83	47.0	12.0	45.8	41.0	16.9	6.0	65.1	9.6	8.4	6.0	-
	男性:50代	74	62.2	6.8	36.5	44.6	16.2	5.4	59.5	14.9	14.9	4.1	1.4
	男性:60代	173	64.7	7.5	34.1	63.0	20.2	11.6	57.2	12.1	11.6	2.9	1.7
男性:70歳以上	70	75.7	10.0	20.0	65.7	21.4	11.4	58.6	5.7	15.7	-	2.9	
無回答		22	72.7	13.6	27.3	50.0	9.1	9.1	54.5	13.6	18.2	9.1	-

第3章 家庭に関することについて

1. 家庭内の役割分担の状況

【この質問は、配偶者・パートナーと同居している方がお答えください。】

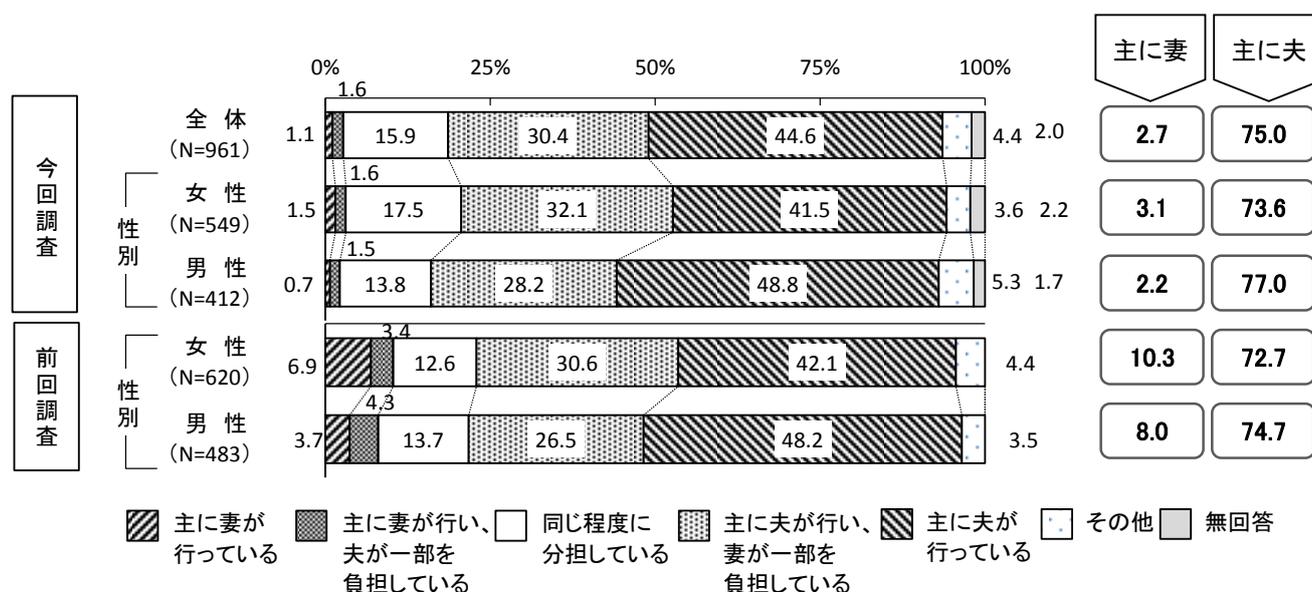
問6. あなたのご家庭では、次のような家庭内の仕事を主にどなたがしていますか。

①～⑩のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

現在、配偶者・パートナーと同居している人に家庭内の役割、10分野について主に誰が行っているかたずねた。

①生活費を稼ぐ

図表3-1 生活費を稼ぐ [全体、性別] (前回調査比較)



「生活費を稼ぐ」を行うのは、「夫が主に行っている」が44.6%、「主に夫が行い、妻が一部を負担している」が30.4%とこれらを合わせた『主に夫』は75.0%で、7割以上が生活費を稼ぐのは夫の担当となっている。「同じ程度に分担している」は15.9%である。

性別でも『主に夫』の割合は7割を超えているが、男性は77.0%に対し、女性は73.6%、「同じ程度に分担している」は女性が17.5%に対し、男性は13.8%と女性の方が自分も稼いでいるという意識がややみられる。

前回調査の設問項目は「主に自分が行っている」「主に相手が行っている」などとなっている。したがって、女性の「主に自分が行っている」は「主に妻が行っている」、「主に相手が行っている」は「主に夫が行っている」と、男性も同じように置き換えて割合を比較している。

『主に夫』の割合は男女とも7割を超え、やや男性でその割合は増えている。女性は『主に妻』が7.2ポイント低くなり、「同じ程度の分担している」が4.9ポイント増えている。

職業や立場別でみると、女性の正規雇用の場合「同じ程度に分担している」の割合が約5割からそれ以上となっているのに対し、契約社員・派遣社員やパートタイマーなどの非正規の場合「同じ程度に分担している」は約3割から1割台と減り、『主に夫』の割合が約6割から9割となっている。

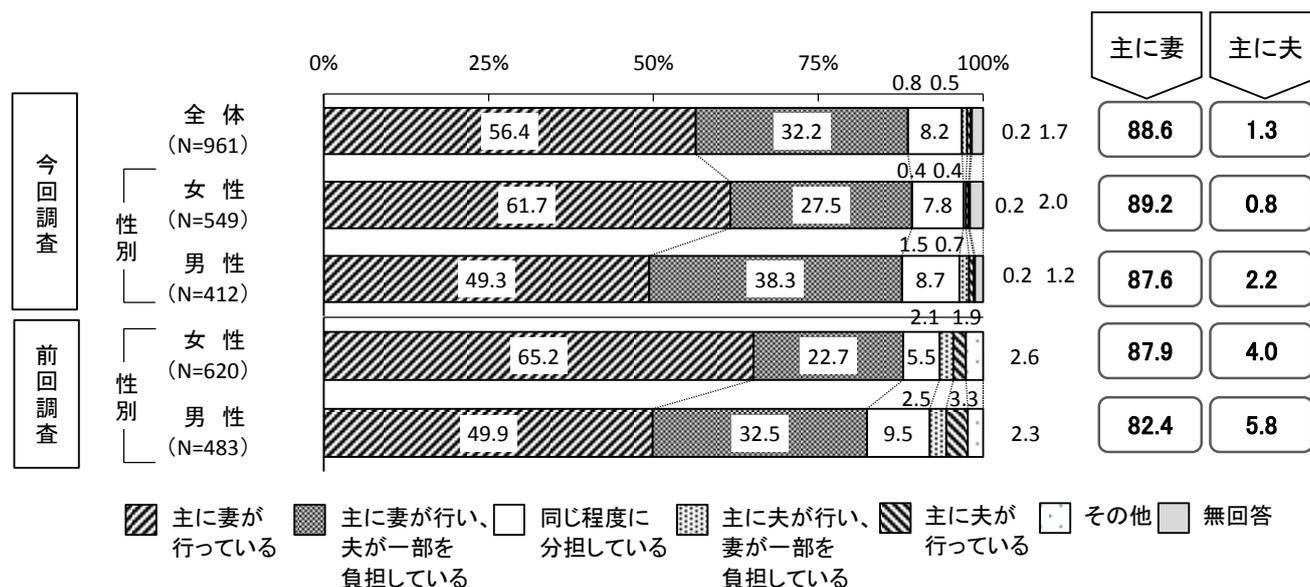
性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に反対する人ほど『主に夫』の割合が減り、「同じ程度に分担している」の割合が増える傾向にある。

図表3-2 生活費を稼ぐ〔全体、職業や立場別、性別役割分担意識別〕

		標本数	主に妻が行って	主夫が妻の負担、	同じ程度に分担	主夫が妻の負担、	主に夫が行って	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		961 100.0	11 1.1	15 1.6	153 15.9	292 30.4	429 44.6	42 4.4	19 2.0	26 2.7	721 75.0
職業や立場別	女性:会社役員・管理職	12	-	-	33.3	41.7	25.0	-	-	-	66.7
	女性:正社員(一般職)	53	3.8	3.8	49.1	30.2	7.5	1.9	3.8	7.6	37.7
	女性:正社員(技術職)	21	-	14.3	47.6	33.3	-	-	4.8	14.3	33.3
	女性:公務員	27	3.7	-	81.5	11.1	3.7	-	-	3.7	14.8
	女性:契約社員・派遣社員	24	-	4.2	29.2	45.8	12.5	-	8.3	4.2	58.3
	女性:パートタイマー	130	-	1.5	8.5	59.2	30.0	0.8	-	1.5	89.2
	女性:臨時・アルバイト	20	5.0	-	10.0	50.0	25.0	10.0	-	5.0	75.0
	女性:自営業	15	13.3	6.7	26.7	33.3	20.0	-	-	20.0	53.3
	女性:自営業の家族従業員	15	6.7	-	-	60.0	33.3	-	-	6.7	93.3
	女性:専業主婦	185	0.5	-	1.1	13.0	77.3	5.9	2.2	0.5	90.3
	女性:学生	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0
	女性:無職	39	-	-	17.9	12.8	51.3	12.8	5.1	-	64.1
	女性:その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:会社役員・管理職	64	-	-	12.5	21.9	64.1	-	1.6	-	86.0
	男性:正社員(一般職)	76	-	-	14.5	35.5	48.7	-	1.3	-	84.2
	男性:正社員(技術職)	36	-	-	13.9	33.3	47.2	5.6	-	-	80.5
	男性:公務員	41	-	-	22.0	39.0	39.0	-	-	-	78.0
	男性:契約社員・派遣社員	27	-	-	11.1	18.5	70.4	-	-	-	88.9
	男性:パートタイマー	11	-	-	18.2	27.3	45.5	-	9.1	-	72.8
	男性:臨時・アルバイト	16	-	12.5	12.5	18.8	43.8	6.3	6.3	12.5	62.6
男性:自営業	33	-	3.0	15.2	21.2	60.6	-	-	3.0	81.8	
男性:自営業の家族従業員	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	
男性:専業主婦	2	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	
男性:学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男性:無職	99	3.0	3.0	12.1	23.2	36.4	19.2	3.0	6.0	59.6	
男性:その他	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	
無回答	12	-	-	8.3	58.3	25.0	-	8.3	-	83.3	
性別役割分担意識別	女性:同感する	20	-	-	5.0	30.0	55.0	10.0	-	-	85.0
	女性:ある程度同感する	202	1.0	1.0	9.9	34.2	47.5	3.0	3.5	2.0	81.7
	女性:あまり同感しない	165	0.6	1.8	19.4	28.5	44.2	3.6	1.8	2.4	72.7
	女性:同感しない	153	3.3	2.0	26.8	33.3	29.4	3.9	1.3	5.3	62.7
	男性:同感する	43	2.3	-	2.3	18.6	62.8	9.3	4.7	2.3	81.4
	男性:ある程度同感する	157	0.6	0.6	8.9	29.3	56.7	3.8	-	1.2	86.0
	男性:あまり同感しない	118	0.8	1.7	12.7	28.8	48.3	4.2	3.4	2.5	77.1
	男性:同感しない	88	-	3.4	28.4	30.7	30.7	5.7	1.1	3.4	61.4
無回答	15	-	6.7	26.7	26.7	26.7	13.3	-	6.7	53.4	

②炊事、掃除、洗濯などの家事をする

図表3-3 炊事、掃除、洗濯などの家事をする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「炊事、掃除、洗濯などの家事をする」を行うのは、「主に妻が行っている」が 56.4%と最も高く、次いで「主に妻が行い、夫が一部を負担している」が 32.2%でこれらを合わせた『主に妻』が 88.6%と、約 9 割が日常の家事は妻の担当となっている。「同じ程度に分担している」は 8.2%で、「生活費を稼ぐ」場合よりも低くなっている。

性別でみると、男女とも『主に妻』の割合は約 9 割と同じ程度であるが、「主に妻が行っている」をみると、女性は 61.7%であるのに対し、男性は 49.3%と 12.4 ポイントの差があり、女性自身も日常の家事は妻の役割という認識が強い。

前回調査と比べると、男女とも『主に妻』がやや高くなっているが、内訳をみると「主に妻が行っている」の割合はやや減少し、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」の割合が増えている。

年代別でみると、女性の10・20代や30代では「主に妻が行っている」の割合が4割台と他の年代に比べて低くなっており、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」や「同じ程度に分担している」の割合が高くなっている。

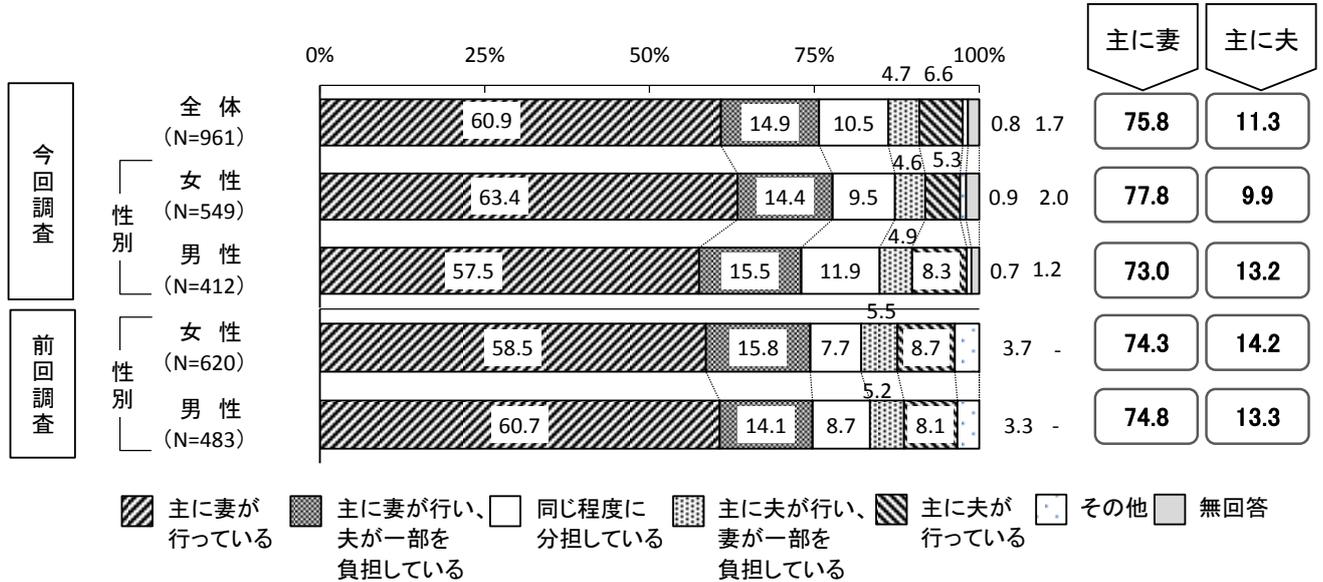
配偶関係別でみると、男女とも共働きである場合「主に妻が行っている」の割合が共働きでない場合よりも低く、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」や「同じ程度に分担している」が高くなっているが、『主に妻』の割合は8割半ばと高い割合となっている。

図表3-4 炊事、掃除、洗濯などの家事をする〔全体、年代別、配偶関係別〕

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を負担している	同じ程度に分担している	主に妻が行い、夫が一部を負担している	主に妻が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		961 100.0	542 56.4	309 32.2	79 8.2	8 0.8	5 0.5	2 0.2	16 1.7	851 88.6	13 1.3
年代別	女性:10・20代	22	40.9	27.3	22.7	-	-	-	9.1	68.2	-
	女性:30代	93	46.2	43.0	10.8	-	-	-	-	89.2	-
	女性:40代	128	69.5	22.7	7.0	-	-	-	0.8	92.2	-
	女性:50代	114	64.0	28.1	4.4	0.9	-	0.9	1.8	92.1	0.9
	女性:60代	134	67.2	22.4	8.2	0.7	0.7	-	0.7	89.6	1.4
	女性:70歳以上	51	60.8	23.5	3.9	-	2.0	-	9.8	84.3	2.0
	男性:10・20代	5	60.0	20.0	20.0	-	-	-	-	80.0	-
	男性:30代	53	43.4	43.4	9.4	-	3.8	-	-	86.8	3.8
	男性:40代	67	50.7	40.3	7.5	-	-	-	1.5	91.0	-
	男性:50代	64	51.6	35.9	6.3	3.1	1.6	-	1.6	87.5	4.7
	男性:60代	156	49.4	39.1	8.3	1.9	-	0.6	0.6	88.5	1.9
男性:70歳以上	62	50.0	32.3	12.9	1.6	-	-	3.2	82.3	1.6	
無回答	12	50.0	41.7	8.3	-	-	-	-	91.7	-	
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	270	49.6	36.3	11.9	-	-	-	2.2	85.9	-
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	279	73.5	19.0	3.9	0.7	0.7	0.4	1.8	92.5	1.4
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	153	39.9	45.1	11.8	1.3	1.3	-	0.7	85.0	2.6
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	259	54.8	34.4	6.9	1.5	0.4	0.4	1.5	89.2	1.9

③日々の家計を管理する

図表3-5 日々の家計を管理する [全体、性別] (前回調査比較)



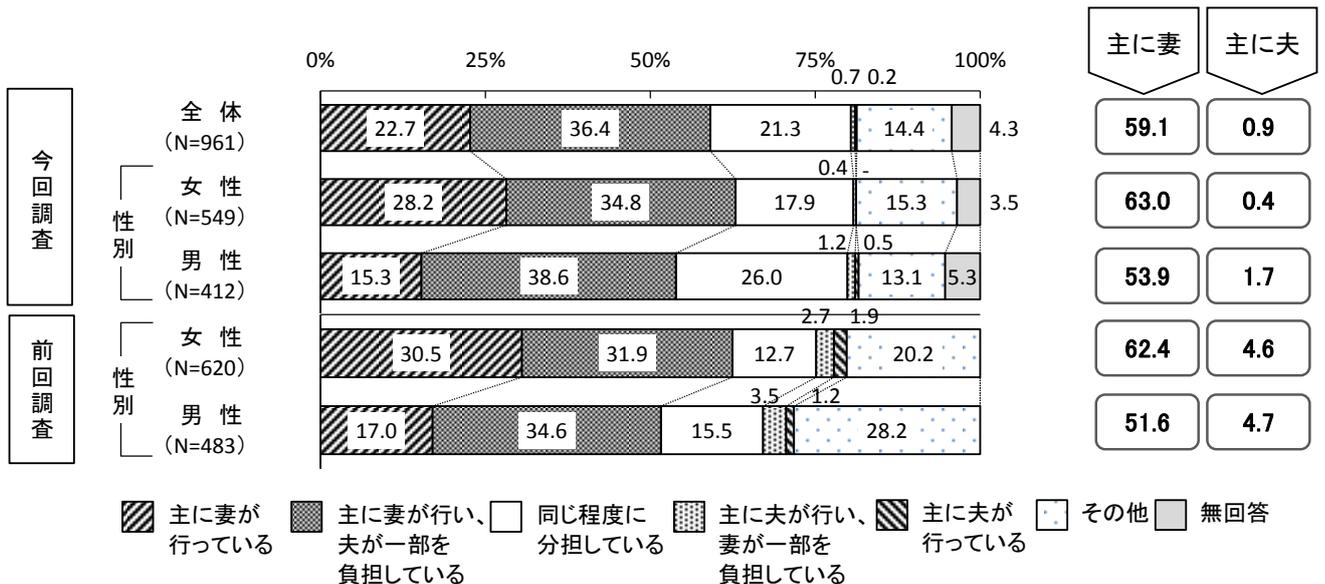
「日々の家計を管理する」のは『主に妻』が75.8%と家計の管理は妻の担当となっている場合が多い。

性別で見ると、炊事、掃除、洗濯など家事と同様に「主に妻が行っている」の割合は女性(63.4%)の方が男性(57.5%)よりも5.9ポイント高く、女性の妻の役割であるという認識が強い。

前回調査と比べると、女性で「主に妻が行っている」の割合が4.9ポイント増えている。

④育児・子どものしつけをする

図表3-6 育児・子どものしつけをする [全体、性別] (前回調査比較)



「育児・子どものしつけをする」のは『主に妻』が 59.1%、「同じ程度に分担している」は 21.3%となっている。

性別でみると、『主に妻』は女性が 63.0%、男性は 53.9%と女性の方が 9.1 ポイント高く、そのうち女性の「主に妻が行っている」の割合は 28.2%と男性（15.3%）を 12.9 ポイント上回り、女性の妻の役割であるという認識が強くなっている。また、男性は「同じ程度に分担している」が 26.0%と女性（17.9%）を 8.1 ポイント上回り、分担して行っているという認識が女性よりも強くなっている。

前回調査と比べると、「同じ程度に分担している」の割合が女性で 5.2 ポイント低くなっているのに対し、男性は 10.5 ポイント高くなっている。

年代別でみると、男女とも 30 代で子どもに手がかかる世代と思われるが、「主に妻が行っている」の割合は他の世代に比べて低く、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」や「同じ程度に分担している」の割合が他の世代に比べ高い傾向がある。

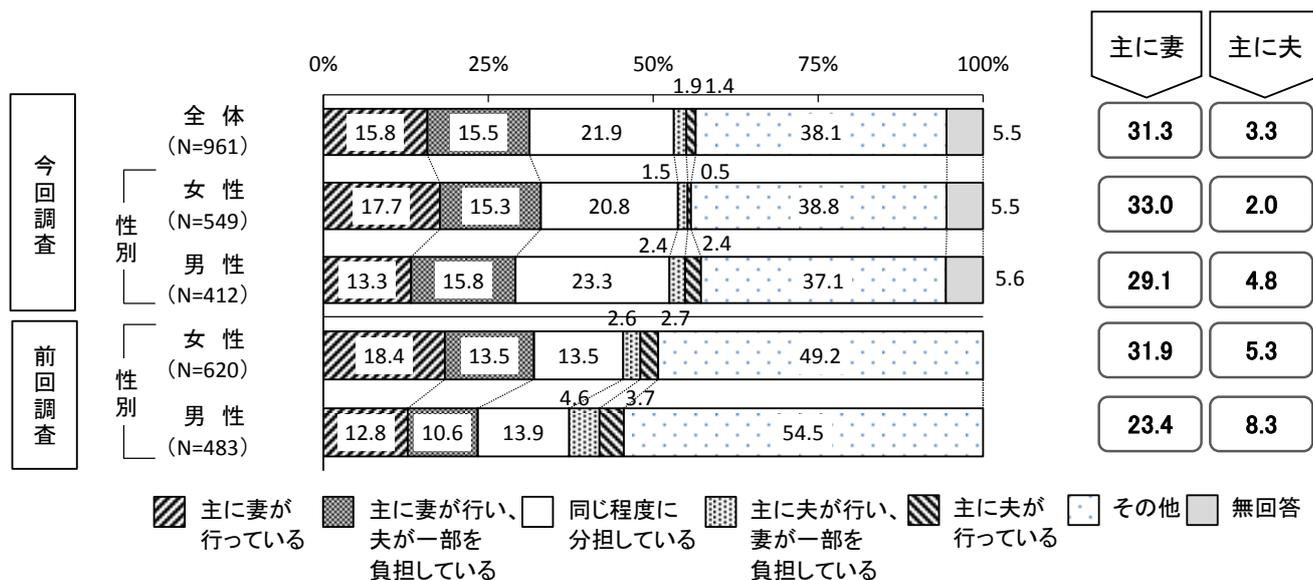
図表 3-7 育児・子どものしつけをする [全体、年代別]

(%)

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を負担している	同じ程度に分担している	主に妻が行い、夫が一部を負担している	主に妻が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		961 100.0	218 22.7	350 36.4	205 21.3	7 0.7	2 0.2	138 14.4	41 4.3	568 59.1	9 0.9
年代別	女性:10・20代	22	22.7	13.6	18.2	-	-	31.8	13.6	36.3	-
	女性:30代	93	15.1	44.1	20.4	-	-	18.3	2.2	59.2	-
	女性:40代	128	29.7	41.4	17.2	-	-	10.9	0.8	71.1	-
	女性:50代	114	28.9	38.6	21.9	0.9	-	8.8	0.9	67.5	0.9
	女性:60代	134	36.6	25.4	15.7	0.7	-	19.4	2.2	62.0	0.7
	女性:70歳以上	51	23.5	25.5	13.7	-	-	19.6	17.6	49.0	-
	男性:10・20代	5	20.0	40.0	20.0	-	-	20.0	-	60.0	-
	男性:30代	53	7.5	50.9	30.2	-	-	9.4	1.9	58.4	-
	男性:40代	67	10.4	38.8	34.3	-	-	11.9	4.5	49.2	-
	男性:50代	64	21.9	39.1	23.4	-	-	10.9	4.7	61.0	-
	男性:60代	156	18.6	36.5	25.0	3.2	1.3	11.5	3.8	55.1	4.5
男性:70歳以上	62	12.9	29.0	19.4	-	-	24.2	14.5	41.9	-	
無回答		12	33.3	58.3	8.3	-	-	-	-	91.6	-

⑤親の世話（介護）をする

図表3-8 親の世話（介護）をする〔全体、性別〕（前回調査比較）



「親の世話（介護）をする」のは『主に妻』が 31.3%、「同じ程度に分担している」が 21.9%となっている。「その他」は 38.1%と最も多いが、該当しない人と思われる。

性別でみると、女性は『主に妻』（33.0%）が男性（29.1%）をやや上回り、男性は「同じ程度に分担している」（23.3%）が女性（20.8%）をやや上回るなど、子どもの世話やしつけほどではないが、女性は妻の役割である、男性は同じ程度に分担して行っているという認識がややみられる。

前回調査と比べると、男女とも「同じ程度に分担している」が約7～9ポイント高くなっている。

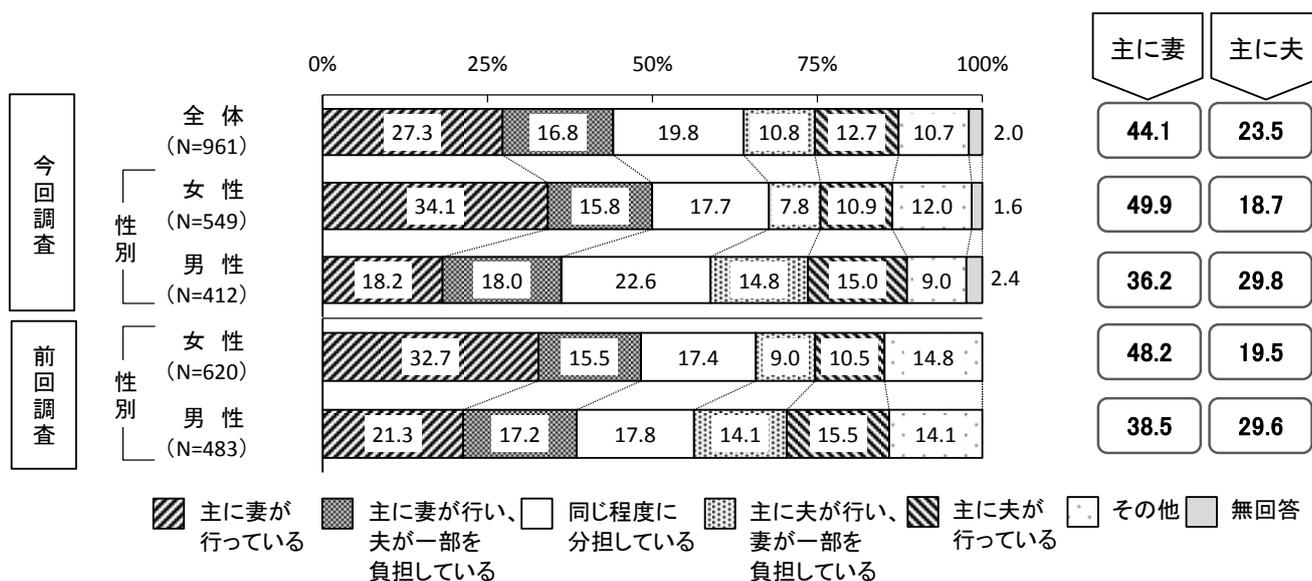
年代別でみると、男女とも50代と60代で『主に妻』の割合が、女性で5割弱、男性で約4割と高く、親の介護が必要な世代では女性が担う場合が多いようである。

図表3-9 親の世話（介護）をする〔全体、年代別〕

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を負担している	同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を負担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		961	15.8	15.5	21.9	1.9	1.4	38.1	5.5	31.3	3.3
年代別	女性:10・20代	22	9.1	-	9.1	-	-	68.2	13.6	9.1	-
	女性:30代	93	5.4	8.6	19.4	-	-	62.4	4.3	14.0	-
	女性:40代	128	16.4	8.6	28.1	2.3	0.8	40.6	3.1	25.0	3.1
	女性:50代	114	21.9	24.6	26.3	2.6	-	21.9	2.6	46.5	2.6
	女性:60代	134	26.1	21.6	16.4	1.5	-	29.9	4.5	47.7	1.5
	女性:70歳以上	51	15.7	15.7	7.8	-	3.9	39.2	17.6	31.4	3.9
	男性:10・20代	5	20.0	-	-	-	-	80.0	-	20.0	-
	男性:30代	53	-	5.7	28.3	1.9	-	62.3	1.9	5.7	1.9
	男性:40代	67	4.5	11.9	28.4	1.5	3.0	46.3	4.5	16.4	4.5
	男性:50代	64	18.8	23.4	21.9	4.7	1.6	28.1	1.6	42.2	6.3
	男性:60代	156	17.3	20.5	22.4	2.6	4.5	28.2	4.5	37.8	7.1
	男性:70歳以上	62	16.1	11.3	17.7	-	-	37.1	17.7	27.4	-
無回答	12	25.0	-	33.3	8.3	-	25.0	8.3	25.0	8.3	

⑥自治会・町内会などの地域活動を行う

図表 3-10 自治会・町内会などの地域活動を行う [全体、性別] (前回調査比較)



「自治会・町内会などの地域活動を行う」のは『主に妻』が 44.1%、次いで『主に夫』が 23.5%で「同じ程度に分担している」は 19.8%である。

性別でみると、女性は『主に妻』が 49.9%と、男性 (36.2%) を 13.7 ポイント上回り、男性は『主に夫』が 29.8%で、女性 (18.7%) を 11.1 ポイント上回っている。男女とも地域活動は自分が行っているという認識が強いようである。

前回調査と比べると、女性はほぼ同様の結果となっている。男性は「同じ程度に分担している」が 4.8 ポイント高くなっている。

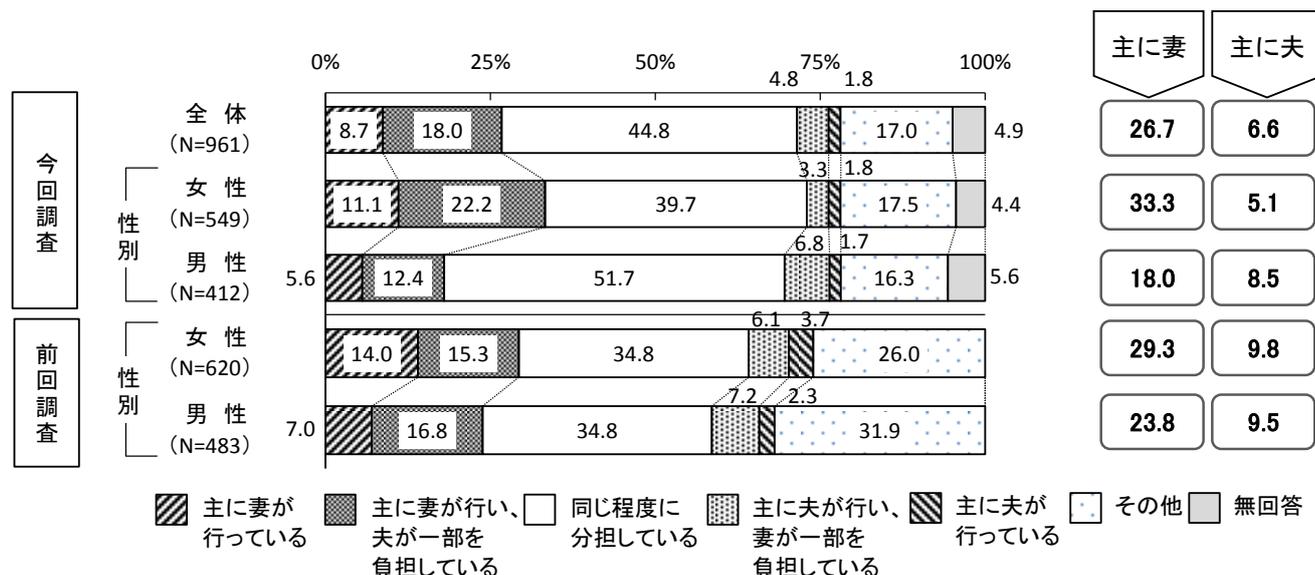
年代別でみると、男女とも 40 代と 50 代で『主に妻』が女性で約 6 割、男性で 5 割弱と高くなっている。男性の 70 歳以上では『主に夫』が 54.9%で『主に妻』の割合を上回っている。

図表 3-11 自治会・町内会などの地域活動を行う [全体、年代別]

		標本数	主に妻が行っている (%)	主に妻が行い、夫が一部を負担している (%)	同じ程度に分担している (%)	主に妻が行い、夫が一部を負担している (%)	主に夫が行っている (%)	その他 (%)	無回答 (%)	『主に妻』 (%)	『主に夫』 (%)
全体		961	27.3	16.8	19.8	10.8	12.7	10.7	2.0	44.1	23.5
年代別	女性:10・20代	22	13.6	9.1	9.1	9.1	9.1	36.4	13.6	22.7	18.2
	女性:30代	93	21.5	11.8	21.5	5.4	3.2	36.6	-	33.3	8.6
	女性:40代	128	43.0	17.2	14.8	6.3	9.4	8.6	0.8	60.2	15.7
	女性:50代	114	42.1	20.2	15.8	7.9	9.6	3.5	0.9	62.3	17.5
	女性:60代	134	33.6	14.2	20.9	9.0	15.7	6.0	0.7	47.8	24.7
	女性:70歳以上	51	25.5	17.6	15.7	13.7	19.6	2.0	5.9	43.1	33.3
	男性:10・20代	5	-	20.0	20.0	20.0	-	40.0	-	20.0	20.0
	男性:30代	53	18.9	20.8	28.3	7.5	3.8	18.9	1.9	39.7	11.3
	男性:40代	67	20.9	26.9	22.4	11.9	3.0	11.9	3.0	47.8	14.9
	男性:50代	64	28.1	17.2	14.1	17.2	12.5	9.4	1.6	45.3	29.7
	男性:60代	156	18.6	17.9	25.6	14.1	18.6	3.8	1.3	36.5	32.7
	男性:70歳以上	62	6.5	8.1	16.1	21.0	33.9	8.1	6.5	14.6	54.9
無回答		12	25.0	8.3	41.7	16.7	8.3	-	-	33.3	25.0

⑦子どもの教育方針・進路目標を決める

図表3-12 子どもの教育方針・進路目標を決める [全体、性別] (前回調査比較)



「子どもの教育方針・進路目標を決める」は「同じ程度に分担している」が44.8%と10分野の中で最も高くなっている。『主に妻』は26.7%、『主に夫』は6.6%である。

性別でみると、男女とも「同じ程度に分担している」の割合が最も高いが、女性は39.7%、男性は51.7%と12ポイントの差がある。女性の『主に妻』の割合は33.3%で男性の18.0%を15.3ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「その他」の割合が減り、男性は「同じ程度に分担している」が16.9ポイント、女性は『主に妻』の割合が4ポイント高くなっている。

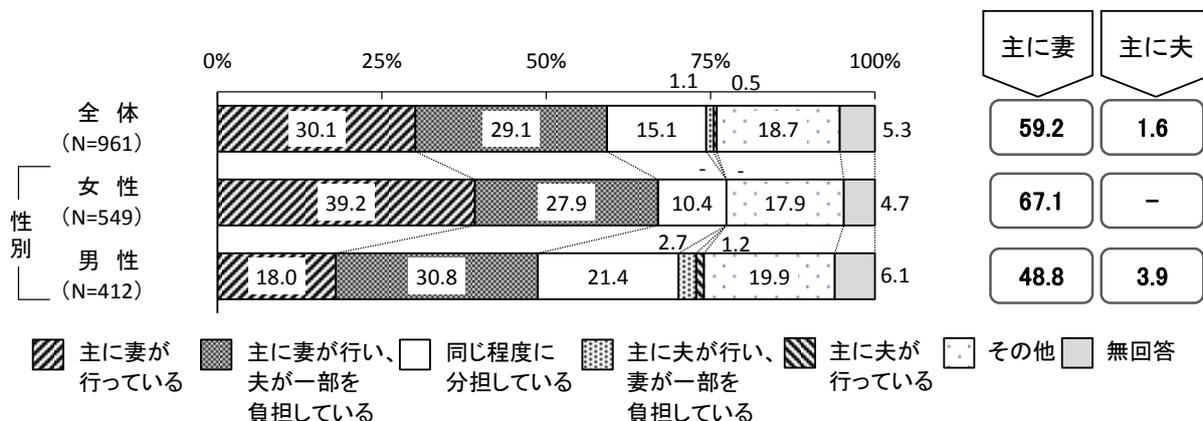
年代別でみると、女性の40代と50代では『主に妻』が4割台で「同じ程度に分担している」の割合を上回っている。男性は年齢が低い層で「同じ程度に分担している」の割合が高くなる傾向がある。

図表3-13 子どもの教育方針・進路目標を決める [全体、年代別]

		標本数	主に妻が行っている (%)	主に妻が行い、夫が一部を負担している (%)	同じ程度に分担している (%)	主に夫が行い、妻が一部を負担している (%)	主に夫が行っている (%)	その他 (%)	無回答 (%)	『主に妻』 (%)	『主に夫』 (%)
全体		961	8.7	18.0	44.8	4.8	1.8	17.0	4.9	26.7	6.6
年代別	女性:10・20代	22	9.1	13.6	31.8	-	-	31.8	13.6	22.7	-
	女性:30代	93	6.5	19.4	50.5	-	-	21.5	2.2	25.9	-
	女性:40代	128	13.3	33.6	37.5	3.1	-	11.7	0.8	46.9	3.1
	女性:50代	114	16.7	23.7	39.5	2.6	3.5	12.3	1.8	40.4	6.1
	女性:60代	134	8.2	17.9	40.3	5.2	3.0	20.1	5.2	26.1	8.2
	女性:70歳以上	51	7.8	7.8	31.4	7.8	2.0	25.5	17.6	15.6	9.8
	男性:10・20代	5	-	-	60.0	-	20.0	20.0	-	-	20.0
	男性:30代	53	1.9	15.1	64.2	3.8	-	13.2	1.9	17.0	3.8
	男性:40代	67	4.5	16.4	61.2	4.5	-	10.4	3.0	20.9	4.5
	男性:50代	64	6.3	14.1	51.6	4.7	-	20.3	3.1	20.4	4.7
	男性:60代	156	6.4	12.2	50.0	9.0	3.2	13.5	5.8	18.6	12.2
	男性:70歳以上	62	6.5	6.5	33.9	8.1	1.6	29.0	14.5	13.0	9.7
無回答		12	25.0	25.0	33.3	8.3	8.3	-	-	50.0	16.6

⑧保育所・幼稚園・学校行事に参加する

図表3-14 保育所・幼稚園・学校行事に参加する〔全体、性別〕



「保育所・幼稚園・学校行事に参加する」のは『主に妻』が 59.2%、「同じ程度に分担している」が 15.1%、『主に夫』は 1.6%とわずかで子どもの学校行事の参加は妻の役割となることが多い。

性別でみると、女性は『主に妻』が 67.1%で、男性（48.8%）を 18.3 ポイント上回り、そのうち「主に妻が行っている」の割合は 39.2%と男性の約 2 倍となっている。男性は「同じ程度の分担している」が 21.4%で女性（10.4%）を 11 ポイント上回り、女性は妻の役割、男性は分担して行っているという認識がみられる。

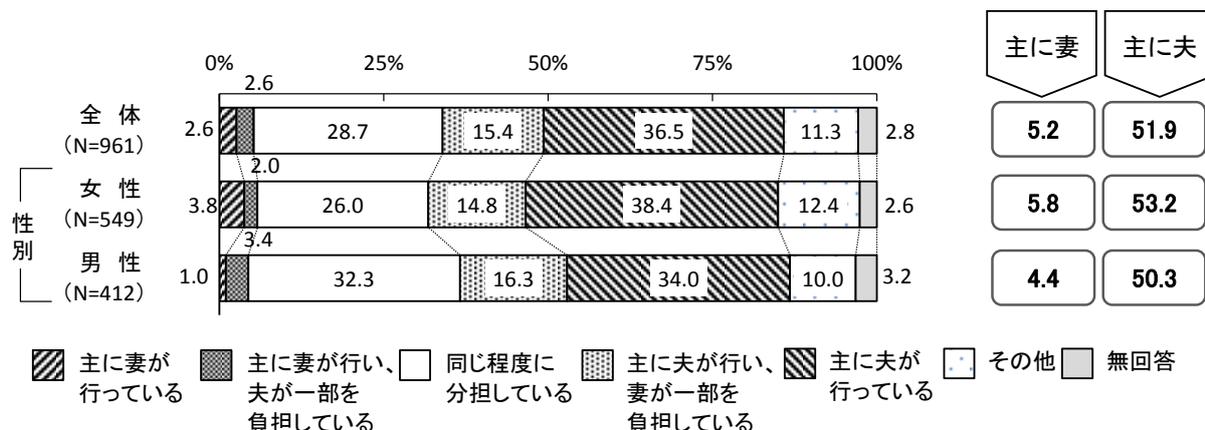
年代別でみると、女性の 40 代から 60 代では『主に妻』の割合が 7 割を超えて高い。男性は年齢が低い層で「同じ程度に分担している」の割合が高くなっている。

図表3-15 保育所・幼稚園・学校行事に参加する〔全体、性別〕

		標本数	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を負担している	同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を負担している	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』
全体		961	289	280	145	11	5	180	51	569	16
		100.0	30.1	29.1	15.1	1.1	0.5	18.7	5.3	59.2	1.6
年代別	女性:10・20代	22	22.7	18.2	13.6	-	-	31.8	13.6	40.9	-
	女性:30代	93	26.9	23.7	19.4	-	-	26.9	3.2	50.6	-
	女性:40代	128	37.5	35.9	14.1	-	-	11.7	0.8	73.4	-
	女性:50代	114	43.9	33.3	7.9	-	-	12.3	2.6	77.2	-
	女性:60代	134	47.0	23.9	6.0	-	-	18.7	4.5	70.9	-
	女性:70歳以上	51	37.3	19.6	-	-	-	23.5	19.6	56.9	-
	男性:10・20代	5	20.0	-	40.0	-	-	40.0	-	20.0	-
	男性:30代	53	15.1	24.5	37.7	-	-	20.8	1.9	39.6	-
	男性:40代	67	14.9	43.3	22.4	1.5	1.5	11.9	4.5	58.2	3.0
	男性:50代	64	17.2	29.7	29.7	3.1	1.6	15.6	3.1	46.9	4.7
	男性:60代	156	21.2	33.3	16.0	3.8	1.9	18.6	5.1	54.5	5.7
男性:70歳以上	62	16.1	21.0	9.7	1.6	-	33.9	17.7	37.1	1.6	
無回答		12	50.0	16.7	16.7	8.3	-	8.3	-	66.7	8.3

⑨土地・家屋などの高額商品を購入する

図表 3-16 土地・家屋などの高額商品を購入する [全体、性別]



「土地・家屋などの高額商品を購入する」については、『主に夫』が 51.9%と 10 分野中最も高くなっている。「同じ程度に分担している」は 28.7%、『主に妻』は 5.2%で高額な商品の購入の決定は夫の分担であることが多い。

性別でみると、男女とも『主に夫』が 5 割台であるが、「同じ程度に分担している」は女性が 26.0%、男性が 32.3%で男性の方が 6.3 ポイント高くなっている。

年代別でみると、女性では年齢が高い層で『主に夫』の割合高くなる傾向にある。女性の 30 代では「同じ程度に分担している」が 41.9%と『主に夫』(32.3%) よりも高く、また男性 30 代でも「同じ程度に分担している」の割合が 39.6%と他の年代比べて高く、『主に夫』の割合と同率となっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に反対する人では『主に夫』の割合は低く、「同じ程度に分担している」の割合が高くなる傾向にある。

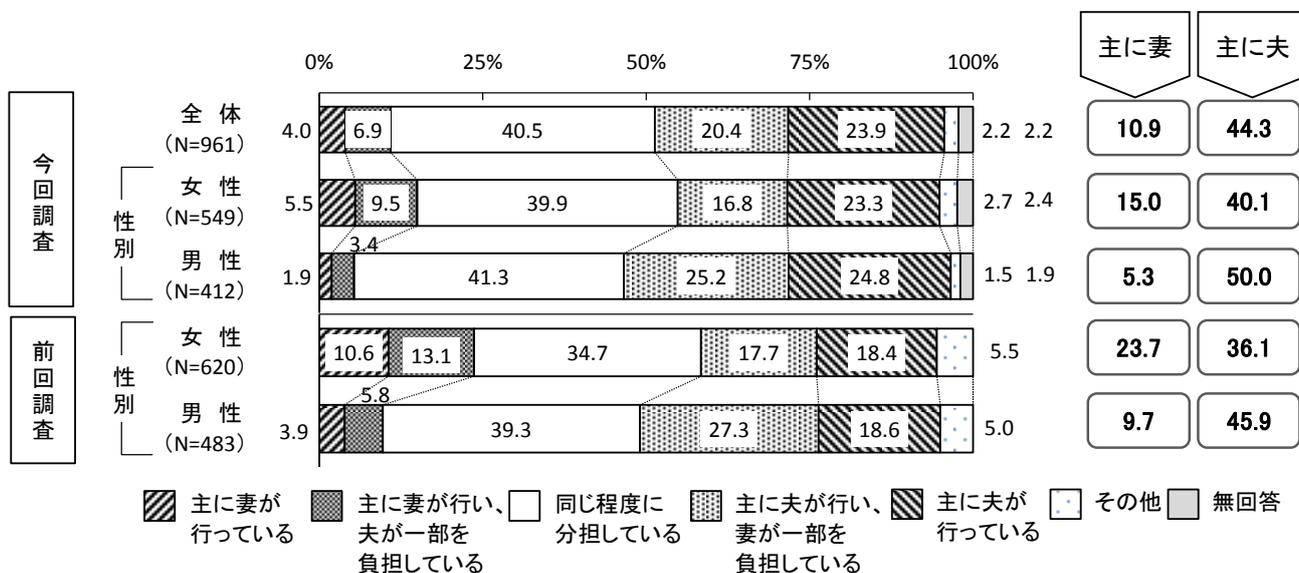
図表3-17 土地・家屋などの高額商品を購入する〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

(%)

		標 本 数	主 に 妻 が 行 っ て	主 に 妻 が 一 部 を 行 い 、 し て い る	同 じ 程 度 に 分 担 し て い る	主 に 夫 が 一 部 を 行 い 、 し て い る	主 に 夫 が 行 っ て	そ の 他	無 回 答	『 主 に 妻 』	『 主 に 夫 』	
全 体		961 100.0	25 2.6	25 2.6	276 28.7	148 15.4	351 36.5	109 11.3	27 2.8	50 5.2	499 51.9	
年 代 別	女性:10・20代	22	9.1	4.5	18.2	13.6	9.1	36.4	9.1	13.6	22.7	
	女性:30代	93	4.3	1.1	41.9	9.7	22.6	20.4	-	5.4	32.3	
	女性:40代	128	3.1	2.3	23.4	15.6	43.0	10.9	1.6	5.4	58.6	
	女性:50代	114	2.6	0.9	25.4	17.5	43.0	8.8	1.8	3.5	60.5	
	女性:60代	134	3.7	3.7	21.6	15.7	45.5	9.0	0.7	7.4	61.2	
	女性:70歳以上	51	3.9	-	17.6	13.7	41.2	9.8	13.7	3.9	54.9	
	男性:10・20代	5	-	-	20.0	20.0	20.0	40.0	-	-	-	40.0
	男性:30代	53	-	3.8	39.6	11.3	28.3	15.1	1.9	3.8	39.6	
	男性:40代	67	1.5	3.0	32.8	16.4	32.8	10.4	3.0	4.5	49.2	
	男性:50代	64	-	6.3	23.4	26.6	40.6	1.6	1.6	6.3	67.2	
男性:60代	156	1.3	2.6	36.5	13.5	35.9	7.7	2.6	3.9	49.4		
男性:70歳以上	62	1.6	3.2	24.2	17.7	27.4	17.7	8.1	4.8	45.1		
	無回答	12	8.3	-	41.7	8.3	41.7	-	-	8.3	50.0	
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	20	5.0	-	20.0	15.0	45.0	5.0	10.0	5.0	60.0	
	女性:ある程度同感する	202	5.9	1.5	19.8	11.9	46.5	10.9	3.5	7.4	58.4	
	女性:あまり同感しない	165	1.8	1.2	28.5	18.2	35.8	12.7	1.8	3.0	54.0	
	女性:同感しない	153	3.3	3.3	32.7	15.0	29.4	15.0	1.3	6.6	44.4	
	男性:同感する	43	-	4.7	27.9	4.7	41.9	16.3	4.7	4.7	46.6	
	男性:ある程度同感する	157	1.9	3.2	25.5	18.5	39.5	8.9	2.5	5.1	58.0	
	男性:あまり同感しない	118	-	3.4	33.9	15.3	33.1	10.2	4.2	3.4	48.4	
	男性:同感しない	88	1.1	3.4	44.3	17.0	22.7	9.1	2.3	4.5	39.7	
	無回答	15	-	6.7	26.7	26.7	33.3	6.7	-	6.7	60.0	

⑩家庭の問題における最終的な決定をしている

図表3-18 家庭の問題における最終的な決定をしている〔全体、性別〕（前回調査比較）



「家庭の問題における最終的な決定をしている」については、『主に夫』が44.3%、「同じ程度に分担している」が40.5%となっている。

性別で見ると、男女とも「同じ程度に分担している」が約4割で同程度となっており、『主に夫』は男性の方が、『主に妻』は女性の方がそれぞれ約10ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも『主に妻』の割合が約4～9ポイント低くなり、『主に夫』の割合が約4ポイント高くなっている。

年代別でみると、女性の年齢が高い層では『主に夫』の割合が高くなっている。反対に年齢が低い層では「同じ程度に分担している」や『主に妻』の割合が高くなる傾向にある。男性は40代で「同じ程度に分担している」が50.7%と高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に反対する人は『主に夫』の割合が減り、「同じ程度に分担している」の割合が高くなる傾向にある。

図表3-19 家庭の問題における最終的な決定をしている [全体、年代別、性別役割分担意識別]

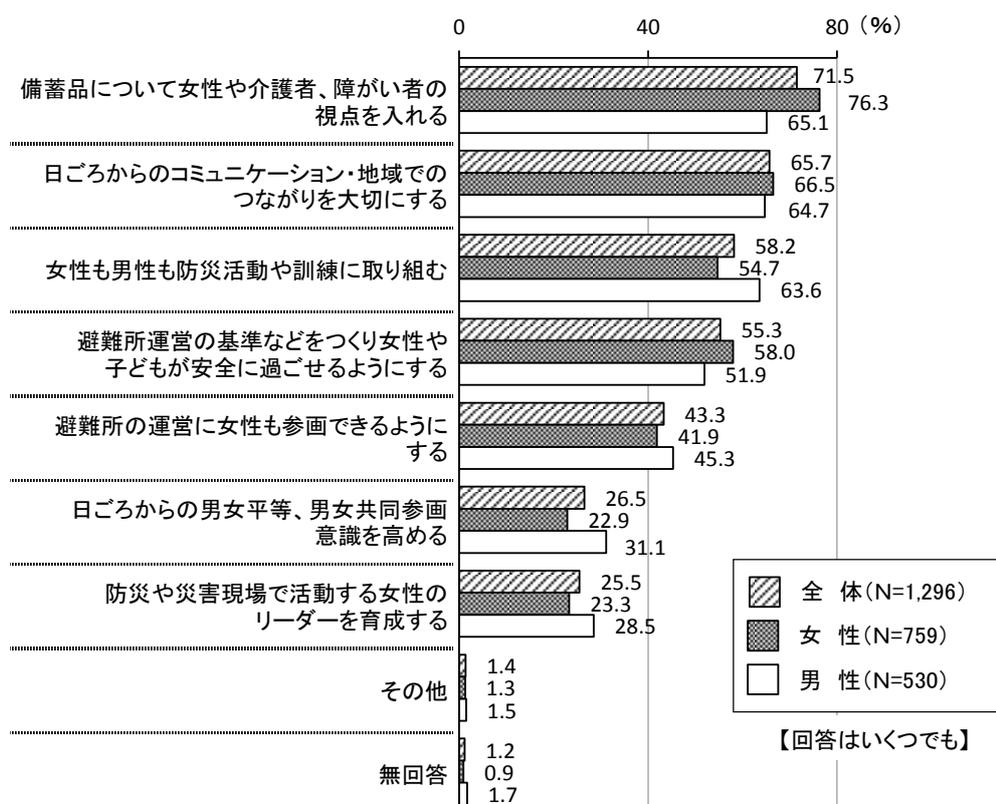
		標本数	主に妻が行っている	主夫がに一妻が行い、負担	同じ程度に分担	主妻がに一夫が行い、負担	主に夫が行っている	その他	無回答	『主に妻』	『主に夫』	
全体		961 100.0	38 4.0	66 6.9	389 40.5	196 20.4	230 23.9	21 2.2	21 2.2	104 10.9	426 44.3	
年代別	女性:10・20代	22	4.5	18.2	31.8	13.6	18.2	4.5	9.1	22.7	31.8	
	女性:30代	93	5.4	6.5	60.2	10.8	11.8	4.3	1.1	11.9	22.6	
	女性:40代	128	6.3	12.5	44.5	17.2	17.2	1.6	0.8	18.8	34.4	
	女性:50代	114	7.0	8.8	40.4	19.3	21.1	1.8	1.8	15.8	40.4	
	女性:60代	134	5.2	9.0	26.9	18.7	35.1	4.5	0.7	14.2	53.8	
	女性:70歳以上	51	2.0	3.9	29.4	17.6	37.3	-	9.8	5.9	54.9	
	男性:10・20代	5	-	-	40.0	40.0	20.0	-	-	-	-	60.0
	男性:30代	53	-	5.7	43.4	30.2	18.9	1.9	-	5.7	49.1	
	男性:40代	67	4.5	3.0	50.7	17.9	20.9	-	3.0	7.5	38.8	
	男性:50代	64	1.6	7.8	28.1	32.8	25.0	3.1	1.6	9.4	57.8	
	男性:60代	156	1.9	0.6	44.9	22.4	27.6	0.6	1.9	2.5	50.0	
	男性:70歳以上	62	1.6	4.8	33.9	24.2	29.0	3.2	3.2	6.4	53.2	
	無回答	12	-	16.7	33.3	33.3	8.3	-	8.3	16.7	41.6	
性別役割分担意識別	女性:同感する	20	10.0	-	35.0	5.0	50.0	-	-	10.0	55.0	
	女性:ある程度同感する	202	5.9	8.4	30.2	18.3	31.2	2.0	4.0	14.3	49.5	
	女性:あまり同感しない	165	3.0	10.3	44.8	17.0	21.2	1.8	1.8	13.3	38.2	
	女性:同感しない	153	7.2	11.1	47.1	15.0	13.1	5.2	1.3	18.3	28.1	
	男性:同感する	43	2.3	2.3	41.9	11.6	39.5	-	2.3	4.6	51.1	
	男性:ある程度同感する	157	1.9	3.2	29.9	34.4	28.7	0.6	1.3	5.1	63.1	
	男性:あまり同感しない	118	2.5	3.4	44.9	24.6	21.2	0.8	2.5	5.9	45.8	
	男性:同感しない	88	1.1	4.5	55.7	17.0	14.8	4.5	2.3	5.6	31.8	
	無回答	15	-	6.7	53.3	26.7	13.3	-	-	6.7	40.0	

第4章 防災に関することについて

1. 災害に備えるために必要なこと

問7. 過去の災害対応における経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が求められています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

図表4-1 災害に備えるために必要なこと [全体、性別]



過去の経験から災害に備えるために、男女共同参画の視点による対策や対応が求められているが、どのようなことが必要かたずねたところ、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が71.5%で最も高く、次いで「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」が65.7%、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が58.2%、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が55.3%、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」が43.3%など多岐にわたってあげられている。

性別でみると、女性は「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が76.3%で男性（65.1%）を11.2ポイント上回っている。また、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」が58.0%と男性（51.9%）より6.1ポイント高くなっている。他方、男性は「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（63.6%）や「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」（31.1%）などが8ポイント以上女性よりも高く、その他「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」も5.2ポイント高くなっている。

年代別でみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性の各年代で高いが、特に50代や30代以下の年代で8割前後となっている。「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」や「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」などは男女とも年齢が高い層で割合が高くなっている。

図表4-2 災害に備えるために必要なこと〔全体、年代別〕

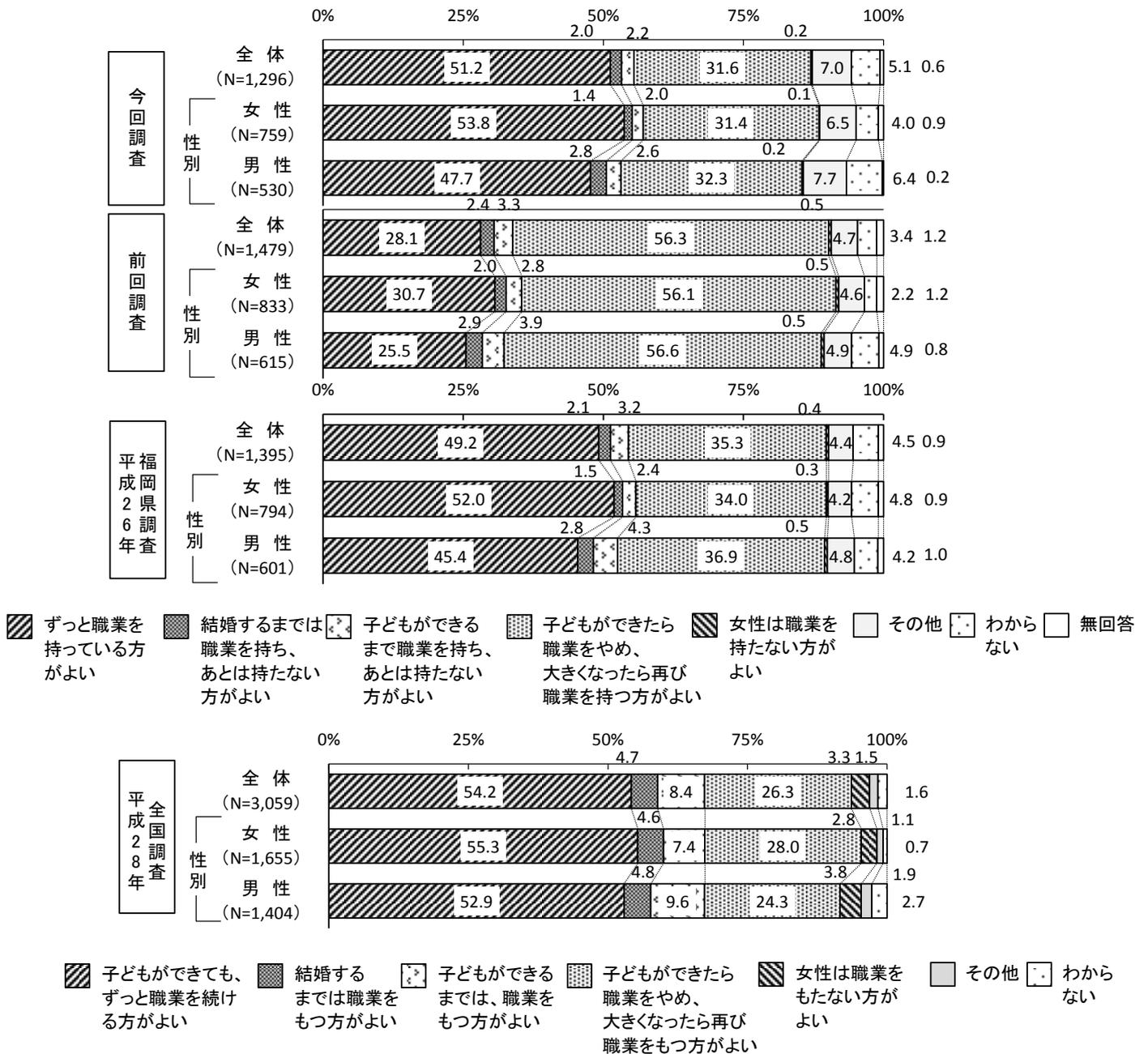
		標本数	避難所の運営に女性も参加できるようになる	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	備蓄品、障がい者視点や介護者視点を入れる	避難所運営の基準などを過ごせるようにする	防災や災害現場で活動する女性やリールダーを育成する	日ごろからのコミュニケーションを大切にする	日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める	その他	無回答
全体		1,296 100.0	561 43.3	754 58.2	926 71.5	717 55.3	330 25.5	852 65.7	343 26.5	18 1.4	16 1.2
年代別	女性:10・20代	92	34.8	57.6	77.2	50.0	15.2	69.6	26.1	2.2	-
	女性:30代	129	35.7	51.9	77.5	69.0	21.7	51.2	16.3	1.6	-
	女性:40代	154	40.3	50.0	75.3	55.2	26.6	61.7	18.2	1.3	0.6
	女性:50代	135	45.9	49.6	80.7	57.0	25.2	72.6	22.2	0.7	-
	女性:60代	168	47.6	58.3	75.0	59.5	22.0	70.8	23.2	0.6	1.2
	女性:70歳以上	72	44.4	66.7	70.8	52.8	26.4	77.8	40.3	2.8	5.6
	男性:10・20代	49	32.7	46.9	69.4	46.9	8.2	61.2	14.3	2.0	2.0
	男性:30代	75	41.3	65.3	65.3	56.0	38.7	58.7	20.0	4.0	-
	男性:40代	83	39.8	60.2	71.1	44.6	20.5	55.4	25.3	-	-
	男性:50代	74	55.4	60.8	68.9	47.3	27.0	62.2	33.8	1.4	1.4
男性:60代	173	45.7	63.0	60.1	59.0	28.3	65.9	38.2	1.2	2.3	
男性:70歳以上	70	54.3	80.0	62.9	48.6	42.9	84.3	42.9	1.4	4.3	
無回答		22	40.9	54.5	54.5	40.9	36.4	68.2	36.4	-	-

第5章 仕事について

1. 女性が職業を持つことについての考え方

問8. 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表5-1 女性が職業を持つことについての考え方 [全体、性別]
(前回・福岡県・全国調査比較)



女性が職業を持つことについて「ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が51.2%で最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という中断・再就職が31.6%となっている。「結婚するまでは職業を持ち、あとは持たない方がよい」(2.0%)、「子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」(2.2%)、「女性は職業を持たない方がよい」(0.2%)の3つは専業主婦志向であるが、回答は4.4%と少なく、女性が職業を持つことについては肯定的にとらえられている。

性別でみると、女性は「ずっと職業を持っている方がよい」が53.8%と男性(47.7%)よりも6.1ポイント高く、男性は中断・再就職や専業主婦志向がやや高くなっている。

前回調査と比べると、前回調査では男女とも「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という中断・再就職が5割以上と最も高かったが、今回調査では男女とも「ずっと職業を持っている方がよい」の割合が2割以上増え、最も高くなっている。

福岡県調査と比べると、男女ともほぼ同様の結果となっている。

全国調査と比べると、「ずっと職業を持っている方がよい」は男性で今回調査の方が5.2ポイント低くなっているが、女性は同程度の割合となっている。男性は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が今回調査の方が高く、また男女とも専業主婦志向の割合は低くなっている。

配偶関係別でみると、男女とも既婚の共働きの世帯では「ずっと職業を持っている方がよい」が6割台と高いが、共働きでない世帯では4割台と低くなっている。また女性の未婚の離別では「ずっと職業を持っている方がよい」が70.6%と最も高い。結婚していない女性は「ずっと職業を持っている方がよい」は51.8%であるが、男性は45.9%と5.9ポイント低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に反対する人では「ずっと職業を持っている方がよい」の割合は高く、中断・再就職や専業主婦志向の割合は低くなっている。性別役割分担に賛成する人は専業主婦志向よりも中断・再就職の割合が高くなっている。

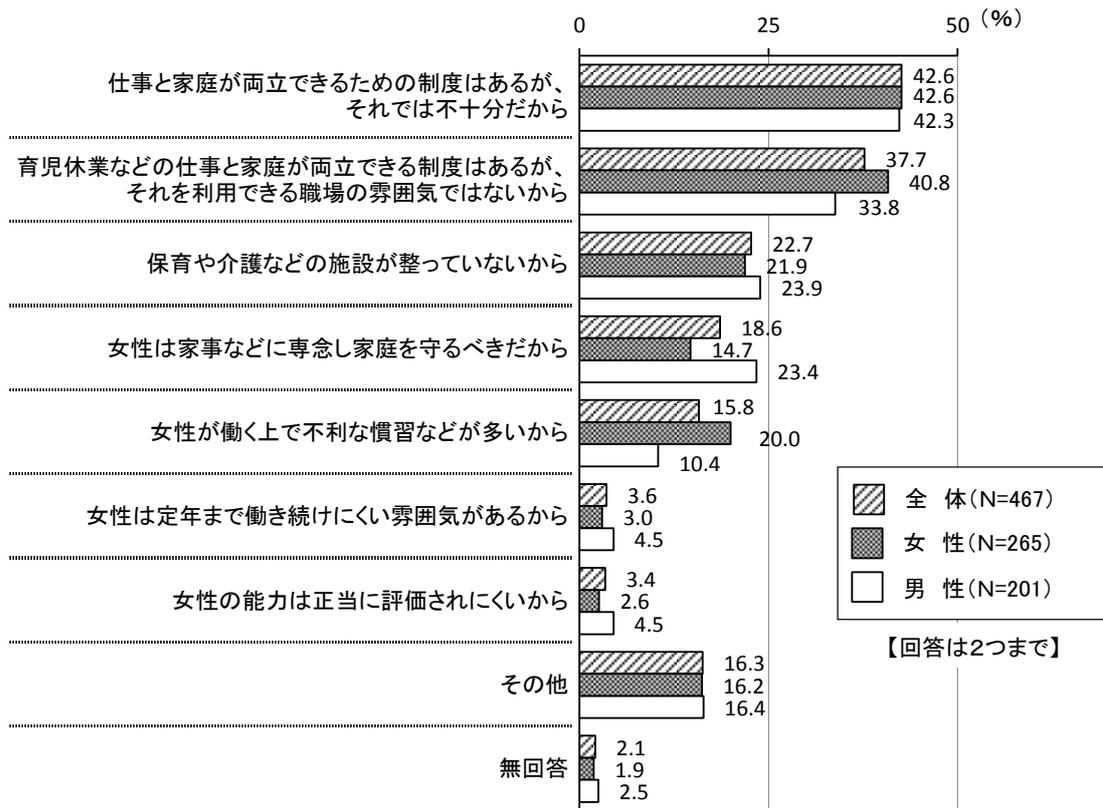
図表5-2 女性が職業を持つことについての考え方 [全体、配偶関係別、性別役割分担意識別]

			(%)								
		標本数	がずっと職業を持っている方	結婚するまでは職業を持つよ	子どもがとまでは職業を持つよ	子どもがとまでは職業を持つよ	子どもがとまでは職業を持つよ	女性には職業を持たない方がよい	その他	わからない	無回答
全体		1,296 100.0	664 51.2	26 2.0	29 2.2	410 31.6	2 0.2	91 7.0	66 5.1	8 0.6	
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	270	63.7	0.7	1.1	26.3	-	4.4	3.0	0.7	
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	279	43.7	1.4	3.2	36.6	0.4	9.7	4.3	0.7	
	女性:配偶者はいない(離別)	34	70.6	-	-	23.5	-	-	5.9	-	
	女性:配偶者はいない(死別)	32	53.1	-	-	31.3	-	6.3	3.1	6.3	
	女性:結婚していない	141	51.8	3.5	2.1	31.2	-	5.7	5.0	0.7	
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	153	63.4	1.3	2.0	25.5	-	5.2	2.6	-	
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	259	40.2	4.2	3.5	38.6	-	7.7	5.8	-	
	男性:配偶者はいない(離別)	18	38.9	-	-	38.9	-	11.1	11.1	-	
	男性:配偶者はいない(死別)	14	42.9	-	-	35.7	-	7.1	7.1	7.1	
	男性:結婚していない	85	45.9	2.4	2.4	23.5	1.2	11.8	12.9	-	
	無回答	11	27.3	-	-	36.4	-	9.1	27.3	-	
性別役割分担意識別	女性:同感する	30	23.3	10.0	13.3	40.0	-	-	6.7	6.7	
	女性:ある程度同感する	271	36.9	3.0	2.2	48.0	0.4	4.1	4.4	1.1	
	女性:あまり同感しない	233	60.9	-	1.3	24.9	-	7.7	4.3	0.9	
	女性:同感しない	213	70.9	-	0.9	16.9	-	9.4	1.9	-	
	男性:同感する	50	30.0	16.0	10.0	32.0	-	4.0	8.0	-	
	男性:ある程度同感する	203	28.6	3.0	3.9	47.3	-	9.4	7.9	-	
	男性:あまり同感しない	152	60.5	-	-	27.6	-	7.9	3.9	-	
	男性:同感しない	115	73.0	-	0.9	11.3	0.9	7.0	7.0	-	
	無回答	29	51.7	3.4	-	24.1	-	3.4	13.8	3.4	

2. 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由

付問 8-1 【問 8 で、「2」～「5」のいずれかに○印をつけられた方は下の質問にお答えください。】
 あなたがそう思われる理由は何ですか。あなたのお考えに近いものを2つまで選び数字に○印をつけてください。

図表 5-3 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由 [全体、性別]



女性が職業を続けられない方がよいと思う理由は、「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」が 42.6%、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が 37.7%であげられている。

性別で見ると、「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」は男女とも4割台で同程度の割合となっている。女性は「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が 40.8%で男性（33.8%）より7ポイント高い。また、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は 20.0%で男性（10.4%）を9.6ポイント上回っている。一方、男性は「女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから」が 23.4%で女性（14.7%）よりも8.7ポイント高くなっている。

年代別でみると、「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」は女性の30代以下、男性の40代と50代で5割以上と高くなっている。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」は女性では各年代で4割前後となっているが、男性は70歳以上で57.1%と高いほかは、各年代約2割から3割半ばとなっている。「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」は女性の50代で3割、「保育や介護などの施設が整っていないから」は男女の60代で3割台「女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから」は男性の30代以下で3割半ばと他の年代に比べて高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に賛成する人は「女性は家事などの専念し家庭を守るべきだから」の割合が高くなっている。反対する人は「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」や「保育や介護などの施設が整っていないから」「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」などの割合が高くなっている

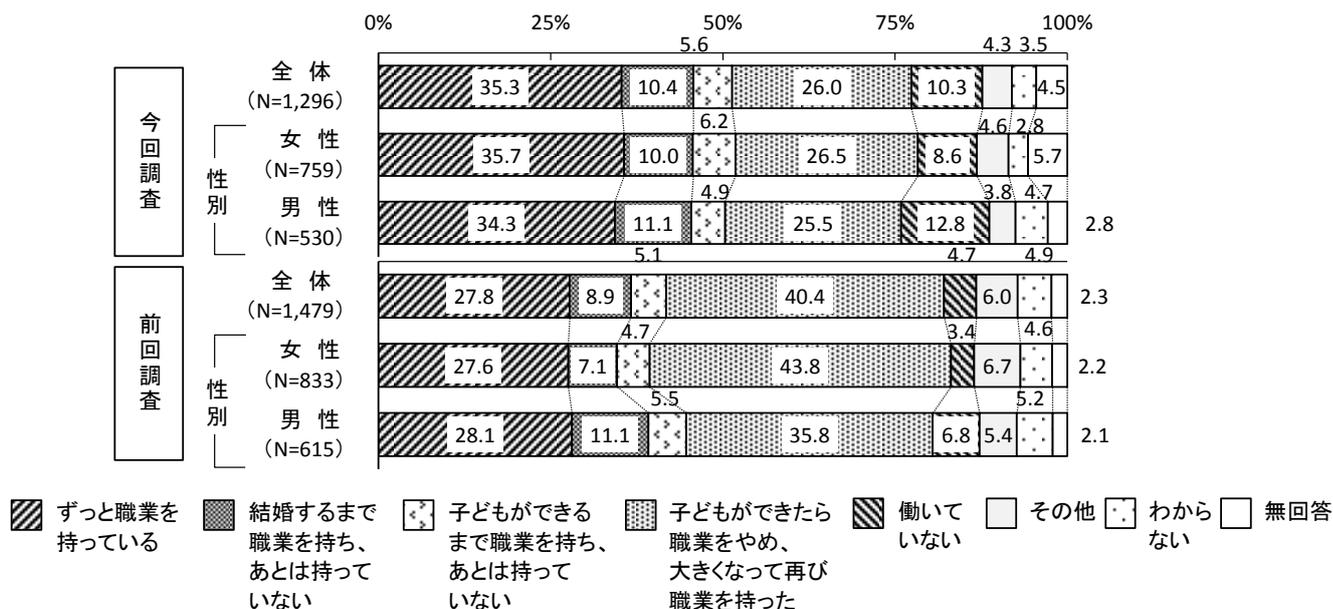
図表5-4 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

		標本数	庭女性を守るべきだから	く女性に定年まで働き続ける	れ女性に能力は正当に評価される	な女性が多いためから	で女性を利用できないから	育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それが	はめ事と家庭が両立できないから	整保育や介護などの施設が	その他	無回答
全体		467 100.0	87 18.6	17 3.6	16 3.4	74 15.8	176 37.7	199 42.6	106 22.7	76 16.3	10 2.1	
年代別	女性:10・20代	43	20.9	4.7	-	14.0	39.5	51.2	18.6	14.0	-	
	女性:30代	34	11.8	2.9	-	14.7	44.1	52.9	26.5	20.6	-	
	女性:40代	47	8.5	2.1	2.1	23.4	38.3	36.2	6.4	31.9	-	
	女性:50代	50	16.0	-	2.0	30.0	44.0	48.0	16.0	18.0	2.0	
	女性:60代	56	12.5	-	5.4	16.1	37.5	44.6	37.5	7.1	3.6	
	女性:70歳以上	29	20.7	13.8	3.4	17.2	37.9	20.7	27.6	6.9	6.9	
	男性:10・20代	17	35.3	-	-	11.8	17.6	35.3	23.5	17.6	-	
	男性:30代	22	36.4	4.5	9.1	4.5	36.4	31.8	22.7	27.3	-	
	男性:40代	26	26.9	7.7	-	15.4	30.8	61.5	15.4	15.4	3.8	
	男性:50代	24	16.7	8.3	4.2	8.3	33.3	50.0	8.3	16.7	4.2	
男性:60代	75	18.7	4.0	5.3	10.7	25.3	46.7	30.7	16.0	4.0		
男性:70歳以上	35	22.9	2.9	5.7	8.6	57.1	22.9	28.6	11.4	-		
無回答	9	22.2	-	11.1	33.3	66.7	33.3	11.1	-	-		
性別役割分担意識別	女性:同感する	19	73.7	5.3	-	10.5	21.1	31.6	15.8	5.3	-	
	女性:ある程度同感する	145	15.2	2.1	2.8	23.4	41.4	38.6	18.6	18.6	2.1	
	女性:あまり同感しない	61	4.9	4.9	1.6	14.8	41.0	55.7	24.6	16.4	-	
	女性:同感しない	38	-	2.6	5.3	18.4	47.4	44.7	31.6	10.5	5.3	
	男性:同感する	29	62.1	3.4	-	10.3	24.1	20.7	3.4	20.7	-	
	男性:ある程度同感する	110	25.5	3.6	5.5	8.2	30.0	46.4	20.0	18.2	3.6	
	男性:あまり同感しない	42	2.4	7.1	4.8	16.7	40.5	50.0	38.1	14.3	2.4	
	男性:同感しない	15	-	6.7	6.7	-	66.7	40.0	40.0	6.7	-	
無回答	8	12.5	-	-	-	37.5	25.0	50.0	12.5	-		

3. 女性の実際の働き方

問9. では、あなた（男性の場合は、配偶者・パートナー）の今の働き方は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。【独身の方も、結婚した場合を想定してお答えください。】

図表5-5 女性の実際の働き方 [全体、性別] (前回調査比較)



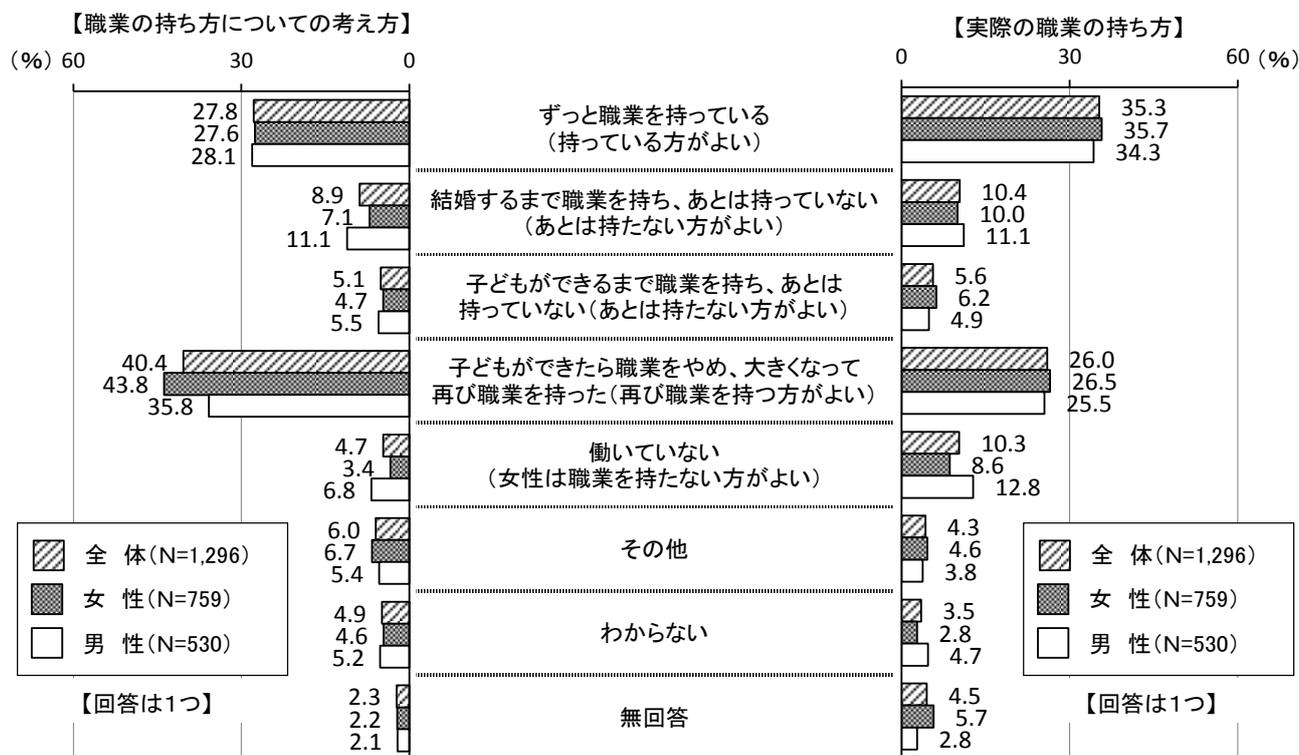
女性の実際の働き方については「ずっと職業を持っている」が35.3%と最も高く、次いで「子どもができたらか職業をやめ、大きくなって再び職業を持った」が26.0%、「結婚するまで職業を持ち、あとは持っていない」が10.4%、「働いていない」が10.3%となっている。

性別で見ると、男女ともほぼ同様の結果となっている。

前回調査と比べると、男女とも「ずっと職業を持っている」が男女とも約6～8ポイント高くなり、「子どもができたらか職業をやめ、大きくなって再び職業を持った」が約10～17ポイント低くなっている。

女性が職業を持つことについての考え方では「ずっと職業を持っている方がよい」は約5割であったが、実施の持ち方では3割半ばとなっている。また「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」という中断・再就職は、実際の職業の持ち方ではやや低く、専業主婦の割合が考え方よりも高くなっている。

図表5-6 女性の職業の持ち方の考え方と実際の働き方〔全体、性別〕



年代別でみると、男女とも年代が低い層で「ずっと職業を持っている」の割合が4割台から5割台と高くなっている。「子どもができたら職業をやめ、大きくなって再び職業を持った」は女性の40代から60代、男性の40代と50代での割合が約3割から4割と高くなっている。「結婚するまで職業を持ち、あとは持っていない」は女性の50代と60代、「子どもができるまで職業を持ち、あとは持っていない」は女性の30代と40代で1割台と他の年代に比べて高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に反対する人では「ずっと職業を持っている」の割合が高くなっている。「子どもができたら職業をやめ、大きくなって再び職業を持った」は、ある程度同感する男女で、賛成する男女では「結婚するまで職業を持ち、あとは持っていない」や「働いていない」の割合が高くなっている。

図表5-7 女性の実際の働き方〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

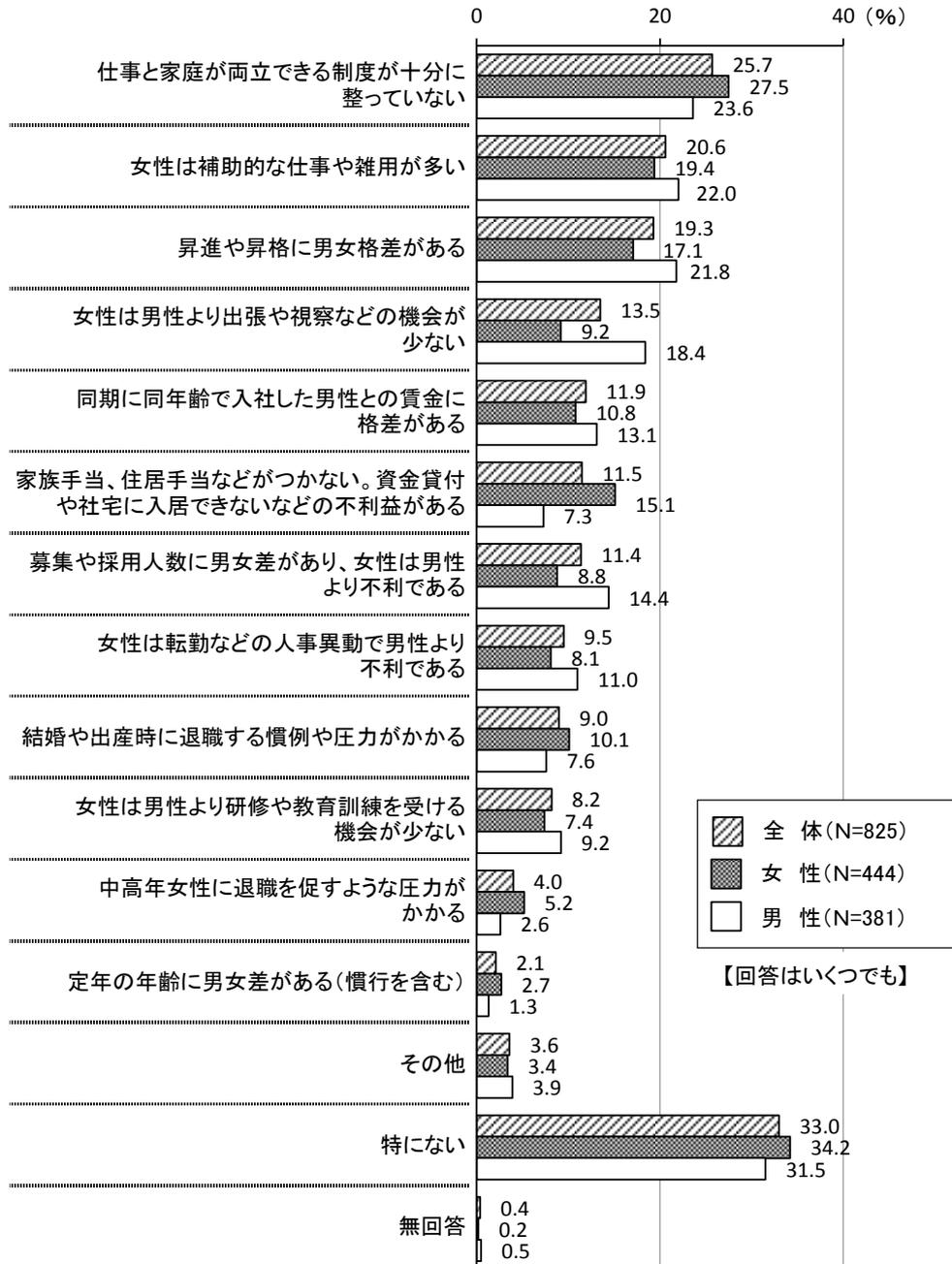
		標本数	ずっと職業を持っている	いち、結婚あすとはまで持つて職業を	て業いなき、あとは持つて	子をどめもができたなら職業	再をどめもができたなら職業	働いていない	その他	わからない	無回答
全体		1,296 100.0	457 35.3	135 10.4	73 5.6	337 26.0	134 10.3	56 4.3	46 3.5	58 4.5	
年代別	女性:10・20代	92	44.6	5.4	6.5	22.8	6.5	1.1	8.7	4.3	
	女性:30代	129	52.7	8.5	11.6	13.2	3.9	3.9	3.1	3.1	
	女性:40代	154	33.1	7.8	11.7	29.2	5.2	5.8	3.2	3.9	
	女性:50代	135	32.6	11.1	2.2	34.8	6.7	8.9	0.7	3.0	
	女性:60代	168	29.2	14.9	1.8	28.6	16.7	3.0	-	6.0	
	女性:70歳以上	72	23.6	9.7	2.8	22.2	12.5	4.2	4.2	20.8	
	男性:10・20代	49	42.9	2.0	6.1	20.4	4.1	2.0	18.4	4.1	
	男性:30代	75	48.0	6.7	8.0	14.7	12.0	5.3	4.0	1.3	
	男性:40代	83	34.9	8.4	7.2	30.1	7.2	4.8	4.8	2.4	
	男性:50代	74	35.1	12.2	2.7	40.5	5.4	2.7	1.4	-	
男性:60代	173	32.4	16.8	4.6	23.1	16.2	1.7	2.9	2.3		
男性:70歳以上	70	18.6	11.4	1.4	22.9	24.3	8.6	4.3	8.6		
無回答	22	27.3	4.5	-	50.0	13.6	4.5	-	-		
性別役割分担意識別	女性:同感する	30	33.3	13.3	6.7	16.7	13.3	6.7	3.3	6.7	
	女性:ある程度同感する	271	24.4	12.2	8.9	32.1	10.3	4.8	1.5	5.9	
	女性:あまり同感しない	233	39.1	10.7	6.4	23.2	9.0	3.4	4.3	3.9	
	女性:同感しない	213	46.0	6.1	2.3	25.4	5.6	5.2	2.8	6.6	
	男性:同感する	50	22.0	16.0	8.0	14.0	24.0	4.0	6.0	6.0	
	男性:ある程度同感する	203	22.7	14.3	5.4	34.5	12.8	5.4	2.5	2.5	
	男性:あまり同感しない	152	40.8	10.5	3.3	23.0	13.2	2.0	5.3	2.0	
	男性:同感しない	115	51.3	5.2	4.3	17.4	7.8	3.5	7.0	3.5	
無回答	29	48.3	3.4	6.9	17.2	6.9	6.9	3.4	6.9		

4. 職場の環境

【現在職業を持っている方におたずねします。】

問 10. 現在あなたの職場の女性の中に、下記のことからあてはまる方がいますか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

図表 5-8 職場の環境 [全体、性別]



現在職業をもっている人に、職場の女性が置かれている環境についてたずねた。「特にない」は 33.0%で、6割以上が職場の女性に何らかの弊害があることになる。「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」が 25.7%と最も高く、以下、「女性は補助的な仕事や雑用が多い」(20.6%)、「昇進や昇格に男女格差がある」(19.3%)などが約2割、「女性は男性より出張や視察などの機会が少ない」(13.5%)、「同期に同年齢で入社した男性との賃金に額差がある」(11.9%)、「家族手当、住居手当などがつかない。賃金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある」(11.5%)、「募集や採用人数に男女格差があり、女性は男性より不利である」(11.4%)などが1割台と、目立って高い割合はないものの多岐にわたってあげられている。

性別でみると、女性は「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」「家族手当、住居手当などがつかない。賃金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある」「結婚や出産時に退職する慣例や圧力がかかる」「中高年女性に退職を促すような圧力がかかる」などの割合が男性よりも高く、男性は「女性は男性より出張や視察などの機会が少ない」「募集や採用人数に男女格差があり、女性は男性より不利である」「昇進や昇格に男女格差がある」など「女性は転勤などの人事異動で男性より不利である」「女性は補助的な仕事や雑用が多い」などの割合が女性よりも高くなっている。

年代別でみると、「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」は女性の50代以下と男性の40代で約3割と高くなっている。「女性は補助的な仕事や雑用が多い」は男女とも年齢が低い層で、また「結婚や出産時に退職する慣例や圧力がかかる」は女性の年齢が低い層での割合が高くなっている。「昇進や昇格に男女格差がある」「女性は男性より出張や視察などの機会が少ない」「女性は男性より研修や教育訓練を受ける機会が少ない」「同期に同年齢で入社した男性との賃金に格差がある」などは男性の年齢が高い層での割合が高い。

図表5-9 職場の環境 [全体、年代別]

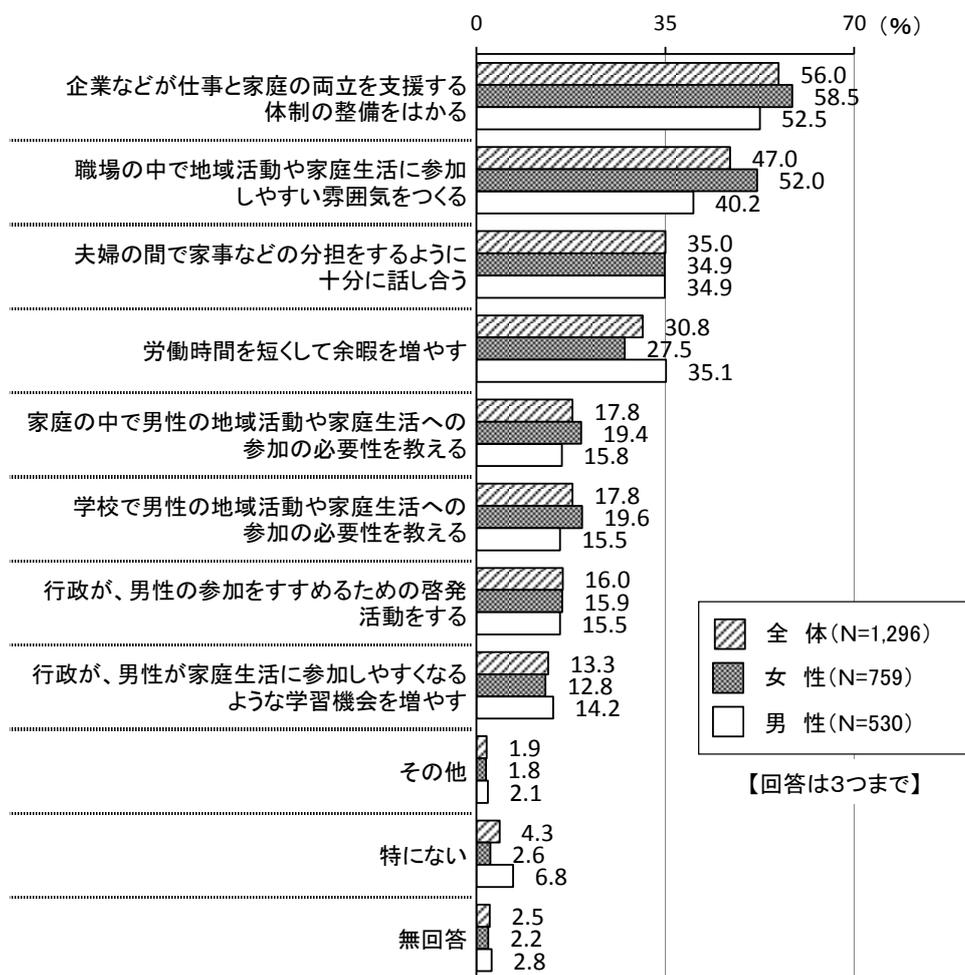
		標本数	女性募集や採用人数に不利である	賃金に格差がある	同期に同年齢で入社した男性との	女性に補助的な仕事や雑用が多い	昇進や昇格に男女格差がある	機会が男性より出張や視察などの	女性に男性より研修や教育訓練を受ける機会が少ない	力が女性に比べて退職する慣例や圧力がかかる	中高年女性に退職を促すような圧力がかかる	定年の年齢に男女差がある(慣行を含む)	女性に転勤などの人事異動で男性より不利である	仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない	家族手当、住居手当などに入居できないなどの不利益がある	その他	特にない	無回答
全体		825	94	98	170	159	111	68	74	33	17	78	212	95	30	272	3	
		100.0	11.4	11.9	20.6	19.3	13.5	8.2	9.0	4.0	2.1	9.5	25.7	11.5	3.6	33.0	0.4	
年代別	女性:10・20代	52	7.7	5.8	21.2	11.5	7.7	3.8	13.5	1.9	1.9	-	28.8	13.5	-	46.2	-	
	女性:30代	95	7.4	10.5	22.1	16.8	9.5	7.4	12.6	4.2	2.1	9.5	28.4	17.9	5.3	28.4	-	
	女性:40代	108	7.4	9.3	20.4	17.6	11.1	9.3	10.2	5.6	2.8	6.5	27.8	16.7	3.7	38.9	-	
	女性:50代	103	9.7	11.7	17.5	18.4	9.7	6.8	7.8	-	1.9	9.7	28.2	13.6	4.9	34.0	1.0	
	女性:60代	74	12.2	13.5	17.6	18.9	8.1	8.1	8.1	14.9	5.4	8.1	24.3	13.5	1.4	32.4	-	
	女性:70歳以上	11	9.1	18.2	9.1	18.2	-	9.1	-	-	-	-	27.3	18.2	9.1	-	-	-
	男性:10・20代	26	30.8	3.8	19.2	7.7	7.7	3.8	11.5	3.8	-	3.8	15.4	3.8	-	42.3	-	
	男性:30代	72	11.1	11.1	20.8	19.4	8.3	6.9	8.3	2.8	-	2.8	20.8	9.7	1.4	30.6	1.4	
	男性:40代	82	14.6	12.2	28.0	20.7	18.3	6.1	8.5	4.9	-	8.5	31.7	8.5	4.9	31.7	-	
	男性:50代	70	8.6	10.0	24.3	25.7	20.0	11.4	2.9	-	1.4	7.1	25.7	2.9	10.0	32.9	-	
	男性:60代	117	16.2	17.9	17.9	24.8	26.5	11.1	8.5	2.6	2.6	19.7	22.2	7.7	2.6	30.8	0.9	
	男性:70歳以上	14	14.3	21.4	21.4	21.4	14.3	21.4	7.1	-	7.1	28.6	7.1	14.3	-	14.3	-	
	無回答	1	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-

第6章 社会活動などへの参加・参画について

1. 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと

問 11. 男性が地域活動（自治会・コミュニティの活動・子ども会など）や家庭生活（家事・育児・介護など）へ参加しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選び数字に○印をつけてください。

図表6-1 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと [全体、性別]



男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なことは「企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる」が56.0%で最も高く、次いで「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」が47.0%、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」が35.0%、「労働時間を短くして余暇を増やす」が30.8%と企業への働きかけが上位にあがっている。

性別でみると、女性は「企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる」や「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」が男性よりも割合が約6～12ポイント高くなっている。男性は「労働時間を短くして余暇を増やす」が女性よりも7.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる」は女性の30代から50代、男性の30代と60代で約6割、「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」は女性の30代で62.8%と高くなっている。「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」は女性の10・20代と男性の70歳以上で4割半ばから5割台、「労働時間を短くして余暇を増やす」は男女とも年代の低い層で割合が高くなっている。「学校で男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える」や「家庭の中で男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える」は男女とも年代が高い層で割合が高くなる傾向がある。また「行政が、男性の参加を進めるための啓発活動をする」は女性の年代が高い層で割合が高くなっている。

図表6-2 男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なこと [全体、年代別]

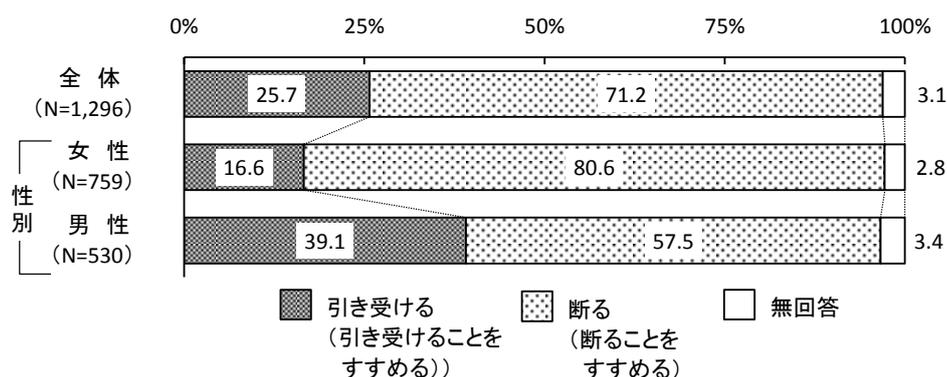
(%)

		標本数	行政が、男性の参加をすすめるための啓発活動をする	会加行政を増やす、男性が家庭生活に参加する	家庭での男性の参加の地域活動や	家庭生活への参加の地域活動や	学校での男性の地域活動や	生活への参加の地域活動や	夫婦の間で家事などの分担を	や労働時間を短くして余暇を増	く活職場に参加しやすい雰囲気をつ	るを企支援するが仕事と家庭の両	その他	特にな	無回答
全体		1,296 100.0	208 16.0	172 13.3	231 17.8	231 17.8	231 17.8	453 35.0	399 30.8	609 47.0	726 56.0	25 1.9	56 4.3	32 2.5	
年代別	女性:10・20代	92	8.7	19.6	19.6	15.2	45.7	30.4	48.9	55.4	1.1	2.2	1.1		
	女性:30代	129	13.2	8.5	14.0	9.3	27.9	46.5	62.8	62.0	1.6	3.1	3.1		
	女性:40代	154	11.0	6.5	11.0	22.1	29.9	34.4	55.8	61.7	3.9	0.6	1.9		
	女性:50代	135	19.3	10.4	20.0	23.0	37.8	21.5	46.7	58.5	2.2	3.0	0.7		
	女性:60代	168	20.8	17.3	26.8	22.6	36.9	15.5	53.6	56.5	1.2	3.0	1.8		
	女性:70歳以上	72	23.6	16.7	25.0	25.0	34.7	13.9	37.5	52.8	-	5.6	6.9		
	男性:10・20代	49	12.2	14.3	12.2	10.2	32.7	32.7	36.7	42.9	4.1	10.2	4.1		
	男性:30代	75	13.3	13.3	6.7	8.0	38.7	64.0	44.0	58.7	1.3	2.7	1.3		
	男性:40代	83	20.5	13.3	4.8	12.0	28.9	42.2	39.8	43.4	4.8	9.6	3.6		
	男性:50代	74	16.2	9.5	16.2	16.2	32.4	33.8	40.5	56.8	2.7	5.4	-		
	男性:60代	173	15.0	15.6	20.8	20.8	32.4	28.9	42.8	60.7	0.6	5.8	2.9		
男性:70歳以上	70	15.7	17.1	28.6	15.7	51.4	14.3	34.3	40.0	1.4	7.1	5.7			
無回答		22	27.3	18.2	22.7	18.2	27.3	40.9	22.7	54.5	-	9.1	-		

2. 地域の役職に女性が推薦された場合の対処

問 12. 区長やPTA会長などの地域の役職についておたずねします。女性の場合は、もしあなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の場合は、妻などが推薦されたら引き受けることをすすめますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表 6 - 3 地域の役職に女性が推薦された場合の対処 [全体、性別]



地域の役職に、女性では自分が、男性では妻などが推薦された場合に引き受けるかどうかたずねた。「引き受ける（引き受けることをすすめる）」は 25.7%、「断る（断ることをすすめる）」は 71.2%と地域の役職につくことは消極的な人が多い。

性別でみると、女性は「断る」が 80.6%と圧倒的に高く、「引き受ける」は 16.6%である。男性は「引き受けることをすすめる」が 39.1%と女性に比べると積極的であるが、「断ることをすすめる」は 57.5%と約 6 割は女性が地域の役職につくことには消極的である。

年代別でみると、女性で「引き受ける」は70歳以上で19.4%と最も高いが、2割に満たない。40代と50代では1割半ばと他の年代に比べて低くなっている。男性では30代で「引き受けることをすすめる」が22.7%と、他の年代が3割台後半から5割台であるのに比べ低くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割に反対する人では「引き受ける（引き受けることをすすめる）」の割合が高い傾向にあるが、それでも女性は23.9%、男性は49.6%と5割は超えない。

図表6-4 地域の役職に女性が推薦された場合の対処 [全体、年代別、性別役割分担意識別]

(%)

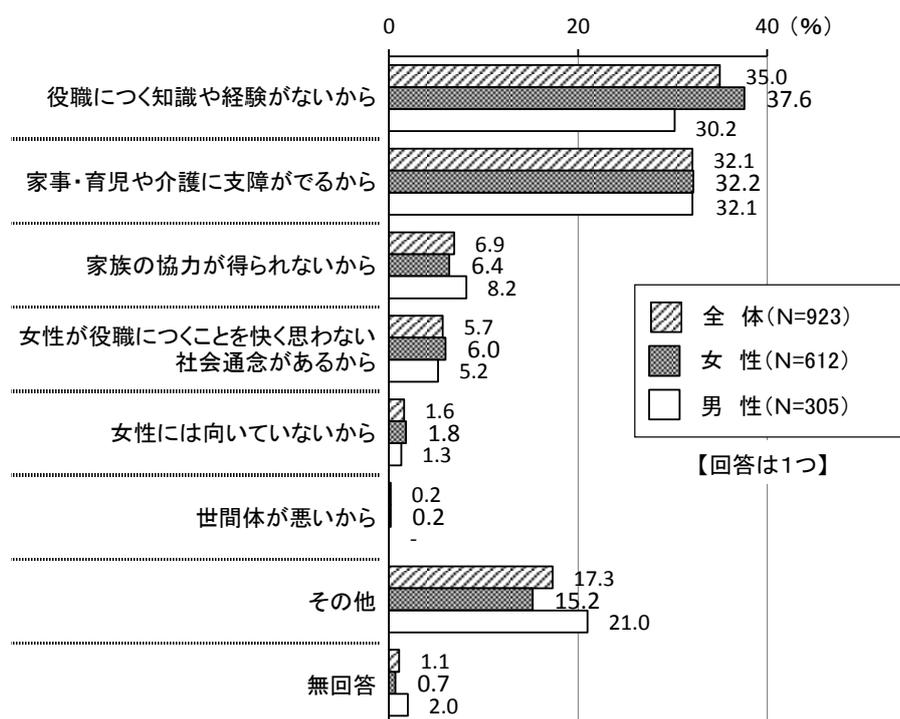
		標本数	め受引 ける こと を す す め る （ 引 き 受 け る こ と を す す め る ）	す断 す め る （ 断 る こ と を ）	無 回 答
全 体		1,296 100.0	333 25.7	923 71.2	40 3.1
年 代 別	女性:10・20代	92	16.3	81.5	2.2
	女性:30代	129	17.1	81.4	1.6
	女性:40代	154	15.6	82.5	1.9
	女性:50代	135	14.8	82.2	3.0
	女性:60代	168	17.3	79.8	3.0
	女性:70歳以上	72	19.4	73.6	6.9
	男性:10・20代	49	44.9	44.9	10.2
	男性:30代	75	22.7	76.0	1.3
	男性:40代	83	37.3	61.4	1.2
	男性:50代	74	40.5	58.1	1.4
	男性:60代	173	39.9	56.1	4.0
	男性:70歳以上	70	50.0	45.7	4.3
	無回答	22	22.7	72.7	4.5
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	30	13.3	73.3	13.3
	女性:ある程度同感する	271	14.0	83.4	2.6
	女性:あまり同感しない	233	14.2	83.7	2.1
	女性:同感しない	213	23.9	74.2	1.9
	男性:同感する	50	40.0	58.0	2.0
	男性:ある程度同感する	203	36.9	59.1	3.9
	男性:あまり同感しない	152	33.6	63.2	3.3
	男性:同感しない	115	49.6	47.0	3.5
	無回答	29	13.8	79.3	6.9

3. 断る理由

付問 12-1 【問 12 で「2. 断る（断ることをすすめる）」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

その理由は何ですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表 6-5 断る（断ることをすすめる）理由 [全体、性別]



地域の役職に推薦された場合「断る（断ることをすすめる）」と回答した人に、その理由をたずねたところ「役職につく知識や経験がないから」が 35.0%、「家事・育児や介護に支障がでるから」が 32.1%でこの2つの回答が3割台と高くなっている。「家族の協力が得られないから」（6.9%）、「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」（5.7%）などの理由は1割にも満たない。

性別でみると、女性では「役職につく知識や経験がないから」が 37.6%と男性（30.2%）よりも 7.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、「役職につく知識や経験がないから」は男女とも70歳以上で6割台、60代でも4割台と年代が高い層での割合が高い。「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の10・20代で49.3%、男性の30代で50.9%と年代が低い層での割合が高くなっている。「家族の協力が得られないから」は女性の50代と男性の60代で1割を超えており、他の年代に比べ高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも性別役割分担に賛成の人は「家事・育児や介護に支障がでるから」の割合が3割台から4割台と高くなっている。性別役割分担に反対の人は「役職につく知識や経験がないから」の割合が高い傾向にあり、特に男性で顕著である。

図表6-6 断る（断ることをすすめる）理由〔全体、年代別、性別役割分担意識別〕

		標本数	い 家 族 の 協 力 が 得 ら れ な い か ら	念 が あ る か ら	を 快 く 思 わ な い か ら	女 性 が 役 職 に つ く 社 会 通 常 の 知 識 や 経 験 が あ ら な い か ら	障 が あ る か ら	家 事 ・ 育 児 や 介 護 に 支 障 が あ る か ら	が 役 職 に つ く 知 識 や 経 験 が あ ら な い か ら	か ら	女 性 に は 向 い て い な い か ら	世 間 体 が 悪 い か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		923 100.0	64 6.9	53 5.7	296 32.1	323 35.0	15 1.6	2 0.2	160 17.3	10 1.1				
年 代 別	女性:10・20代	75	4.0	1.3	49.3	32.0	1.3	1.3	10.7	-				
	女性:30代	105	2.9	5.7	42.9	34.3	-	-	14.3	-				
	女性:40代	127	6.3	4.7	42.5	28.3	1.6	-	15.7	0.8				
	女性:50代	111	10.8	8.1	22.5	38.7	0.9	-	18.0	0.9				
	女性:60代	134	7.5	7.5	21.6	42.5	4.5	-	16.4	-				
	女性:70歳以上	53	5.7	9.4	5.7	60.4	1.9	-	13.2	3.8				
	男性:10・20代	22	4.5	-	36.4	18.2	4.5	-	31.8	4.5				
	男性:30代	57	5.3	8.8	50.9	10.5	1.8	-	21.1	1.8				
	男性:40代	51	5.9	2.0	39.2	17.6	-	-	31.4	3.9				
	男性:50代	43	9.3	7.0	25.6	25.6	2.3	-	30.2	-				
	男性:60代	97	12.4	6.2	27.8	40.2	-	-	11.3	2.1				
	男性:70歳以上	32	6.3	3.1	6.3	65.6	3.1	-	15.6	-				
無回答	16	-	-	37.5	31.3	-	6.3	25.0	-					
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	22	9.1	-	40.9	45.5	-	-	4.5	-				
	女性:ある程度同感する	226	6.6	8.4	33.6	35.8	4.0	-	11.1	0.4				
	女性:あまり同感しない	195	6.2	3.1	31.8	44.1	0.5	0.5	13.3	0.5				
	女性:同感しない	158	6.3	7.0	27.8	32.3	0.6	-	24.7	1.3				
	男性:同感する	29	10.3	-	34.5	27.6	6.9	-	20.7	-				
	男性:ある程度同感する	120	8.3	4.2	40.8	25.8	0.8	-	18.3	1.7				
	男性:あまり同感しない	96	8.3	8.3	28.1	33.3	1.0	-	17.7	3.1				
	男性:同感しない	54	3.7	5.6	20.4	35.2	-	-	33.3	1.9				
無回答	23	8.7	4.3	34.8	21.7	-	4.3	26.1	-					

第7章 慣習・しきたりについて

1. 身の回りにおける男女の役割分担

問 13. 身の回りのことにおける男女の役割分担についておたずねします。

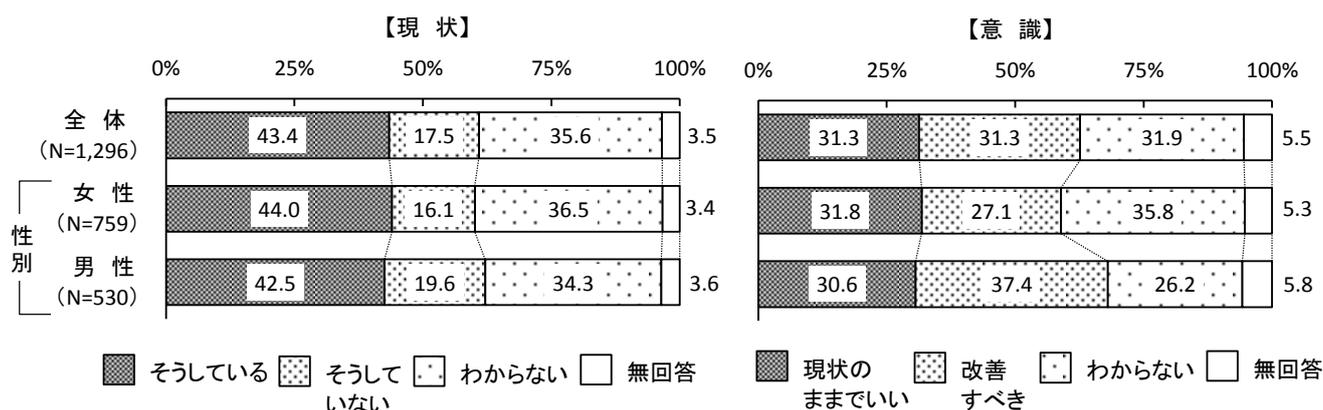
(1) 現状：あなたの身の回りのことについて、下記の①～⑧のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

問 13. 身の回りのことにおける男女の役割分担についておたずねします。

(2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。下記の①～⑧のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

① 地域活動は男性が取り仕切る

図表7-1 地域活動は男性が取り仕切る [全体、性別]



身の回りのことにおける男女の役割について現状と、今後どうすべきかという意識をたずねた。全項目に渡って「わからない」が約2割から6割近くある。

「地域活動は男性が取り仕切る」について現状は「そうしている」が43.4%、「そうしていない」は17.5%と男性が決定している場合が多いようである。

性別でみると、男女とも「そうしている」が4割台とほぼ同程度となっているが、「そうしていない」は男性の方がやや高くなっている。「わからない」は男女とも3割半ばで、地域活動についての様子を知らない人が3分の1程度いることになる。

今後どうすべきかの意識をみると、男性の「改善すべき」は37.4%と女性(27.1%)よりも10.3ポイント高くなっており、男性自身が地域活動のあり方を改善すべきと考えている人が多い。

意識を現状別でみると、「そうしている」場合、「改善すべき」が 45.1%、「現状のまま
 でいい」は 38.5%である。半数近くの人には地域活動を男性が取り仕切るということに問題
 を感じながらも、そのままでいいと考えている人が 4 割近くいる。

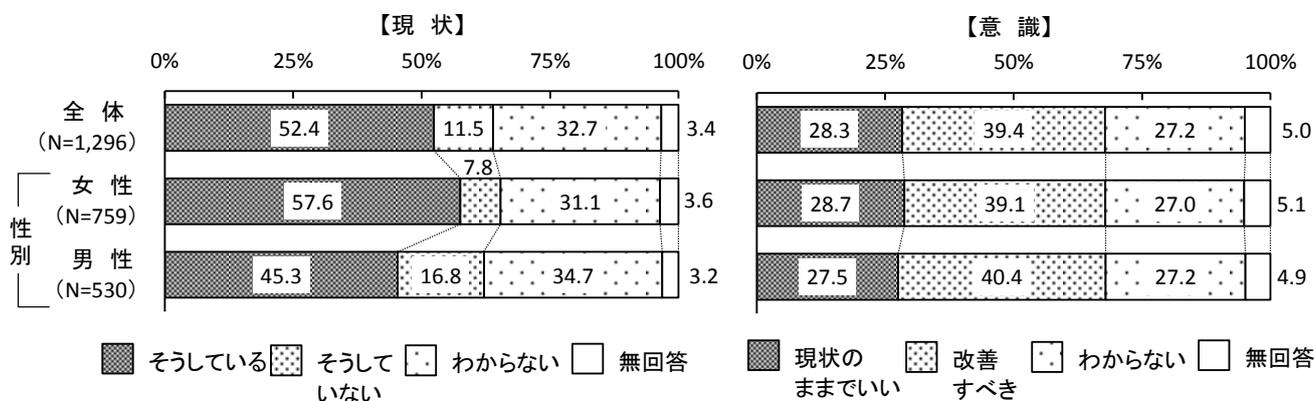
図表 7-2 【意識】地域活動は男性が取り仕切る [全体、現状別]

(%)

			標 本 数	【意識】① 地域活動は男性が取り仕切る			
				い 現 状 の ま ま で	改 善 す べ き	わ か ら な い	無 回 答
全 体			1,296	406	406	413	71
			100.0	31.3	31.3	31.9	5.5
現 状 別	① 地域活動は男性が 取り仕切る	そうしている	563	38.5	45.1	14.4	2.0
		そうしていない	227	63.0	25.1	9.7	2.2
		わからない	461	9.5	19.5	67.2	3.7
		無回答	45	4.4	11.1	-	84.4

② 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている

図表 7-3 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている [全体、性別]



「地域での集会のときは女性がお茶くみや後片づけをしている」について、現状は「そうしている」が 52.4%と半数を超えて地域活動に関する項目の中で最も高く、「そうして
いない」は 11.5%で最も低い。

性別でみると、女性では「そうしている」が 57.6%で男性 (45.3%) を 12.3 ポイント
上回っており、女性の方がお茶くみや後片づけをしていると認識している割合が高い。

意識をみると、男女とも「改善すべき」が約 4 割と「現状のままでいい」を約 1 割上回
っている。

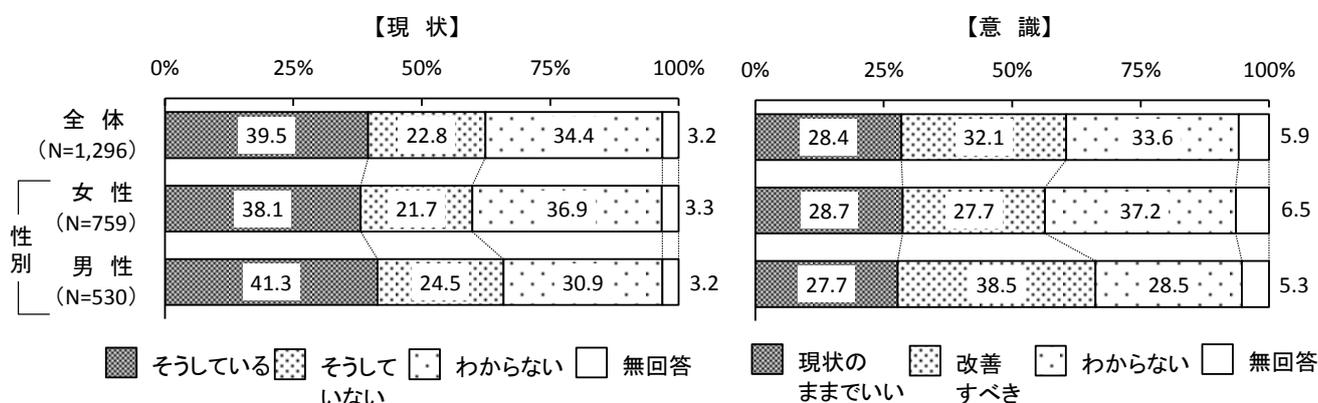
意識を現状別でみると、「そうしている」場合、「改善すべき」は 57.9%と「現状のま
までいい」(32.1%) を 25.8 ポイント上回っている。「そうしていない」場合、「現状のま
までいい」は 81.2%と高率である。

図表 7-4 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている [全体、現状別]

		現状別	標本数	【意識】② 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている (%)			
				い現 い状 の ま ま で	改 善 す べ き	わ か ら な い	無 回 答
全体			1,296 100.0	367 28.3	511 39.4	353 27.2	65 5.0
現状別	② 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている	そうしている	679	32.1	57.9	9.3	0.7
		そうしてない	149	81.2	14.1	3.4	1.3
		わからない	424	6.6	21.9	67.2	4.2
		無回答	44	-	9.1	-	90.9

③ 地域の役員はほとんど男性になっている

図表 7-5 地域の役員はほとんど男性になっている [全体、性別]



「地域の役員はほとんど男性になっている」について、現状は「そうしている」が 39.5%、「そうしていない」が 22.8%と地域の役員は男性が多いようである。

性別でみると、男性の「そうしている」が 41.3%と女性（38.1%）をやや上回り、一方で「そうしていない」も男性が 24.5%で女性（21.7%）をやや上回っており、女性は現状がわからない人が多いようである。

意識をみると、男性の「改善すべき」は 38.5%で女性（27.7%）を 10.8 ポイント上回っている。

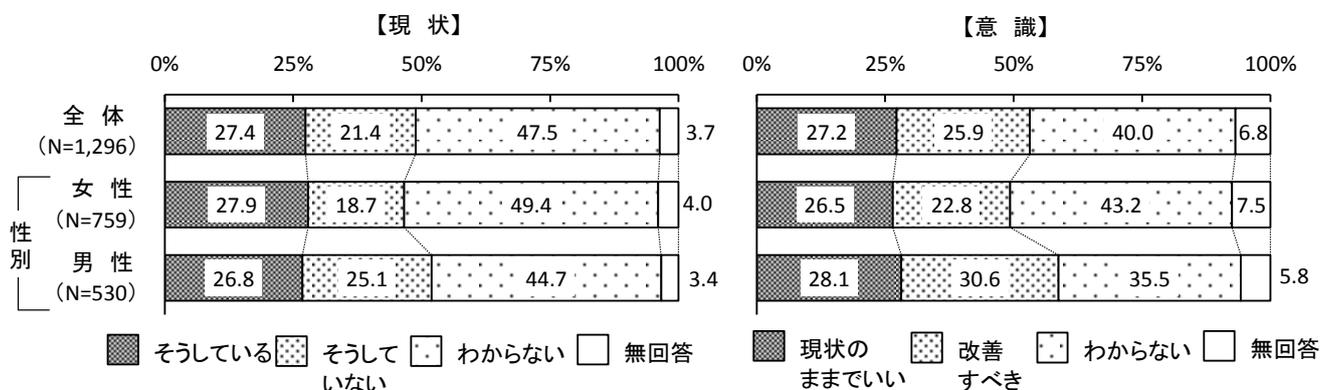
意識を現状別でみると、「そうしている」場合、「改善すべき」は 57.2%で、「現状のままでいい」（26.8%）を 30.4 ポイント上回り、地域役員への偏りを改善した方がいいと考える人が多い。

図表 7-6 地域の役員はほとんど男性になっている [全体、現状別]

		標本数	【意識】③ 地域の役員はほとんど男性になっている (%)			
			現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体		1,296	28.4	32.1	33.6	5.9
現状別	③ 地域の役員はほとんど男性になっている	512	26.8	57.2	14.5	1.6
	そうしている	296	70.3	16.9	9.5	3.4
	そうしていない	446	4.9	15.5	74.7	4.9
	わからない	42	2.4	9.5	-	88.1

④ 地域での集会では男性が上座に座る

図表 7-7 地域での集会では男性が上座に座る [全体、性別]



「地域での集会では男性が上座に座る」について、現状は「そうしている」は 27.4%、「そうしていない」が 21.4%、「わからない」が 47.5%となっている。

性別でみると、男性は「そうしていない」が 25.1%と女性（18.7%）よりも 6.4 ポイント高くなっている。

意識をみると、男性の「改善すべき」は 30.6%で女性（22.8%）を 7.8 ポイント上回っている。

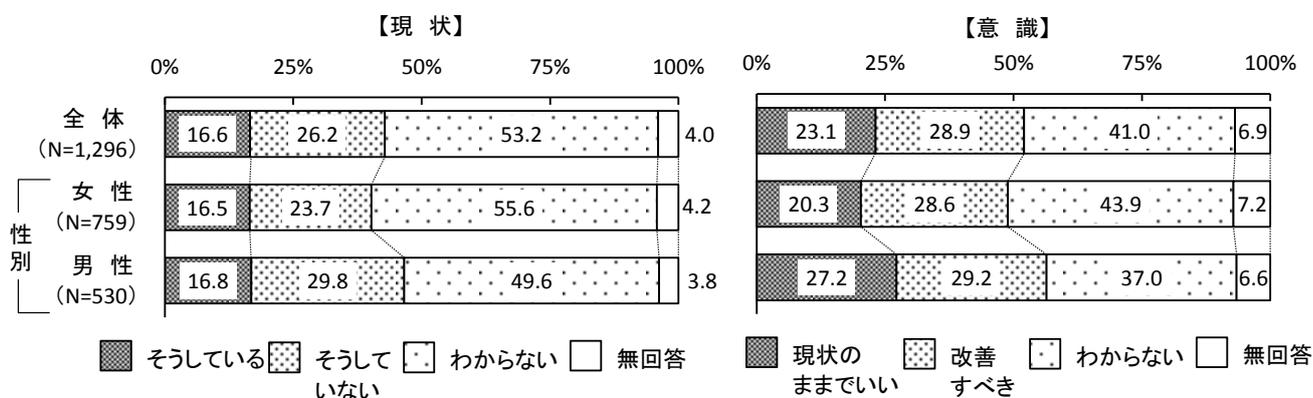
意識を現状別でみると、「そうしている」場合、「改善すべき」は 54.6%で、「現状のままでいい」(29.6%) を 25 ポイント上回り、男性が上座に座ることを改善した方がいいと考える人が多い。「そうしていない」場合、「現状のままでいい」は 79.4%と高率である。

図表 7-8 地域での集会では男性が上座に座る [全体、現状別]

		現状別	④ 地域での集会では男性が上座に座る	標本数	【意識】④ 地域での集会では男性が上座に座る (%)			
					い現状のままで	改善すべき	わからない	無回答
全体				1,296	353	336	519	88
				100.0	27.2	25.9	40.0	6.8
現状別	④ 地域での集会では男性が上座に座る	そうしている		355	29.6	54.6	14.6	1.1
		そうしていない		277	79.4	10.1	6.9	3.6
		わからない		616	4.4	18.0	72.7	4.9
		無回答		48	2.1	6.3	-	91.7

⑤ 役員会での女性の発言が少ない

図表7-9 役員会での女性の発言が少ない [全体、性別]



「役員会での女性の発言が少ない」について、現状は「そうしている」は16.6%、「そうしていない」は26.2%で、役員会での女性の発言は少なくはないという認識の方が上回っている。しかし、「わからない」は53.2%と半数以上を占めて高くなっている。

性別でみると、「そうしていない」は男性が29.8%で女性(23.7%)よりも6.1ポイント高くなっている。

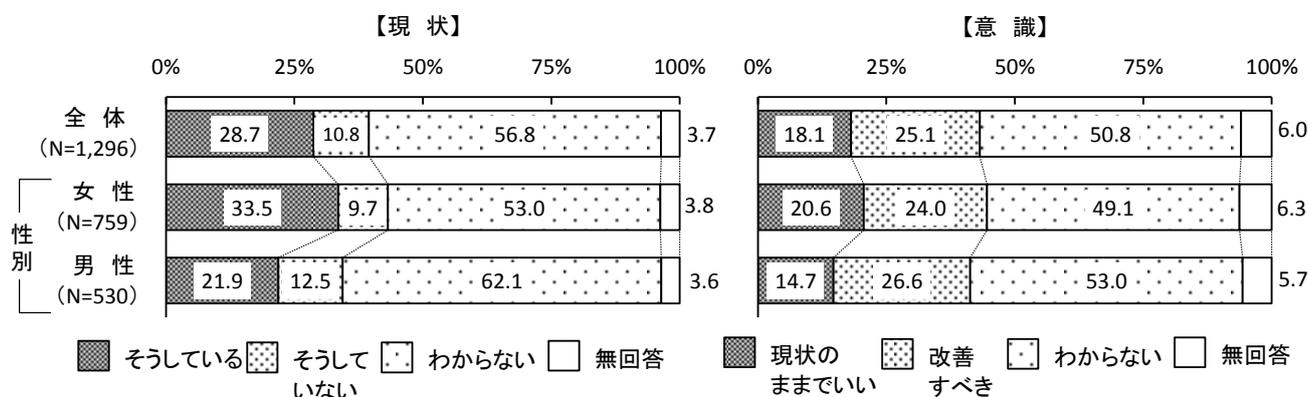
意識を現状別でみると、「そうしている」場合、「改善すべき」が82.8%と最も高く、「現状のままでいい」は8.8%と1割にも満たない。役員会での女性の発言が少ない状況を改めべきと考える人は多い。

図表7-10 役員会での女性の発言が少ない [全体、現状別]

		標本数	【意識】⑤ 役員会での女性の発言が少ない (%)			
			現状の ままでいい	改善 すべき	わからない	無 回答
全体		1,296	23.1	28.9	41.0	6.9
現状別	⑤ 役員会での女性の発言が少ない	215	8.8	82.8	7.9	0.5
	そうしている	340	74.7	17.1	5.9	2.4
	そうして いない	689	3.9	19.3	71.8	4.9
	わからない	52	-	9.6	-	90.4

⑧ P T A会長は男性がなり、副会長は女性が多い

図表7-15 P T A会長は男性がなり、副会長は女性が多い [全体、性別]



「P T A会長は男性がなり、副会長は女性が多い」について、現状は「そうしている」が 28.7%で、「そうしていない」(10.8%) よりも 17.9 ポイント高くなっており、実際に P T A会長には男性がつくことが多いようである。一方、「わからない」は 56.8%と高くなっている。

性別でみると、女性は「そうしている」が 33.5%と男性 (21.9%) を 11.6 ポイント上回り、男性は「わからない」が 62.1%と最も高くなっている。

意識について、女性は「改善すべき」が 24.0%であるが、「現状のままでいい」も 20.6%ある。

意識を現状別でみると、「そうしている」場合、「改善すべき」は 48.9%と半数近くあるが、「現状のままでいい」も 29.3%と約 3 割の人はこのままでいいと考えている。

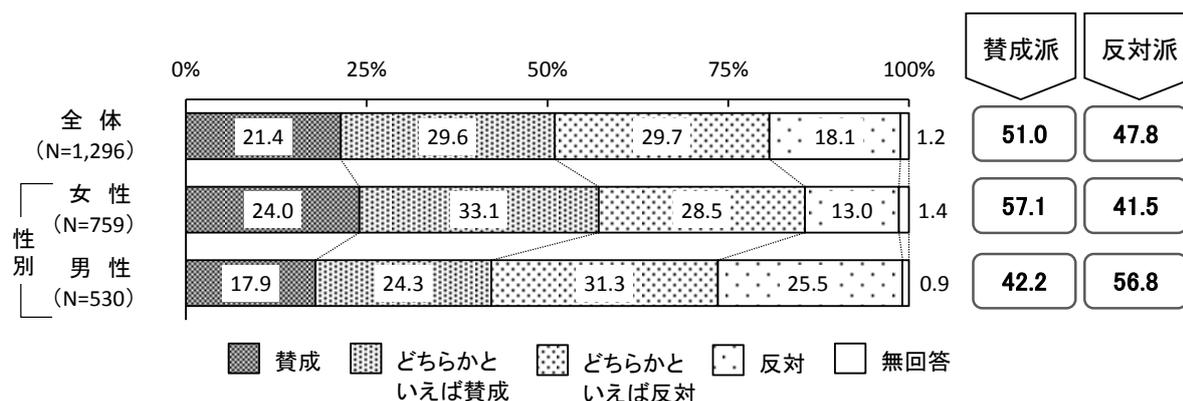
図表7-16 P T A会長は男性がなり、副会長は女性が多い [全体、現状別]

			【意識】⑧ P T A会長は男性がなり、副会長は女性が多い (%)				
現状別	⑧ P T A会長は男性がなり、副会長は女性が多い	現状	標本数	い現	改	わ	無
				い状	善	か	回
全体			1,296	235	325	658	78
			100.0	18.1	25.1	50.8	6.0
現状別	⑧ P T A会長は男性がなり、副会長は女性が多い	そうしている	372	29.3	48.9	20.2	1.6
		そうしていない	140	63.6	23.6	10.0	2.9
		わからない	736	4.8	14.5	76.9	3.8
		無回答	48	4.2	6.3	6.3	83.3

2. 選択的夫婦別姓について

問 14. 「選択的夫婦別姓」について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

図表 7-17 選択的夫婦別姓について [全体、性別]



現行制度と同じように夫婦が同じ名字（姓）を名乗ることのほか、夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦それぞれが婚姻前の名字（姓）を名乗ることができる「選択的夫婦別姓」の制度について、どう思うかたずねた。

「賛成」は 21.4%、「どちらかといえば賛成」は 29.6%でこれらを合わせた『賛成派』は 51.0%となっている。一方、「反対」は 18.1%、「どちらかといえば反対」は 29.7%とこれらを合わせた『反対派』は 47.8%となっており、『賛成派』『反対派』の割合は拮抗している。

性別で見ると、『賛成派』は女性が 57.1%に対し、男性は 42.2%と女性の方が 14.9 ポイント高く、『反対派』は女性が 41.5%で、男性は 56.8%と男性の方が 15.3 ポイント高くなっている。

年代別でみると、『賛成派』は男女とも30代の割合（女性70.5%、男性58.6%）をピークとして、年代が上がるにつれ割合は低くなり、『反対派』の割合が高くなっている。

配偶関係別でみると、配偶者がいる共働きの女性では『賛成派』が65.9%であるのに対し、共働きでない女性は47.6%と18.3ポイント差となっているが、男性では共働き、共働きでないかで割合に差はみられない。結婚していない場合、女性は『賛成派』が61.0%であるが、男性は49.4%と女性の方が11.6ポイント高くなっている。

図表7-18 選択的夫婦別姓について〔全体、年代別、配偶関係別〕

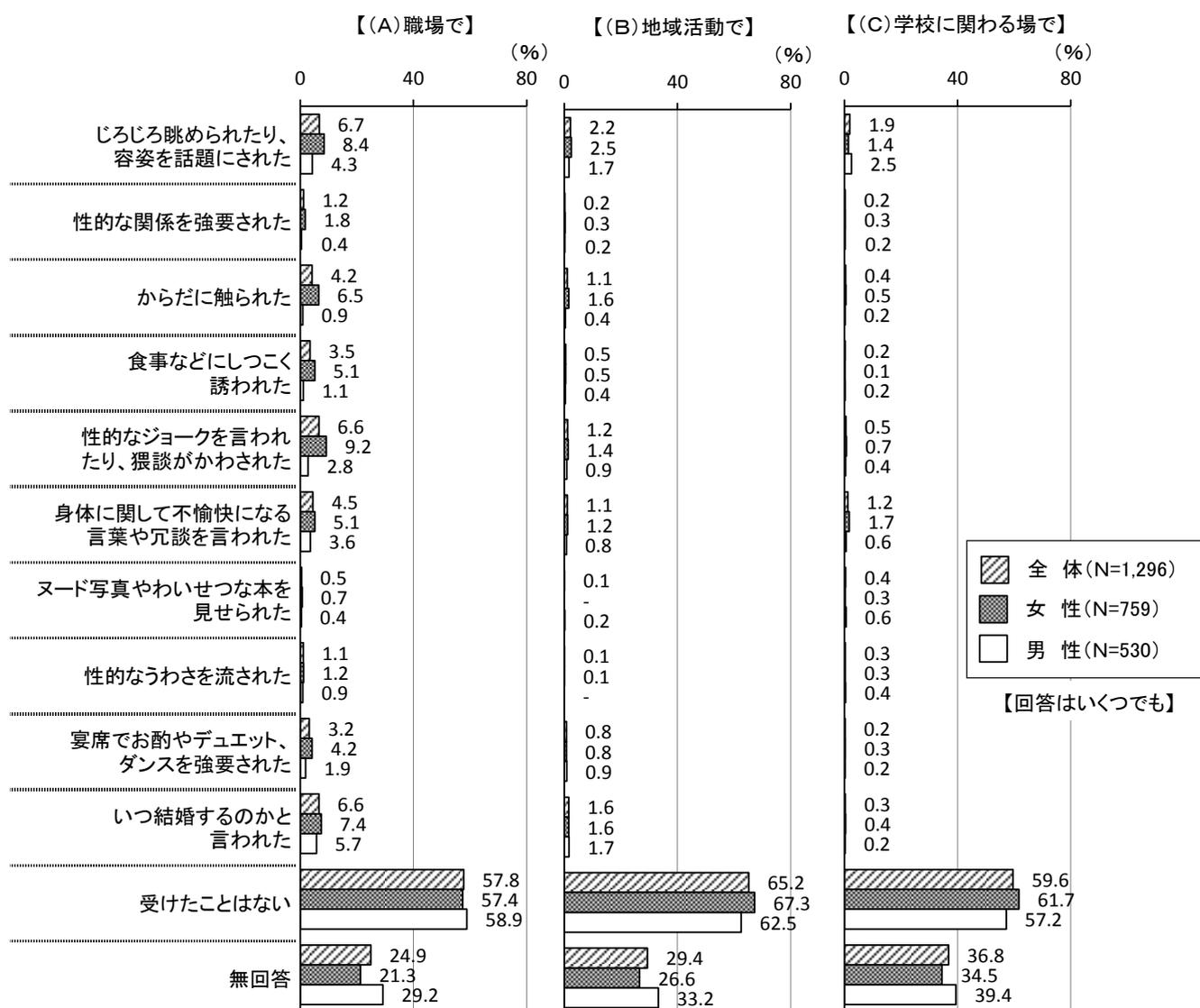
		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	無 回 答	『 賛 成 派 』	『 反 対 派 』	
全体		1,296 100.0	277 21.4	383 29.6	385 29.7	235 18.1	16 1.2	660 51.0	620 47.8	
年代別	女性:10・20代	92	27.2	31.5	26.1	13.0	2.2	58.7	39.1	
	女性:30代	129	31.0	39.5	20.2	9.3	-	70.5	29.5	
	女性:40代	154	29.9	38.3	21.4	9.1	1.3	68.2	30.5	
	女性:50代	135	25.9	33.3	25.9	13.3	1.5	59.2	39.2	
	女性:60代	168	16.1	28.0	40.5	14.3	1.2	44.1	54.8	
	女性:70歳以上	72	11.1	22.2	40.3	22.2	4.2	33.3	62.5	
	男性:10・20代	49	18.4	32.7	36.7	12.2	-	51.1	48.9	
	男性:30代	75	21.3	37.3	20.0	20.0	1.3	58.6	40.0	
	男性:40代	83	15.7	27.7	33.7	19.3	3.6	43.4	53.0	
	男性:50代	74	25.7	18.9	40.5	14.9	-	44.6	55.4	
	男性:60代	173	15.6	19.1	32.9	32.4	-	34.7	65.3	
	男性:70歳以上	70	14.3	20.0	22.9	41.4	1.4	34.3	64.3	
	無回答	22	9.1	36.4	27.3	27.3	-	45.5	54.6	
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	270	26.3	39.6	23.0	10.4	0.7	65.9	33.4	
	女性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	279	21.1	26.5	36.6	14.0	1.8	47.6	50.6	
	女性:配偶者はいない(離別)	34	32.4	26.5	23.5	14.7	2.9	58.9	38.2	
	女性:配偶者はいない(死別)	32	15.6	31.3	28.1	25.0	-	46.9	53.1	
	女性:結婚していない	141	25.5	35.5	24.8	12.1	2.1	61.0	36.9	
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きである)	153	18.3	23.5	34.6	23.5	-	41.8	58.1	
	男性:配偶者・パートナーがいる (共働きでない)	259	16.2	24.3	30.9	28.2	0.4	40.5	59.1	
	男性:配偶者はいない(離別)	18	33.3	11.1	33.3	22.2	-	44.4	55.5	
	男性:配偶者はいない(死別)	14	7.1	28.6	35.7	28.6	-	35.7	64.3	
	男性:結婚していない	85	21.2	28.2	25.9	21.2	3.5	49.4	47.1	
		無回答	11	-	36.4	27.3	27.3	9.1	36.4	54.6

第8章 暴力などの人権侵害について

1. セクシュアル・ハラスメントの経験

問 15. この5年ぐらいの間に、(A) 職場、(B) 地域活動の場、(C) 学校に関わる場で①～⑩のようなセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。経験のあるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。

図表 8-1 セクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、性別]



この5年ぐらいの間に「職場」「地域活動」「学校に関わる場」でセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがあるかどうかたずねた。

「職場」では、「受けたことはない」（57.8%）と無回答（24.9%）を除く17.3%の人がセクハラを受けた経験がある。具体的な被害は「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」（6.7%）、「性的なジョークをいわれた」「いつ結婚するのかわ言われた」（同率6.6%）、

「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(4.5%)、「からだに触られた」(4.2%)、「食事などにしつこく誘われた」(3.5%)、「宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要された」(3.2%)などがあげられている。

性別でみると、どれか一つでもセクハラを受けた経験があると回答した人の割合は、女性が21.3%、男性が11.9%となっている。すべての項目で女性の割合が男性よりも高くなっており、職場でのセクハラ被害は女性の方が多くなっている。

年代別でみると、どれか一つでもセクハラを受けた経験があると回答した人の割合は、女性の30代で40.3%と最も高く、10・20代で26.1%、40代で23.4%となっている。男性も30代で21.3%、40代で18.0%と30代、40代で職場でのセクハラ被害が多い。具体的な被害は、男女30代と男性の40代で「いつ結婚するのかわ言われた」が1割から2割台、女性の30代で「性的なジョークをいわれたり、猥談がかわされた」(20.9%)、「からだに触られた」(11.6%)、「食事などにしつこく誘われた」(10.1%)などが1割から2割台、女性の40代以下で「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」が1割台となっている。

図表8-2 「職場」でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年代別]

(%)

		標本数	【(A)職場で】										無回答	『経験がある』	
			容姿を話にさらされたり、	性的な関係を強要された	からだに触られた	食事などにしつこく誘われた	性的なジョークをいわれたり、猥談がかわされた	身体に言葉や冗談を言われた	本を見せられた	ヌード写真やわいせつな	性的なうわさを流された	宴席でお酌やデュエット			いつ結婚するのかわ言われた
全体		1,296 100.0	87 6.7	16 1.2	54 4.2	45 3.5	85 6.6	58 4.5	7 0.5	14 1.1	42 3.2	86 6.6	749 57.8	323 24.9	17.3
年代別	女性:10・20代	92	12.0	2.2	8.7	6.5	8.7	7.6	-	1.1	4.3	9.8	59.8	14.1	26.1
	女性:30代	129	12.4	-	11.6	10.1	20.9	7.0	-	0.8	5.4	20.9	53.5	6.2	40.3
	女性:40代	154	14.3	2.6	7.1	4.5	7.8	5.8	1.3	1.9	5.8	5.8	67.5	9.1	23.4
	女性:50代	135	7.4	2.2	3.7	5.9	8.9	5.2	0.7	0.7	5.9	3.7	63.7	17.0	19.3
	女性:60代	168	2.4	3.0	4.8	3.0	5.4	1.8	1.2	1.8	2.4	3.6	56.0	33.9	10.1
	女性:70歳以上	72	1.4	-	-	-	1.4	2.8	-	-	-	-	34.7	61.1	4.2
	男性:10・20代	49	4.1	-	2.0	2.0	2.0	2.0	-	2.0	4.1	8.2	65.3	22.4	12.3
	男性:30代	75	6.7	-	2.7	2.7	5.3	8.0	-	-	4.0	13.3	70.7	8.0	21.3
	男性:40代	83	3.6	-	-	-	3.6	3.6	1.2	1.2	-	10.8	65.1	16.9	18.0
	男性:50代	74	5.4	1.4	1.4	2.7	2.7	2.7	-	-	4.1	2.7	64.9	23.0	12.1
男性:60代	173	4.6	0.6	0.6	0.6	2.3	4.0	-	1.7	1.2	2.3	59.5	31.8	8.7	
男性:70歳以上	70	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28.6	70.0	1.4	
無回答		22	-	-	9.1	-	9.1	9.1	4.5	-	-	4.5	27.3	54.5	18.2

「地域活動」でのセクハラ被害の経験は5.4%となっている。

性別で見ると、地域活動でのセクハラ被害は女性では6.1%、男性は4.3%である。職場に比べると、セクハラ被害の経験は低いものの、女性では「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」(2.5%)、また男女で「いつ結婚するのかと言われた」(女性1.6%、男性1.7%)での被害が多い。

年代別で見ると男性の10・20代でセクハラを受けた経験が10.2%と唯一1割を超えている。具体的には「宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要された」「からだに触られた」「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」などがあげられている。

図表8-3 「地域活動」でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年代別]

		標本数	【(B)地域活動の場で】											無回答	『経験がある』
			容姿を話題にされたり、じろじろ眺められたり	性的な関係を強要された	からだに触られた	食事などにしつこく誘われた	性的なジョークやわさわさわれた	性的な言葉や冗談を言われた	身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	スード写真やわいせつな本を見せられた	性的なうわさを流された	宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要された	いつ結婚するのかと言われた		
全体		1,296 100.0	29 2.2	3 0.2	14 1.1	6 0.5	16 1.2	14 1.1	1 0.1	1 0.1	11 0.8	21 1.6	845 65.2	381 29.4	5.4
年代別	女性:10・20代	92	-	-	-	1.1	-	1.1	-	-	-	1.1	72.8	23.9	3.3
	女性:30代	129	1.6	-	2.3	-	0.8	0.8	-	-	0.8	3.1	67.4	24.8	7.8
	女性:40代	154	4.5	0.6	1.9	-	1.3	1.3	-	0.6	1.3	1.3	77.9	15.6	6.5
	女性:50代	135	3.7	-	0.7	-	2.2	3.0	-	-	-	3.0	68.9	23.7	7.4
	女性:60代	168	1.8	0.6	2.4	1.2	1.8	0.6	-	-	1.2	0.6	65.5	29.8	4.7
	女性:70歳以上	72	2.8	-	1.4	-	2.8	-	-	-	-	-	41.7	52.8	5.5
	男性:10・20代	49	2.0	2.0	4.1	2.0	2.0	4.1	-	-	6.1	2.0	71.4	18.4	10.2
	男性:30代	75	2.7	-	-	-	-	-	-	-	-	2.7	72.0	22.7	5.3
	男性:40代	83	-	-	-	-	1.2	-	1.2	-	-	3.6	73.5	21.7	4.8
	男性:50代	74	1.4	-	-	-	-	1.4	-	-	-	1.4	66.2	29.7	4.1
男性:60代	173	1.7	-	-	0.6	1.2	-	-	-	0.6	0.6	59.0	38.2	2.8	
男性:70歳以上	70	2.9	-	-	-	1.4	1.4	-	-	1.4	1.4	38.6	58.6	2.8	
無回答		22	4.5	-	-	4.5	-	4.5	-	-	4.5	-	45.5	45.5	9.0

「学校に関わる場」でのセクハラ被害の経験は 3.6%である。職場、地域活動に比べて、被害経験は低い。

性別でみると、女性で 3.8%、男性で 3.4%とほぼ同程度となっている。具体的には女性で「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(1.7%)、男性で「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」(2.5%)の被害が多い。

年代別でみると、男女とも 10・20代で被害経験が1割を超えている。女性の 10・20代では「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」が 7.6%と高く、男性では「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」(6.1%)、「ヌード写真やわいせつな本を見せられた」「性的なうわさを流された」(同率 4.1%)などの被害が高くなっている。

図表 8-4 「学校に関わる場」でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年代別]

(%)

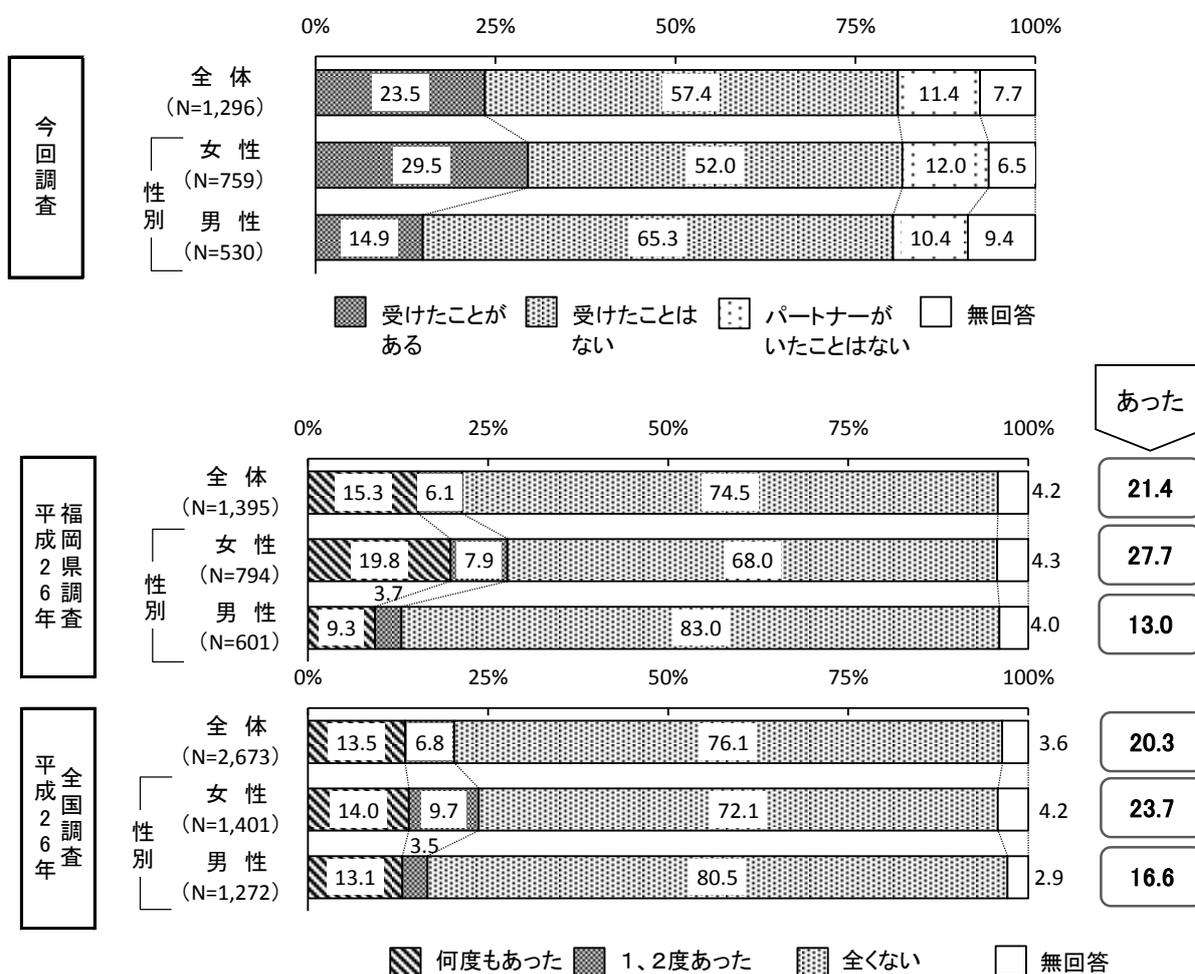
	標本数	【(C)学校に関わる場で】											「経験がある」		
		容姿を話題にされたり、	性的な関係を強要された	からだに触られた	食事などにしつこく誘われた	性的なジョークを言われた	身体的言葉や冗談を言われた	本を見せられた	ヌード写真やわいせつな	性的なうわさを流された	ト、宴席でお酌やデュエツ	れいつ結婚するのかわからない		受けたことはない	無回答
全体	1,296 100.0	24 1.9	3 0.2	5 0.4	2 0.2	7 0.5	16 1.2	5 0.4	4 0.3	3 0.2	4 0.3	772 59.6	477 36.8	3.6	
年代別	女性:10・20代	92	2.2	-	-	-	3.3	7.6	-	-	-	1.1	70.7	18.5	10.8
	女性:30代	129	2.3	0.8	0.8	-	-	1.6	-	0.8	-	-	66.7	29.5	3.8
	女性:40代	154	1.3	-	-	-	-	1.9	0.6	-	-	0.6	77.3	18.8	3.9
	女性:50代	135	1.5	-	-	-	-	-	-	-	0.7	-	67.4	30.4	2.2
	女性:60代	168	0.6	0.6	1.8	0.6	1.2	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	50.6	47.0	2.4
	女性:70歳以上	72	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26.4	73.6	-
	男性:10・20代	49	6.1	2.0	2.0	-	-	2.0	4.1	4.1	-	-	71.4	18.4	10.2
	男性:30代	75	1.3	-	-	1.3	1.3	1.3	-	-	1.3	-	72.0	25.3	2.7
	男性:40代	83	2.4	-	-	-	1.2	1.2	1.2	-	-	1.2	74.7	20.5	4.8
	男性:50代	74	5.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	59.5	35.1	5.4
	男性:60代	173	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	53.8	44.5	1.7
男性:70歳以上	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18.6	81.4	-	
無回答	22	4.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27.3	68.2	4.5	

2. 配偶者・パートナーからの暴力について

(1) 配偶者・パートナーからの暴力の経験

問 16. あなたは、この5年間に配偶者やパートナー（夫・妻・恋人）から下記のような暴力を受けたことがありますか。①～⑮のそれぞれについて、あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。パートナーがいたことがない場合は、⑯を選び番号に○印をつけてください。

図表 8－5 暴力の経験 [全体、性別] (福岡県・全国調査比較)



この5年ぐらいの間に配偶者やパートナー（夫・妻・恋人）から身体的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力である15種類の暴力があったどうかたずねた。

「何度もあった」と「1、2度あった」のいずれか一つでも回答した人は、全体で23.5%、女性で29.5%、男性14.9%となっている。

福岡県調査や内閣府で平成26年12月実施した「男女間における暴力に関する調査」（以下、全国調査という）と比べると、項目に違いはあるが暴力の経験は今回調査の女性が最も高くなっている。

年代別でみると、「受けたことがある」が最も高いのは女性の40代で33.8%、また30代と50代でも同率の31.8%と3割を超えている。また、男性でも30代で21.3%と男性のほかで唯一2割を超えている。

配偶関係別でみると、配偶者がいる共働きの女性で「受けたことがある」が35.6%と最も高く、次いで配偶者がいない離別の女性で32.4%、配偶者がいる共働きでない女性が31.2%となっている。男性の離別でも暴力の経験は27.8%と高く、暴力が原因になったとも考えられる。

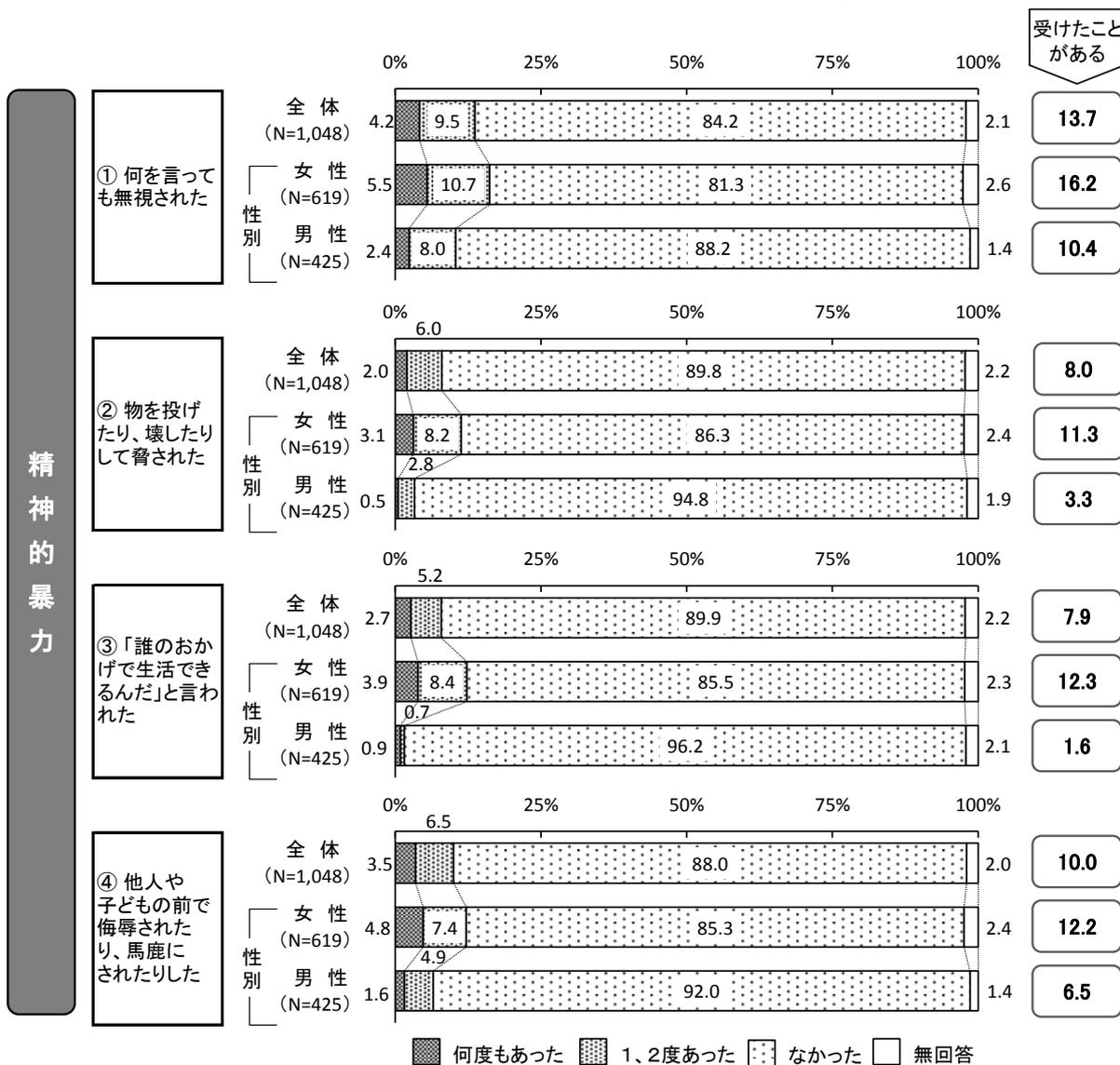
図表8-6 暴力の経験 [全体、年代別、配偶関係別]

(%)

		標本数	が受けたこと	は受けたこと	はがパートナーにないこと	無回答
全体		1,296	304	744	148	100
		100.0	23.5	57.4	11.4	7.7
年代別	女性:10・20代	92	22.8	37.0	35.9	4.3
	女性:30代	129	31.8	54.3	13.2	0.8
	女性:40代	154	33.8	57.1	7.8	1.3
	女性:50代	135	31.9	59.3	3.7	5.2
	女性:60代	168	25.6	56.0	11.3	7.1
	女性:70歳以上	72	27.8	36.1	4.2	31.9
	男性:10・20代	49	14.3	30.6	53.1	2.0
	男性:30代	75	21.3	64.0	12.0	2.7
	男性:40代	83	15.7	68.7	10.8	4.8
	男性:50代	74	16.2	66.2	6.8	10.8
	男性:60代	173	13.3	73.4	2.3	11.0
	男性:70歳以上	70	10.0	65.7	2.9	21.4
	無回答	22	27.3	45.5	18.2	9.1
配偶関係別	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	270	35.6	62.6	-	1.9
	女性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	279	31.2	61.3	-	7.5
	女性:配偶者がいない(離別)	34	32.4	23.5	26.5	17.6
	女性:配偶者がいない(死別)	32	25.0	18.8	28.1	28.1
	女性:結婚していない	141	14.9	29.1	50.4	5.7
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きである)	153	19.6	72.5	-	7.8
	男性:配偶者・パートナーがいる(共働きでない)	259	12.4	79.2	-	8.5
	男性:配偶者がいない(離別)	18	27.8	27.8	22.2	22.2
	男性:配偶者がいない(死別)	14	7.1	28.6	28.6	35.7
	男性:結婚していない	85	12.9	24.7	55.3	7.1
	無回答	11	18.2	27.3	36.4	18.2

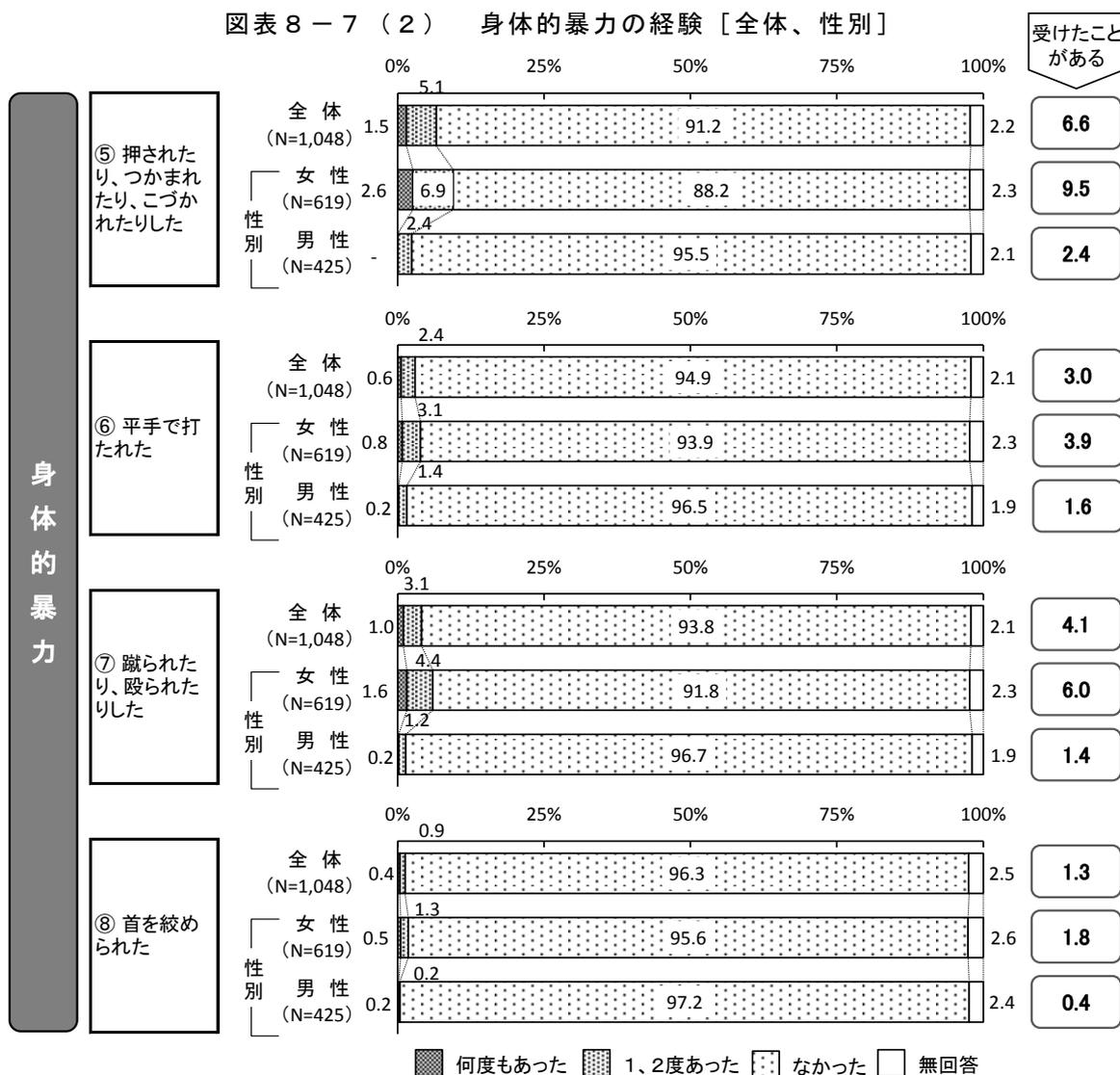
それぞれの暴力について「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた『受けたことがある』人の割合をみると、『精神的暴力』の被害経験は女性で52.0%、男性で21.8%と女性の方が約3割多い。精神的暴力の中では「何をいっても無視された」が女性で16.2%、男性が10.4%と男女とも1割を超えている。「物を投げたり、壊したりして脅された」「誰のおかげで生活できるんだ」と言われた」「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」などは女性は1割台であるが、男性は1割には満たない。

図表8-7(1) 精神的暴力の経験 [全体、性別]



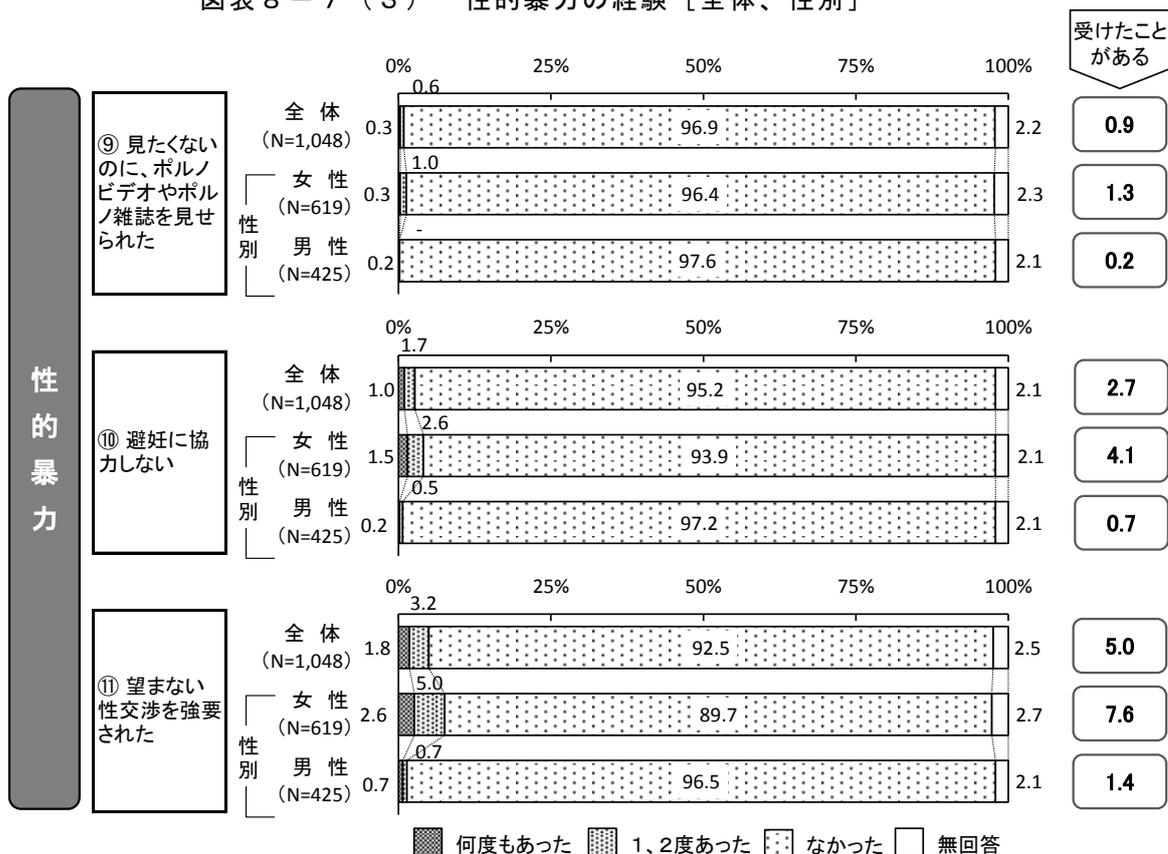
『身体的暴力』の被害経験は女性で 21.2%、男性で 5.8%と女性の方が 1 割以上多い。具体的には「押されたり、つかまれたり、こづかれたりした」が女性で 9.5%と 1 割近くとなっており、「蹴られたり、殴られたりした」も 6.0%となっている。

図表 8-7 (2) 身体的暴力の経験 [全体、性別]



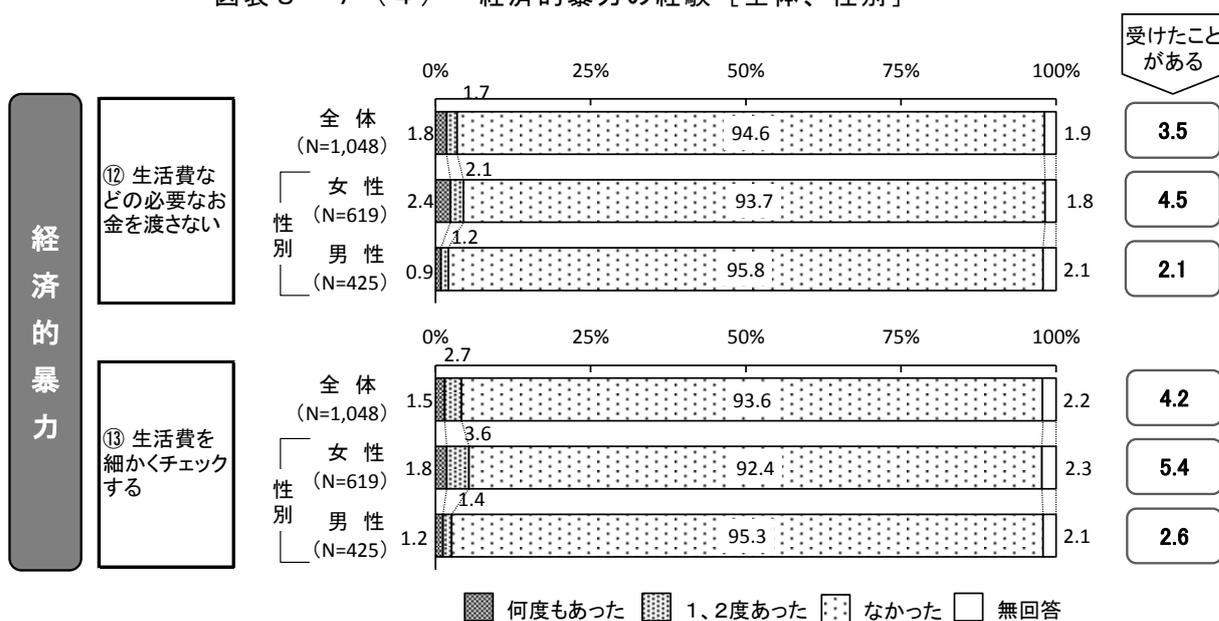
『性的暴力』の被害経験は女性で 13.0%、男性で 2.3%と女性の方が約 1 割多い。具体的には「望まない性交渉を強要された」が女性で 7.6%、「避妊に協力しない」が 4.1%となっている。

図表 8-7 (3) 性的暴力の経験 [全体、性別]



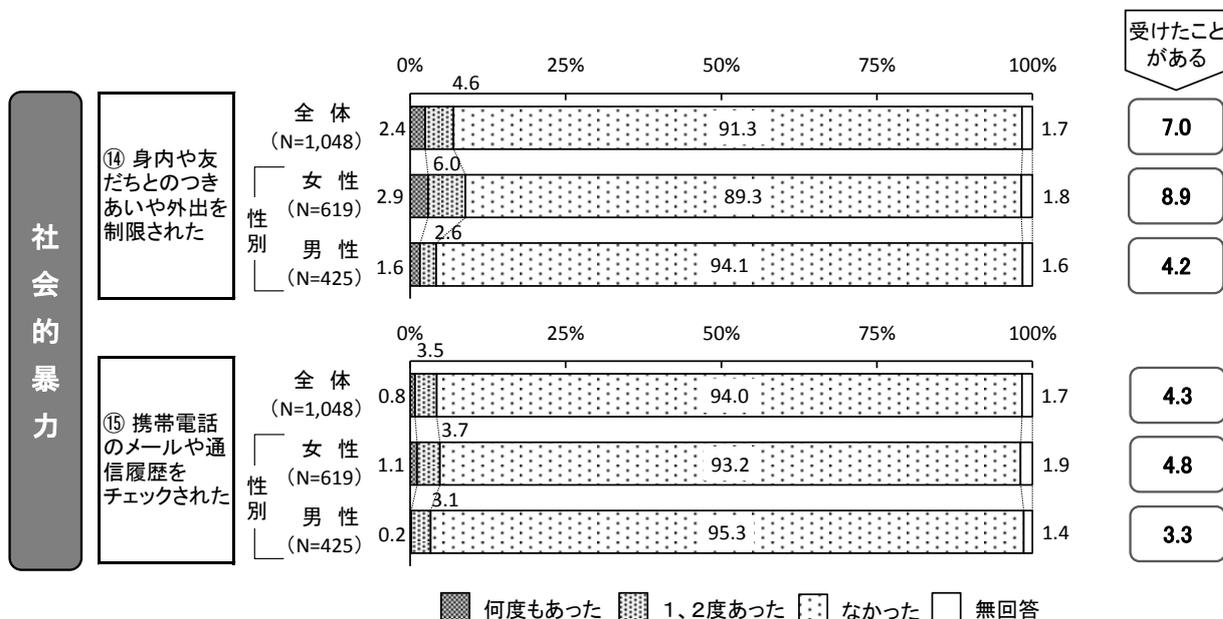
『経済的暴力』の被害経験は女性で9.9%、男性で4.7%となっている。具体的には「生活費を細かくチェックする」が女性で5.4%、「生活費などの必要なお金を渡さない」が4.5%となっている。

図表 8-7 (4) 経済的暴力の経験 [全体、性別]



『社会的暴力』の被害経験は女性で 13.7%、男性で 7.5%となっている。男性では『精神的暴力』に次いで 2 番目に高い。具体的には「身内や友だちとのつきあいや外出を制限された」は女性で 8.9%、男性で 4.2%、「携帯電話のメールや通信履歴をチェックされた」は女性で 4.8%、男性で 3.3%となっている。

図表 8-7 (5) 社会的暴力の経験 [全体、性別]

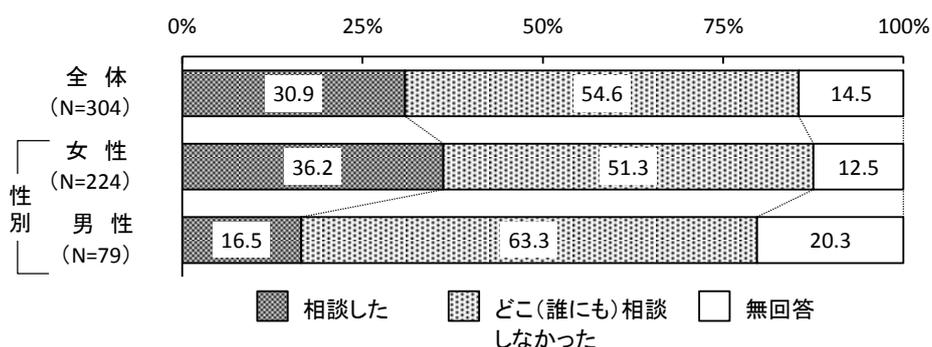


(2) 相談の有無

付問 16-1 【問 16 で「何度もあった」「1、2度あった」と答え方は下の質問にお答えください。】

あなたは、受けた行為をだれかに打ち明けたり相談したりしましたか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表 8-8 相談の有無 [全体、性別]



暴力を受けたことがある人に、そのことについて誰かに話したり相談したりしたことがあるかどうかたずねた。「相談した」は 30.9%で、「どこ(誰にも)相談しなかった」は 54.6%と半数以上となっている。

性別でみると、「相談した」は女性が 36.2%で男性 (16.5%) よりも 2割近く多いが、「どこ(誰にも)相談しなかった」は男女とも 5割以上となっている。

年代別でみると、「相談した」は女性の 10・20代で 66.7%と最も高く、年代が低い層で相談する割合が高い傾向にある。男性は 10・20代と 30代、70歳以上で「相談した」割合が比較的高い。

図表 8-9 相談の有無 [全体、年代別]

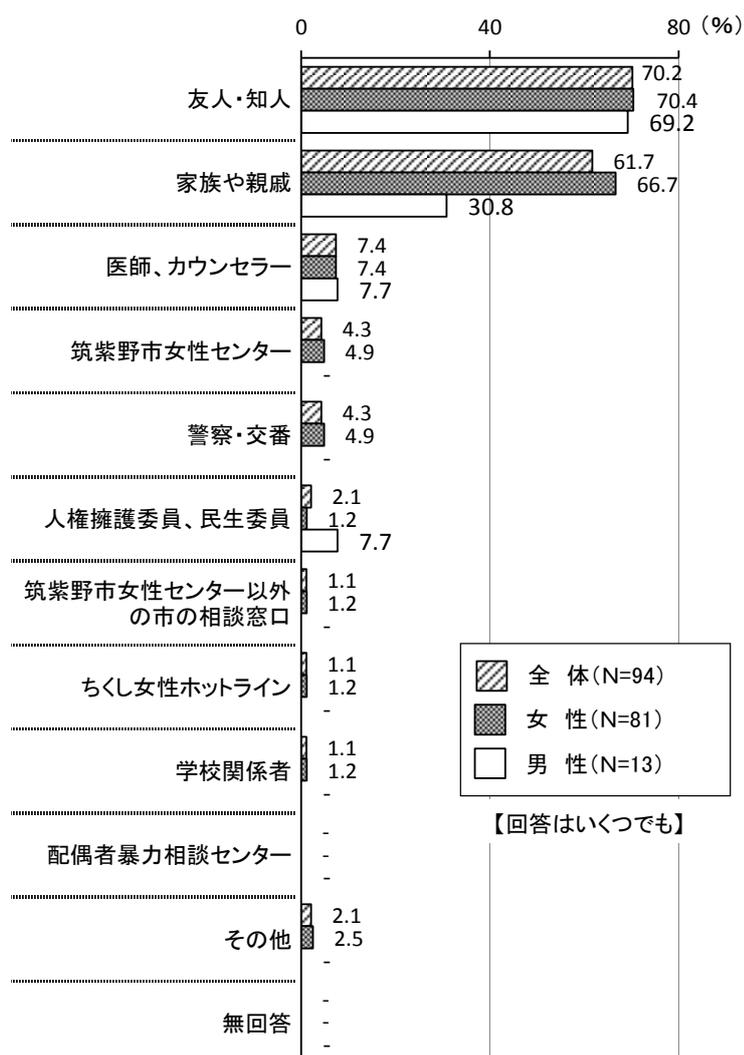
		標本数	相談した (%)	かもど つこ た相 談誰 しに な (%)	無回答 (%)
全体		304	94	166	44
		100.0	30.9	54.6	14.5
年代別	女性:10・20代	21	66.7	28.6	4.8
	女性:30代	41	34.1	61.0	4.9
	女性:40代	52	44.2	50.0	5.8
	女性:50代	43	32.6	55.8	11.6
	女性:60代	43	18.6	58.1	23.3
	女性:70歳以上	20	35.0	40.0	25.0
	男性:10・20代	7	28.6	71.4	-
	男性:30代	16	37.5	62.5	-
	男性:40代	13	7.7	76.9	15.4
	男性:50代	12	8.3	75.0	16.7
	男性:60代	23	4.3	56.5	39.1
	男性:70歳以上	7	28.6	42.9	28.6
	無回答	6	16.7	33.3	50.0

(3) 相談先

付問 16-1-1 【問 16-1 で「1. 相談した」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

どういったところに相談されましたか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

図表 8-10 相談先 [全体、性別]



相談した人の相談先は「友人・知人」が 70.2%、「家族や親戚」が 61.7%と身近な人への相談が圧倒的に多い。「医師・カウンセラー」が 7.4%、「筑紫野市女性センター」「警察・交番」が同率の 4.3%となっている。

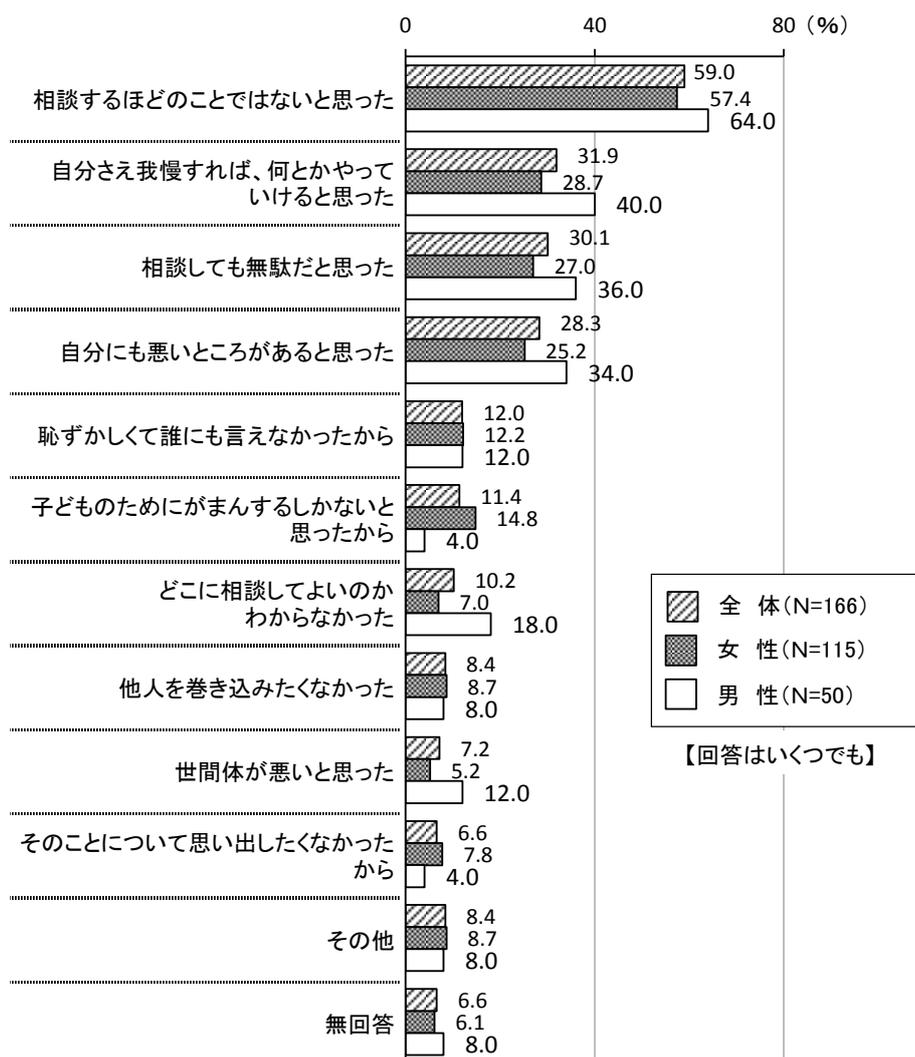
性別で見ると、男女とも「友人・知人」への相談が約7割で最も多いが、女性は「家族や親戚」が 66.7%であるのに対し、男性は 30.8%で半減する。男性は「人権擁護委員、民生委員」が女性よりも高く、「医師・カウンセラー」が 7.7%である以外は、その他の機関への相談は行われていない。

(4) 相談しなかった理由

付問 16-1-2 【問 16-1 で「2. どこ（誰にも）相談しなかった」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

どこ（誰にも）相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

図表 8-11 相談しなかった理由 [全体、性別]



自分が受けた暴力の被害について「どこ（誰に）相談しなかった」と答えた人にその理由をたずねた。「相談するほどのことではないと思った」が 59.0%と最も高くなっている。次いで「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」(31.9%)、「相談しても無駄だと思った」(30.1%)、「自分にも悪いところがあると思った」(28.3%)が約3割となっている。

性別で見ると、ほとんどの項目で男性の方が割合は高くなっている。特に「どこに相談してよいのかわからなかった」は 18.0%と女性の 7.0%を 11ポイント上回っている。女性は「子どものためにがまんするしかないと思ったから」は女性の方が 10.8ポイント上回っている。

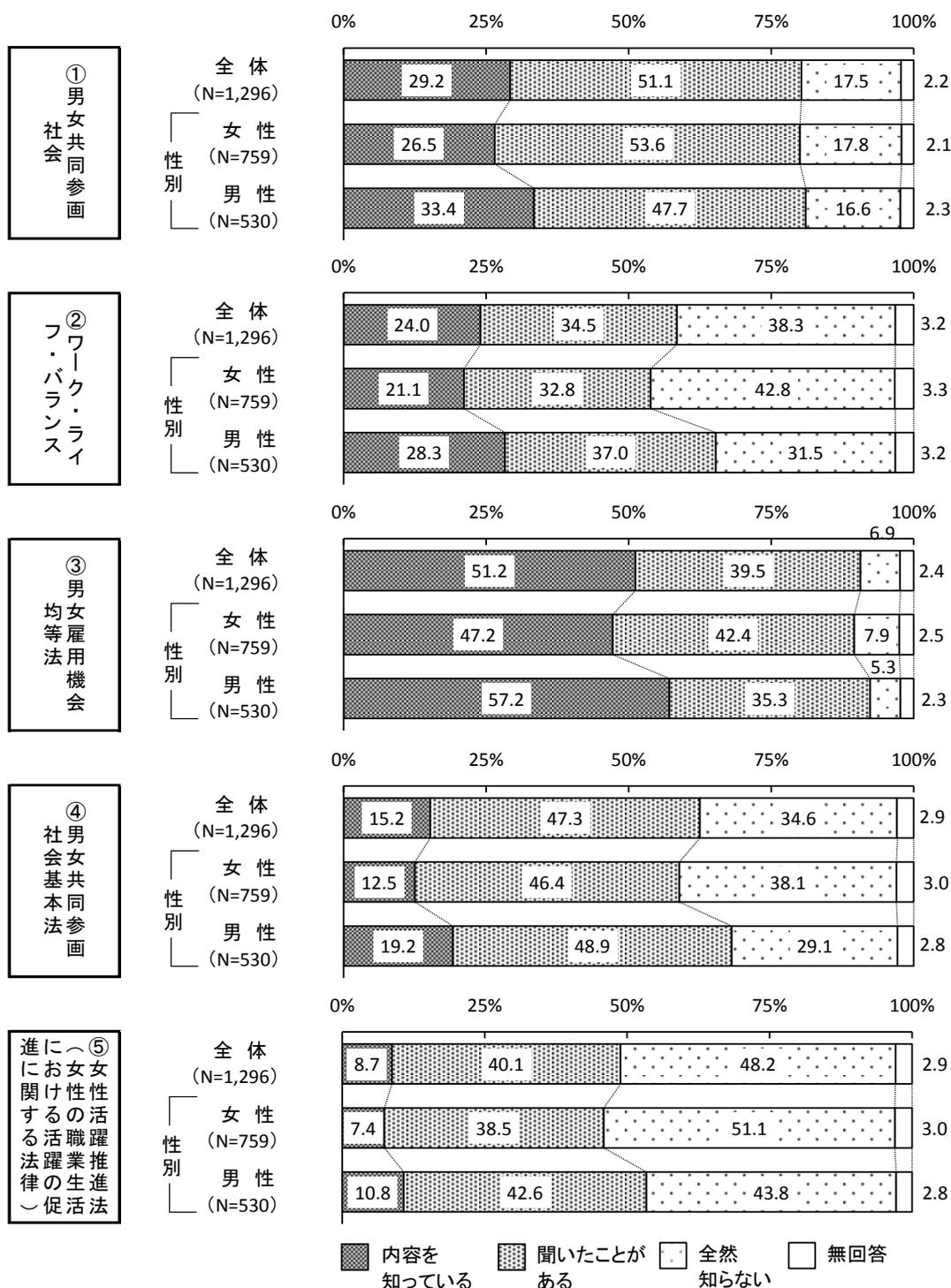
第9章 男女共同参画社会の実現について

1. 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知

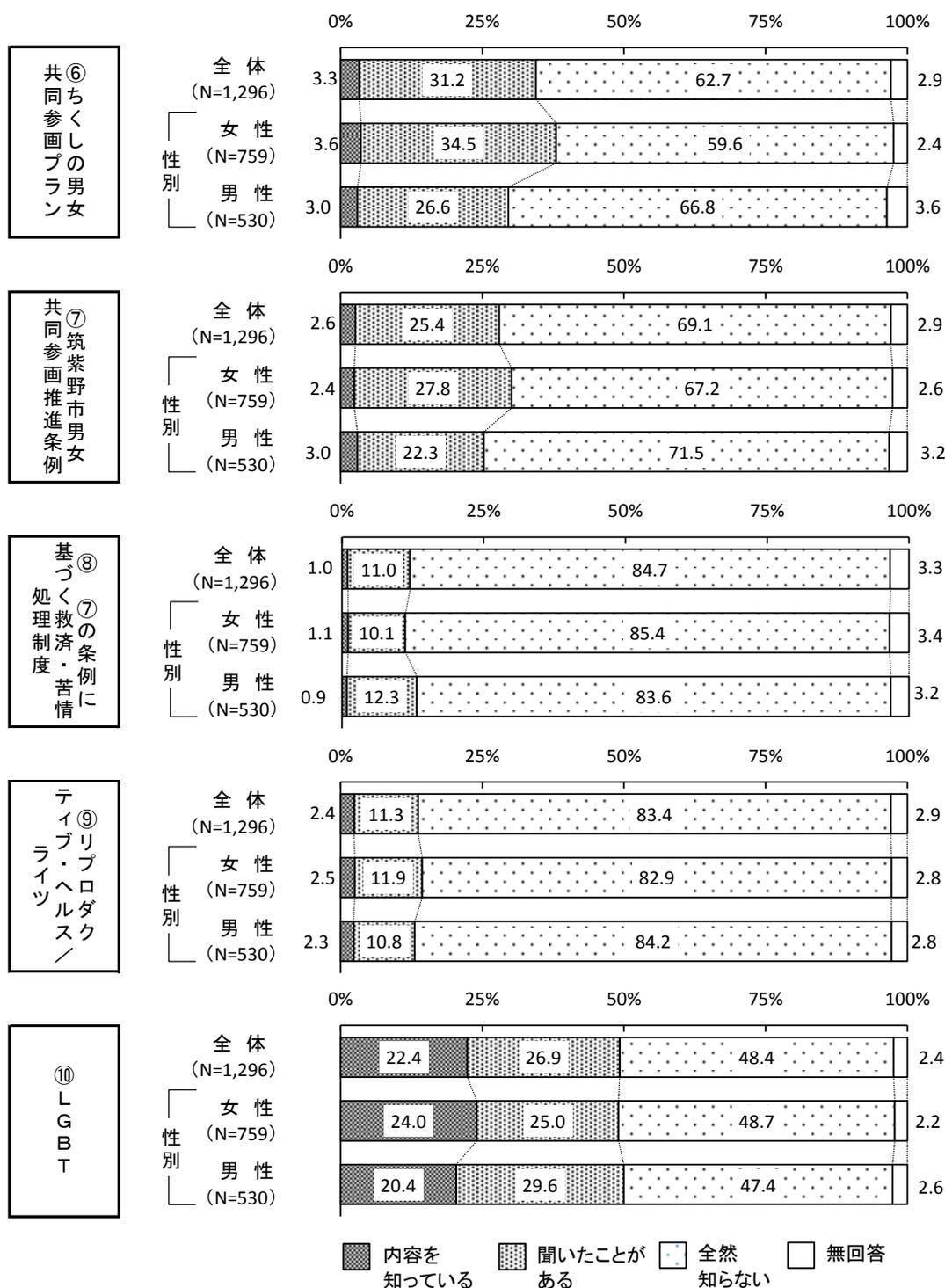
問 17. 下記のそれぞれの言葉について、あなたはどの程度ご存知ですか。

①～⑩のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

図表9-1 (1) 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体、性別]



図表9-1(2) 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体、性別]



男女共同参画に関連する法令や制度、言葉についての認知をたずねた。最も認知度が高いのは「男女雇用機会均等法」で、90.7%が認知しており、「内容を知っている」に限っても5割を超えている。「男女共同参画社会」は80.3%、「男女共同参画社会基本法」(62.5%)と「ワーク・ライフ・バランス」(58.5%)は6割前後、「女性活躍推進法」(48.8%)と「LGBT」(49.3%)は5割弱が認知している。「ちくしの男女共同参画プラン」(34.5%)と「筑紫野市男女共同参画推進条例」(28.0%)は3割前後の認知度にとどまる。最も認知度が低いのは、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(13.7%)と「⑦(筑紫野市男女共同参画推進条例)に基づく救済・苦情処理制度」(12.0%)で、1割強の認知度である。

性別でみると、「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス」や「男女共同参画社会基本法」「男女雇用機会均等法」「女性活躍推進法」などの法令については、男性の認知度が高い傾向がみられる。一方、「ちくしの男女共同参画プラン」「筑紫野市男女共同参画推進条例」は、「内容を知っている」は性別で差はないが、「聞いたことがある」が女性で高くなっている。

年代別では、「男女共同参画社会」「ワーク・ライフ・バランス」「男女共同参画社会基本法」は男女とも10・20代の認知度が高くなっている。「男女雇用機会均等法」は、男性の50代、60代で「内容を知っている」が高い。「ちくしの男女共同参画プラン」「筑紫野市男女共同参画推進条例」は年齢の低い層で「全然知らない」の割合が高くなっている。

図表9-2 男女共同参画に関する法令・制度、言葉の認知 [全体、年代別]

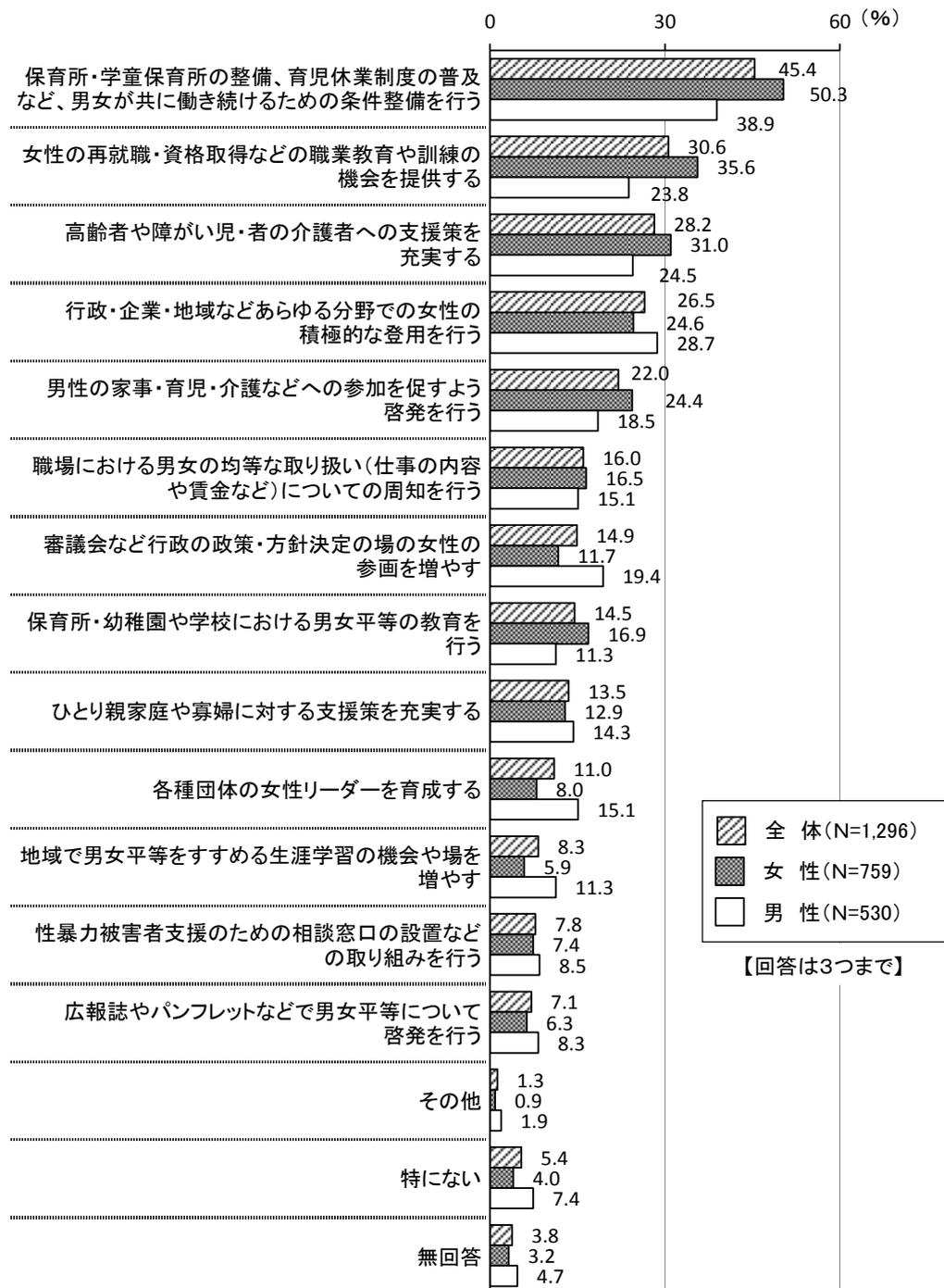
(%)

	標本数	① 男女共同参画社会				② ワーク・ライフ・バランス				③ 男女雇用機会均等法				④ 男女共同参画社会基本法				
		知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	知っている	聞いたことがある	全然知らない	無回答	
全体	1,296 100.0	379 29.2	662 51.1	227 17.5	28 2.2	311 24.0	447 34.5	496 38.3	42 3.2	664 51.2	512 39.5	89 6.9	31 2.4	197 15.2	613 47.3	448 34.6	38 2.9	
年代別	女性:10・20代	92	45.7	43.5	8.7	2.2	30.4	33.7	30.4	5.4	51.1	39.1	7.6	2.2	34.8	46.7	15.2	3.3
	女性:30代	129	24.0	45.7	29.5	0.8	30.2	24.8	44.2	0.8	57.4	33.3	9.3	-	8.5	48.8	41.9	0.8
	女性:40代	154	20.8	60.4	18.2	0.6	23.4	27.3	48.7	0.6	55.2	39.0	4.5	1.3	6.5	46.1	46.8	0.6
	女性:50代	135	23.7	62.2	13.3	0.7	19.3	34.1	45.2	1.5	48.1	42.2	8.9	0.7	14.1	48.1	35.6	2.2
	女性:60代	168	23.8	56.5	17.3	2.4	12.5	38.1	45.8	3.6	33.3	53.6	9.5	3.6	9.5	42.3	43.5	4.8
	女性:70歳以上	72	30.6	43.1	16.7	9.7	12.5	40.3	33.3	13.9	37.5	44.4	6.9	11.1	8.3	47.2	34.7	9.7
	男性:10・20代	49	59.2	30.6	8.2	2.0	42.9	24.5	30.6	2.0	55.1	34.7	8.2	2.0	42.9	38.8	16.3	2.0
	男性:30代	75	25.3	52.0	22.7	-	33.3	30.7	36.0	-	49.3	44.0	6.7	-	8.0	56.0	36.0	-
	男性:40代	83	22.9	43.4	31.3	2.4	33.7	25.3	38.6	2.4	53.0	34.9	8.4	3.6	16.9	41.0	39.8	2.4
	男性:50代	74	35.1	47.3	14.9	2.7	32.4	37.8	25.7	4.1	68.9	24.3	5.4	1.4	14.9	51.4	29.7	4.1
	男性:60代	173	34.7	50.3	12.1	2.9	24.3	46.8	24.9	4.0	64.2	31.2	2.3	2.3	19.7	52.0	25.4	2.9
男性:70歳以上	70	34.3	51.4	11.4	2.9	14.3	40.0	40.0	5.7	45.7	45.7	4.3	4.3	22.9	47.1	24.3	5.7	
無回答	22	13.6	54.5	31.8	-	9.1	45.5	45.5	-	36.4	50.0	13.6	-	4.5	45.5	50.0	-	
年代別	女性:10・20代	92	6.5	43.5	46.7	3.3	1.1	16.3	79.3	3.3	1.1	17.4	79.3	2.2	-	5.4	91.3	3.3
	女性:30代	129	7.0	40.3	50.4	2.3	0.8	26.4	72.9	-	0.8	18.6	79.8	0.8	-	4.7	94.6	0.8
	女性:40代	154	7.1	34.4	57.8	0.6	3.9	44.2	51.3	0.6	1.3	34.4	63.6	0.6	-	7.8	90.3	1.9
	女性:50代	135	11.9	32.6	54.1	1.5	7.4	37.8	54.1	0.7	4.4	34.8	59.3	1.5	1.5	11.9	84.4	2.2
	女性:60代	168	5.4	36.9	54.2	3.6	2.4	36.9	57.1	3.6	2.4	28.0	66.1	3.6	1.2	13.1	81.0	4.8
	女性:70歳以上	72	5.6	50.0	33.3	11.1	5.6	40.3	44.4	9.7	4.2	30.6	54.2	11.1	4.2	20.8	63.9	11.1
	男性:10・20代	49	14.3	30.6	53.1	2.0	2.0	12.2	83.7	2.0	2.0	8.2	87.8	2.0	4.1	4.1	89.8	2.0
	男性:30代	75	5.3	45.3	48.0	1.3	-	24.0	74.7	1.3	-	16.0	82.7	1.3	-	8.0	90.7	1.3
	男性:40代	83	15.7	42.2	39.8	2.4	-	16.9	80.7	2.4	1.2	14.5	81.9	2.4	-	2.4	95.2	2.4
	男性:50代	74	9.5	39.2	47.3	4.1	2.7	27.0	66.2	4.1	4.1	23.0	68.9	4.1	-	13.5	82.4	4.1
	男性:60代	173	9.8	48.0	39.3	2.9	4.6	28.9	63.0	3.5	4.0	27.2	65.9	2.9	-	18.5	78.6	2.9
男性:70歳以上	70	12.9	40.0	42.9	4.3	7.1	42.9	41.4	8.6	5.7	34.3	52.9	7.1	4.3	17.1	71.4	7.1	
無回答	22	4.5	40.9	54.5	-	4.5	31.8	63.6	-	4.5	18.2	77.3	-	4.5	9.1	86.4	-	
年代別	女性:10・20代	92	4.3	10.9	81.5	3.3	27.2	16.3	54.3	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:30代	129	2.3	11.6	85.3	0.8	33.3	17.1	48.8	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:40代	154	2.6	11.0	85.7	0.6	29.9	31.8	37.7	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:50代	135	3.7	12.6	82.2	1.5	19.3	28.1	51.9	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:60代	168	1.2	12.5	82.7	3.6	17.9	29.2	50.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:70歳以上	72	-	13.9	75.0	11.1	13.9	22.2	52.8	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:10・20代	49	4.1	8.2	85.7	2.0	18.4	20.4	59.2	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	75	-	8.0	90.7	1.3	28.0	32.0	38.7	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:40代	83	2.4	9.6	85.5	2.4	25.3	27.7	44.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:50代	74	2.7	8.1	85.1	4.1	20.3	28.4	47.3	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:60代	173	1.2	14.5	81.5	2.9	15.6	32.4	49.7	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-
男性:70歳以上	70	5.7	11.4	78.6	4.3	21.4	30.0	44.3	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	22	4.5	-	90.9	4.5	9.1	18.2	72.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
年代別	女性:10・20代	92	31	147	1,081	37	290	348	627	31	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:30代	129	2.4	11.3	83.4	2.9	22.4	26.9	48.4	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:40代	154	3.1	14.7	81.5	3.3	27.2	16.3	54.3	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:50代	135	2.3	11.6	85.3	0.8	33.3	17.1	48.8	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:60代	168	2.6	11.0	85.7	0.6	29.9	31.8	37.7	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-
	女性:70歳以上	72	3.7	12.6	82.2	1.5	19.3	28.1	51.9	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:10・20代	49	1.2	12.5	82.7	3.6	17.9	29.2	50.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:30代	75	-	8.0	90.7	1.3	28.0	32.0	38.7	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:40代	83	2.4	9.6	85.5	2.4	25.3	27.7	44.6	2.4	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:50代	74	2.7	8.1	85.1	4.1	20.3	28.4	47.3	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性:60代	173	1.2	14.5	81.5	2.9	15.6	32.4	49.7	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-
男性:70歳以上	70	5.7	11.4	78.6	4.3	21.4	30.0	44.3	4.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	22	4.5	-	90.9	4.5	9.1	18.2	72.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

2. 「男女共同参画社会」を実現するために行政が今後力を入れること

問 18. あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市に対してどのような施策を望みますか。
 あてはまるものを3つまで選び数字に○印をつけてください。

図表9-3 「男女共同参画社会」を実現するために行政が力を入れること [全体、性別]



男女共同参画社会を実現するために、市に対してどのような施策を望むかたずねた。「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備を行う」が45.4%、「女性の再就職・資格取得などの職業教育や訓練の機会を提供する」が30.6%、「高齢者や障がい児・者の介護者への支援策を充実する」が28.2%、「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用を行う」が26.5%などとなっている。

性別でみると、「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備を行う」「女性の再就職・資格取得などの職業教育や訓練の機会を提供する」「高齢者や障がい児・者の介護者への支援策を充実する」「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すよう啓発を行う」は女性で高くなっており、女性からは両立支援策や就労支援、男性の家事参加促進などが求められている。一方、男性では「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用を行う」「審議会など行政の政策・方針決定の場の女性の参画を増やす」「各種団体の女性リーダーを育成する」など、女性の登用やリーダー育成に関する項目が女性に比べて高くなっている。

年代別でみると、「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備を行う」は男女とも30代で最も高く、女性では7割以上、男性でも6割弱が回答している。「女性の再就職・資格取得などの職業教育や訓練の機会を提供する」も30代で高くなっており、特に女性では4割台半ばと目立って高い。「高齢者や障がい児・者の介護者への支援策を充実する」は男女とも50代以上で3割を超えており、一方「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すよう啓発を行う」は10・20代の女性で高くなっている。「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用を行う」「審議会など行政の政策・方針決定の場の女性の参画を増やす」は男女とも年齢の高い層で回答率が高くなる傾向がみられる。

図表9-4 「男女共同参画社会」を実現するために行政が力を入れること〔全体、年代別〕

		(%)																														
標本数		の審議会の女性の参画を増やす	野行政の女性の積極的な登用を行う	各種団体の女性リーダーを育成する	口の設置などの取組を行う	性暴力被害者支援のための相談窓口	平等について啓発を行う	広報誌やパンフレットなどで男女	参加を促すよう啓発を行う	男性の家事・育児・介護などへの	女平等の教育を行う	保育所・幼稚園や学校における男	習の機会や場を増やす	地域で男女平等をすすめる	職業教育や訓練の機会を提供する	女性の再就職・資格取得などの職	いい仕事の周知を行う	職場における男女の均等な取り扱	働き続けるための条件整備を行う	保育所・学童保育所の整備、育児	休業制度の普及など、男女が共に	の支援策を充実する	高齢者や障がい児・者の介護者へ	策を充実する	ひとり親家庭や寡婦に対する支援	その他	特にな	無回答				
全体	1,296 100.0	193 14.9	344 26.5	143 11.0	101 7.8	92 7.1	285 22.0	188 14.5	107 8.3	396 30.6	207 16.0	588 45.4	366 28.2	175 13.5	13.5	17	1.1	70	5.4	49	3.8											
年代別	女性:10・20代	92	7.6	17.4	3.3	12.0	4.3	35.9	19.6	6.5	35.9	16.3	48.9	21.7	16.3	1.1	1.1	3.3														
	女性:30代	129	8.5	14.0	5.4	7.8	3.9	24.8	14.7	3.1	45.7	14.0	71.3	21.7	13.2	-	2.3	2.6														
	女性:40代	154	9.1	24.7	11.0	7.1	5.2	22.7	18.2	3.2	38.3	19.5	46.1	28.6	13.6	1.9	4.5	2.3														
	女性:50代	135	17.8	28.9	8.1	8.9	5.2	22.2	18.5	8.1	33.3	14.1	42.2	35.6	6.7	0.7	7.4	3.7														
	女性:60代	168	11.9	29.2	7.1	5.4	10.1	22.6	17.3	8.3	31.5	20.2	49.4	37.5	16.7	1.2	3.0	1.8														
	女性:70歳以上	73	16.7	34.7	13.9	2.8	9.7	19.4	8.3	4.2	25.0	11.1	40.3	38.9	9.7	-	5.6	8.3														
	男性:10・20代	49	14.3	14.3	8.2	14.3	2.0	20.4	10.2	8.2	24.5	20.4	30.6	16.3	16.3	4.1	16.3	2.0														
	男性:30代	75	14.7	20.0	20.0	8.0	4.0	32.0	16.0	6.7	33.3	16.0	57.3	17.3	10.7	4.0	4.0	1.3														
	男性:40代	83	9.6	25.3	14.5	8.4	7.2	15.7	15.7	9.6	20.5	15.7	34.9	13.3	13.3	2.4	12.0	2.4														
	男性:50代	74	20.3	32.4	16.2	6.8	5.4	25.7	8.1	9.5	20.3	12.2	29.7	27.0	14.9	1.4	6.8	8.1														
	男性:60代	173	26.0	31.2	15.6	8.7	9.8	15.0	8.7	14.5	20.2	14.5	42.2	31.2	16.2	1.2	6.4	5.2														
	男性:70歳以上	70	24.3	42.9	14.3	7.1	17.1	7.1	11.4	14.3	30.0	14.3	30.0	30.0	14.3	-	1.4	8.6														
	無回答	22	9.1	36.4	13.6	4.5	4.5	27.3	18.2	22.7	18.2	18.2	36.4	36.4	9.1	-	9.1	-														

Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題

Ⅲ 調査結果からみえてくる現状と課題

はじめに

男女共同参画社会基本法には、国民・自治体の責務として男女共同参画の取組むことが明記されている。筑紫野市においては、平成 10 年に「ちくしの男女共同参画プラン」を策定し、平成 18 年には「筑紫野市男女共同参画推進条例」を施行した。その後、平成 20 年には「第 2 次ちくしの男女共同参画プラン」を策定し、「第四次筑紫野市総合計画」との整合性を図りながら、男女平等の基本原則に基づいて行政各分野で事業を展開し、男女共同参画社会実現を目指してきた。

本調査は、この 5 年間の筑紫野市の取組の成果を検証するとともに、今後の男女共同参画を進める上での課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。福岡県の「男女共同参画に向けての意識調査」（平成 26 年 12 月実施）及び内閣府の「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成 26 年 8 月実施）との比較できる項目もあり、本市の特徴をみる事が可能である。

調査で得たデータを基に、本市における男女共同参画に関する市民意識の現状と動向および今後の課題について考察したい。

また、回答者の基本的属性をみると、性別の構成は女性が 58.6% に対し男性は 40.9% で、女性が約 18 ポイント上回り、男女共同参画に対する関心は、女性の方が高いことがうかがえる。年齢の構成比をみると、60 代は女性では 22.1%、男性では 32.6% と最も比率が高く、他の年齢層の 2 倍近くあり、また、男性の 60 代以上の年齢者層の比率が 45.8% と半数近くとなっている。本調査結果は、男性では高齢者層の意識が回答内容にも反映される可能性がある点には留意が必要といえる。

1. 男女平等に関する考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方いわゆる固定的性別役割分担意識については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』が 43.0% で、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせた『反対派』が 55.3% と性別役割分担を否定する人が、12.3 ポイント上回っている。『反対派』は女性が男性を 8.4 ポイント上回っている。但し、男性は 60 歳以上の回答者の割合が高いため、高齢者層で『賛成派』が多い結果が男性の回答に影響を与えており、男性の 40 代以下では『反対派』は高くなっている。

前回調査と比べると、『反対派』は今回調査の方が女性で 13.9 ポイント、男性で 3.4 ポイント増えており、固定的性別役割分担意識は解消される傾向にあるといえる。全国調査と比べると男女ともにほぼ似た数値となっているが、福岡県調査と比較すると『反対派』の割合は今回調査の方がやや高く、筑紫野市では福岡県内と比較して性別役割分担意識は解消される傾向がうかがえる。

男女の地位の平等感について 8 つの項目でたずねたところ、『男性優遇』が高いのは、順に「社会通念・慣習・しきたりなど」「政治の場」「社会全体」で 7 割を超えていた。次いで「職場」「家庭生活」が続き、「法律や制度のうえ」「地域活動・社会活動の場」は半数以

下で、「学校教育の場」が1割台で最も低くなっている。

女性の「平等」の割合は全ての項目で男性を下回り、男女の地位の平等については女性の方が男性よりも不平等感が強い。特に、「法律や制度」については、女性は「平等」であると認識している割合が約2割で男性を約20ポイント下回り、男女の認識の差が最も大きい。男女雇用機会均等法（1986年施行）から「女性活躍推進法」（2016年施行）まで、多方面に法律や制度が整備されてきたが、生活の中で適切に運用されているかについては課題が多いため、女性には法整備が現実の男女平等に結びついた認識にはなっていないのであろう。但し、前回調査と比べると男性も『男性優遇』が約4ポイント高くなっており、不平等とする認識は高くなっている。「政治の場」は、女性の『男性優遇』が8割を超えて最も高い項目で、男性を約15ポイント上回っており、閣僚等に女性が登用されると目立つが、現実的には政治の場で男性と女性が同等に活躍しているとは言い難く、この点について女性の方がより不平等と感じていると推測される。女性では前回調査より不平等感は高くなっている。「職場」では女性の非正規雇用や専業主婦で『男性優遇』が高くなっている。国の調査と比べると、「家庭生活」「職場」「地域活動・社会活動の場」など実体験を伴う場では、『男性優遇』の割合が今回調査の方が高く、女性にその傾向が強くなっている。

政策・方針決定の場に女性が少ない理由については、男女とも「家事・育児や介護に支障がでるから」が最も高く、女性では男性を約10ポイント上回っており、女性の40代以下の年代では7割を超えた。「家族の支援・協力が得られないから」も女性は男性より7ポイント高く、特に30代と40代で4割を超えていた。女性には、政策・方針決定の場へ参画するには家庭責任が障壁になることが男性より意識され、特に子育て世代では強いことがわかる。「男性優位の組織運営になっているから」は、女性では第2位と男性よりも高く、男女とも60代で高くなっている。「あらゆる場面において、男女で役割を分ける意識が根強いから」は、男性では第2位と女性よりも高くなっている。

男性の方が社会の各分野について男女平等と認識している人が多く、前回調査と比べると、やや不平等感への認識は高くなってきているものの、女性の認識とのずれは大きい。男性も慣習やしきたりについては、不平等であるという認識が高かったことから、男性の啓発には、慣習やしきたりから男女平等や男女共同参画について考えるような啓発が有効と思われる。

2. 子育て・教育に関すること

固定的な性別役割分担を解消する方向で子どもの育て方を考えているのか、女の子への経済自立志向と男の子への生活自立志向をたずねた。

「女の子も男の子と同等に経済的に自立できるような教育が必要だ」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」は、ともに9割以上の人が賛成している。但し、男性では、男の子の生活自立志向への積極的な賛成の割合は、女の子の経済的自立志向より約6ポイント低くなっていた。女の子の経済的自立志向は、前回調査と比べると、積極的な賛成が男性の方でより増えていた。性別役割分担に反対する人では積極的な「賛成」の割合が高く、特に女性で顕著となっていた。ただ、性別役割分担に賛成する人でも、女の子の経済的自立も男の子の生活自立も『賛成派』は9割

程度あり、「男は仕事、女は家庭」と考えているとしても子どもたちには、性別役割分担が解消される育て方を支持していることがわかる。また、「男の子は理科系・女の子は文科系に進んだ方がよい」とする、性別で異なる子どもの進路についてたずねたところ、『反対派』は約8割と高くなっているが、積極的な「反対」は男性の方が女性よりやや低い。性別役割分担に反対する人では、「反対」の割合が高くなっていた。前回調査と比べると『反対派』が男女とも増えていた。

男女共同参画を進めていくために、学校教育の場に求められることは、高い順に、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」「生活指導や進路指導において、性別にかかわらず無く能力を活かせるよう配慮すること」が6割前後で上位3位となっている。

以上のことから、子どもの育て方は基本的には性別役割分担を解消する方向に概ね進んでいることがわかる。

3. 家庭に関すること

現在、配偶者がいる人に対し、家庭内の10の役割の分担状況についてたずねたところ、女性の『主に妻』が行なう割合が最も高い項目は、「炊事、掃除、洗濯などの家事をする」で約9割にのぼり、共働きでの女性でも8割半ばと高い。「日々の家計を管理する」も約8割と高い。男性もこれらの家事役割の『主に妻』の割合は女性と変わらず、妻が働いていても家事が女性の役割となっている現状がわかる。また、これらの家事役割については、男性の「主に妻が行っている」は女性より低く、男性では「主に妻が行い、夫が一部を負担している」という認識は女性より高い。但し、男女とも前回調査より「主に妻が行い、夫が一部を負担している」がやや増えており、男性の家事への参画が進みつつある。一方で、男女とも「生活費を稼ぐ」の『主に夫』は7割を超え、稼ぐ役割は男性中心であることがわかる。また、女性の場合正規雇用では『主に夫』の割合は3割台と低いが、パートタイマーでは約9割にのぼる。これらから、家事役割と稼働役割については、性別で大きく偏っている現状があり、特に女性は就労していてもパートタイマーという働き方では性別役割分担は解消されないことがわかる。

「育児、子どものしつけをする」の『主に妻』の割合は約6割で、家事役割よりも低くなっており、「主に妻が行い、夫が一部を負担している」が男女とも3割を超えて前回調査よりもやや高くなっていた。「保育所・幼稚園・学校行事に参加する」は、『主に妻』の割合は、女性では約7割と家事役割の割合よりも低く、また30代以下の年齢の低い層では男女とも低くなっている。「同じ程度に分担している」の割合は、男女とも年齢の低い層では高いが、男性の方が女性を大きく上回っている。「親の世話（介護）をする」では、「同じ程度に分担している」が男女とも2割を超えているが、親の介護を担う50代と60代では『主に妻』の割合が高くなっていた。前回調査と比べると、「同じ程度に分担している」の割合は男女とも約7～9ポイント高くなっており、男性の参画は進んできている。

これらのことから、子育てや介護のケア役割の担い手は妻が中心ではあるが、掃除、炊事などの家事役割に比べると夫婦で分担する家庭は多いことがわかる。前回調査と比べると、ケア役割に男性の参画は進みつつある傾向はうかがえる。ただし、家事役割と同じく

ケア役割もすべての項目で男性よりも女性の方が『主に妻』の割合が高くなっており、男性の一部は自分が担っているという認識と女性の自分が一人で担っているという認識のずれがある。このことが、前節でみたように「家庭生活」における女性の不平等感の高さの背景にあると推測される。

「自治会・町内会などの地域活動を行う」は、40代、50代では『主に妻』が高く、特に女性では6割を超えて高いが、60代以上では『主に夫』が高くなり、男性の70歳以上では5割を超えている。家事などの内向きの仕事に比べ外向きの仕事である地域活動は、年齢の高い層では男性の役割となっている状況がうかがえる。

家庭内の決定に関わる項目をみると、「子どもの教育方針や進学目標の決定」について「同じ程度に分担している」の割合は、男女ともすべての役割の中で最も高い項目となったが、男性の方が女性よりも10ポイント以上高い。進路決定が重要な年代である中学生や高校生が家族にいる年代の40代と50代では『主に妻』が女性では約4割あり、男性を上回る。

「高額な商品や土地・家屋の購入」は、『主に夫』が男女とも5割を超えて高い。「家庭の問題における最終的な決定をする」は『主に夫』は女性で約4割、男性で5割と高く、女性では年齢の高い層で高くなっている。どちらの項目も、性別役割分担に反対する人では「同じ程度に分担している」の割合が高くなる傾向にある。

決定に関する項目では、子どもの進路決定は、夫婦で平等に関わっている状況がうかがえるが、その認識は男性の方が高い。高額商品の購入や家庭問題の最終的な決定については、夫中心という家父長制度の意識の根強い家庭は多く、これらの男性優位の状況が、家事役割、ケア役割とともに「家庭生活」での女性の不平等感が高かった原因の一つもといえる。

前節でみたように子どもの育て方については、固定的な性別役割分担意識を解消する方向に進んでいる。しかし、実際の家庭生活の役割の分担状況をみると、日常の炊事や掃除・洗濯は女性の約9割が担っていたことから、現実の性別役割分担を目の当たりにする子どもへの影響は大きいと懸念される。女の子は経済的自立を目指した育て方をされても、日常の家事は妻の役割と思わせられるならば、結婚や子育てが負担として伝わる可能性がある。結果として、母親世代と同様に結婚か仕事か二者択一を迫られ、将来の未婚や少子化の拡大につながるかもしれない。子どもたちを男女の枠にはめず、自身の可能性が広がるように、実生活での固定的性別役割分担の解消は重要である。父親が家事や子育てに関わり子どもたちのモデルとなれるよう、就労環境の改善をはじめワーク・ライフ・バランスを目指した支援は今後さらに求められる。

4. 防災に関することについて

近年の大きな自然災害の経験から、男女共同参画の視点による防災対策や災害対応が求められている。防災に関してどのようなことが必要かたずねたところ、上位4項目では約5割を超えており、関心の高さがうかがえ、男性と女性での意識の性差もうかがえる。「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が男女とも最も高いが、女性は男性を約10ポイント上回り、特に50代や30代以下の年代で8割前後と大変高くなっている。

「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」も女性は約

6割で男性より高かった。支援を必要とする人の立場を配慮する項目が男性より女性が高いのは、ケア役割の担い手としての視点が反映されているからであろう。男性では、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が6割を超え女性より高く、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」「防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する」なども女性より高く、男性は女性の主体的な参画を求めている。なお、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男女とも第2位と高く、性別の違いが最も小さかった。

意思決定の場に女性も参画することは、防災分野のみならず多様な分野が活性化される。また、男性が日頃からケア役割を担える環境にあれば、災害時にもより適切な対応につながる。地域で男女共同参画を進める重要性が示唆されたといえる。

5. 仕事について

女性が職業を持つことについての考え方については、「ずっと職業を持ち続ける方がよい」が女性では半数を超え、男性も半数近くあり、「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなって再び職業を持つ方がよい」という「女性のM字型就労」とよばれている中断・再就職への支持より就業継続型への支持が男女とも上回っている。男性では、中断・再就職と専業主婦志向への支持が女性よりもやや上回っている。就業継続型は離婚した女性では約7割と高く、離婚を体験した女性は仕事を継続する重要性を認識しているといえる。性別役割分担に賛成の人では、専業主婦志向より中断・再就職への支持が高く、「女は家庭」という考えに賛成しても子育てを終えたら女性が働くことは認めていることがわかる。

中断・再就職や専業主婦志向を選んだ人に、女性が就業を続けられない方がよいと考える理由についてたずねた。第1位は「仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから」が男女とも4割を超えて最も高く、特に出産期である女性の30代以下では高くなっていた。第2位は男女とも「育児休業などの仕事と家庭が両立できる支援制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」で、女性では男性の割合を上回った。第3位は男女とも「保育や介護などの施設が整っていないから」となった。女性の割合が男性を大きく上回っているのは、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」で約10ポイント高く、特に再就職を体験した女性の40代、50代で高く、実体験が反映されていることが推測される。男性は「女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから」が女性よりも約9ポイント高く、特に未婚者の多い30代以下の年齢の低い層で高くなっており、また、性別役割分担に賛成する人でも高くなっていた。女性の就業継続を支持しない人では、仕事と家庭の両立が困難な現状を踏まえた結果の判断であり積極的に就労中断を支持しているわけではなく、特に女性ではその傾向が高いことがわかる。

実際に女性はどのような働き方をしているかについて、女性には本人の、男性では配偶者・パートナーの働き方をたずねた結果、男女とも就労継続が最も高く3割台半ば、次いで中断・再就職が2割台半ばであった。先に女性が職業を持つことについてどう考えるかと聞いた回答より、それぞれの割合は低い。反対に専業主婦の割合は、考え方より実際の割合が高くなっている。一般論としての考え方よりも、個別の現実では女性の就労は実現

していない状況がうかがえる。但し、前回調査と比べると就業継続が増え、中断・再就職が減っている。男女とも年齢の低い層では将来を見通しての回答といえるが、就業継続が他の年齢層より高くなっている。女性の40代と50代では就業継続が中断・再就職と拮抗しており、60代以上では専業主婦が最も高く、年代に応じて女性の働き方が変化してきていることがわかる。

現在職業を持っている人に、職場の女性に当てはまることをたずねた。全体的にとりわけ高い項目はないが、男性の割合が女性を上回っている項目が多く、男性の方が女性の不利な状況への認識はやや高いといえる。男性の割合が女性より高い項目は、「女性は男性より出張や視察などの機会が少ない」「募集や採用人数に男女格差があり、女性は男性より不利である」「昇進や昇格に男女格差がある」「女性は転勤などの人事異動で男性より不利である」「女性は補助的な仕事や雑用が多い」など就労上の不利益な扱いに関するものが多い。女性の割合が男性を上回る項目は、「仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない」「家族手当、住居手当などがつかない。賃金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある」という福利厚生に関わるものや「結婚や出産時に退職する慣例や圧力がかかる」「中高年女性に退職を促すような圧力がかかる」という慣習に関わるものであった。

国の第4次男女共同参画基本計画では、女性の活躍による経済社会の活性化や「M字カーブ問題」の解消を強調している。しかし、女性は仕事より子育てという性別役割分担意識が強い職場では、出産した女性を支援する意識は醸成されず両立支援に関する制度は形だけに終わり、女性自身は働き方を制約せざるを得ないこととなろう。女性の就労率が高くなったとしても、「M字カーブ」の状態が続くか、女性が結婚を選択しないことも起こりうる。若年層で女性の就業継続の意向が高かったことから、女性の活躍を推進するならば両立支援に関する制度の充実とともに職場での固定的性別役割分担意識の解消は喫緊の課題といえる。

6. 社会活動などへの参加・参画について

男性が地域活動や家庭生活へ参加しやすくするために必要なことについては、「企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる」「職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる」の上位2項目が5割前後と高く、職場での取組みが求められていた。特に女性の割合が男性より高く、子育て期の30代では他の年代より高くなっていた。男性では「労働時間を短くして余暇を増やす」が女性より高く、特に30代では6割を超え他の年代よりも大幅に上回っていた。女性でも30代は最も高くなっており、長時間労働の課題は男性の方が重く認識しているが、30代では男女ともにその認識が高いといえる。「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う」と個人での解決については男女とも3割を超え、性別の違いがあまりみられなかった。

地域への男性の参画、特に子育て世代の男性が地域に参画することは、地域の活性化にとっても、また個人のワーク・ライフ・バランスを実現するうえでも重要である。事業所等による積極的な取組みと行政による支援体制の充実が求められている。

女性が地域の役職につくことについて、女性には引き受けるか、男性には身近な女性が

推薦された場合に引き受けることをすすめるかをたずねたところ、女性の約8割、男性の6割弱が「断る（ことをすすめる）」と回答している。男性の方が女性よりも、女性が役職につくことに肯定的であるが、子育て世代の30代の男性では他の年代よりも否定的であった。

「断る（ことをすすめる）」理由については、女性は「役職につく知識や経験がないから」が約4割で男性を上回っており、男女とも60代以上の年齢の高い層で高くなっていった。「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の40代以下で高く、男性では子育て期の30代で他の年齢層より大幅に高くなっていった。また、性別役割分担に賛成の人でも割合は高くなっていった。「家族の協力が得られないから」は女性の50代、男性の60代の介護世代で他の年代より高くなっていった。

これらのことから、子育てや介護のケア役割を担う年代では、地域の役職と家庭責任との両立の困難を感じていることがわかる。地域の様々な場に性別に関わらず多様な意見が反映されるよう、意思決定過程への女性の参画を推進しなければならない。女性が地域活動を担っていけるような女性リーダーの育成に向けた社会教育の整備を進めるとともに、活動の際に託児をつけたり、参加しやすい時間帯を工夫するなど、家庭生活と社会活動の両立を可能とするような支援策を講ずることが必要である。

7. 慣習・しきたりについて

第1節でみたように、男女の地位の不平等について、男性も女性も「社会通念・慣習・しきたりなど」を『男性優遇』と考えている人が最も高かった。実際に身の回りにおいて、どのような不平等な慣習があるのかをたずねた。

地域に関しては、「地域での集会の時には女性がお茶くみや後片づけをしている」について「そうしている」が約5割と最も高く、女性は6割近くあり男性を上回っていた。以下、「そうしている」が高いのは順に、「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」が約4割、「自治委員（隣組長などの登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」「PTA会長は男性がなり、副会長は女性が多い」「地域での集会では男性が上座に座る」が3割前後あり、「そうしていない」を上回っている。「役員会での女性の発言が少ない」のみは、「そうしていない」が高くなっていった。固定的な性別役割分担や「ものごとの決定や代表は男性」といった慣習が依然として残っていることがわかる。ほとんどの項目で「そうしている」は女性が男性を上回り、女性の方が不平等な現状をより認識している傾向にある。なお、「わからない」は約3割から5割と高く、地域の現状を把握していない人も多いことがわかる。

これらの地域の慣習について、現状として「そうしている」と回答した人のうち半数以上が「改善すべき」と考えており、特に「役員会での女性の発言が少ない」では8割以上、「自治委員（隣組長などの登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出る人が多い」は約7割にのぼった。但し、「地域活動は男性が取り仕切る」は、「改善すべき」の割合が低く、実質的な決定権は男性のものとする意識はまだ高い。

地域の決定の場に女性の参画が求められても、これまで地域活動でお茶出しなどの補助

的な役割しか経験していないならば、自分は知識も経験もないので無理と感じる女性が多いことも当然といえよう。地域活動における男女共同参画を推進するためには、性別で役割を決めつけることなく、また性別に関わりなく積極的に意見を出し合える環境を整えることが重要である。

夫婦の氏（姓）については、民法の規定では、結婚に際して夫婦はどちらか一方に改姓することとされ、男性側の姓に限定してはいないが女性側の姓を名乗る夫婦は数パーセントにすぎない。女性の社会進出がすすみ、仕事や社会的な手続きの上での改姓による不便が問題となり、女性のみが不利益を被る慣習は女性差別にあたるとして国連の女子差別撤廃条約委員会から日本は勧告を受けている。しかし、2015年に最高裁は、夫婦が希望する場合には夫婦がそれぞれ結婚前の姓を称する「選択的夫婦別姓」を認める訴えに対し、夫婦同姓が社会に定着していることを理由に却下した。

「結婚の際、氏は男性側とする」という慣習について、今回調査の結果でも「そうしていない」はわずかである。「そうしている」人たちの中で「改善すべき」は2割にとどまり、6割近くが現状の慣習を肯定している。

選択的夫婦別姓への賛否については、全体でみると『賛成派』『反対派』の割合が半数ずつで拮抗しているが、性別にみると違いは大きい。『賛成派』は女性では6割近くあり男性を約15ポイント上回り、既婚者では共働きの女性で6割半ばにのぼり、未婚の女性も6割を超える。『反対派』は男性が5割半ばで女性を約15ポイント上回る。また、年代での違いも顕著で、『賛成派』は50代以下で高くなっており、特に30代では女性は約7割、男性では約6割と最も高くなっている。『反対派』は60代以上で高くなっている。今回調査では、男性60代以上の比率が高いことが、男性の賛成派の比率を高めているといえる。夫婦同姓が慣習として定着しているとしても、年齢の低い層では意識が変わっていく可能性は高く、継続的な意識調査が必要である。

8. 暴力などの人権侵害について

セクシュアル・ハラスメントについて、「職場」、「地域活動の場」、「学校に関わる場」の3つに分けてこの5年間での被害体験をたずねた。なんらかの被害を受けた人の割合は、「職場」が17.3%と最も高く、「地域活動の場」が5.4%、「学校に関わる場」が3.6%となっている。セクシュアル・ハラスメントが性暴力であることを鑑みると、いずれも比率はわずかでも看過できない数値である。

「職場」の被害体験は、女性が男性より経験比率は高いが、男性も一定の被害を受けていることがわかる。「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」は、女性の40代以下の年齢の低い層で1割を超えて高い。「性的なジョークをいわれたり、猥談がかわされた」は女性の30代では2割を超え特に高くなっている。「いつ結婚するのかと言われた」は女性では30代で約2割、男性では30代と40代で約1割と高く、平均結婚年齢を超える頃の時期に被害が多くなることがわかる。

「地域活動の場」での被害体験は、「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」は女性の40代と50代、「いつ結婚するのかと言われた」は女性の30代、男性の30代と40代での被害が他の年代に比べて多い。男性の10・20代ではセクハラを受けた経験が高く、「宴

席でお酌やデュエット、ダンスを強要された」「からだに触られた」「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」などがあげられている。

現状で学校に関わる人は限定されるため、職場や地域活動の場と比べると学校での被害経験は少ない。全体的に被害経験の数値は男性と女性とあまり違いがない。年齢の低い10・20代で被害経験が高く、その中で女性が最も多かったのは「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」、男性では「じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた」「ヌード写真やわいせつな本を見せられた」「性的なうわさを流された」などの被害が高くなっている。

職場においては、男性のセクシュアル・ハラスメントが起きている現状が明らかになったが、男女雇用機会均等法では男性被害の防止策も事業主の責任とされている。地域や学校では、身体に関する冗談は行為者がセクシュアル・ハラスメントと認識しないままに蔓延している状況もうかがえる。また、不用意な発言が被害を発生させている状況もうかがえる。事業所に対しての情報提供を進めるとともに、地域や学校においても、ジェンダーに関する意識啓発や性をめぐる人権意識の向上を図っていく必要が示唆された。

配偶者や交際相手からの暴力、いわゆるドメスティックバイオレンスの被害について、ここ5年くらいでの被害の経験をたずねた。

DV被害経験たずねたところ、なんらかのDV被害を受けた人は、女性は約3割で男性の約2倍となっており、女性の中でも、30代から50代の年代で高くなっていた。また、未婚者の被害経験も男女とも1割を超えており、デートDVの実態があることがわかる。県や国の調査結果と比べると、今回調査の方が女性の被害経験が高く、被害者が多いことは問題であるが、DVに対する認識が女性に高いことが反映されている可能性もある。

暴力の内容では、精神的暴力の経験が最も高く女性では5割を超え、男性では2割を超える。具体的には、「何をいっても無視された」が男女とも1割を超え、「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」は男性もやや高いが、「誰のおかげで生活できるんだ」と言われた」は男性にはほとんどなかった。次に多いのが身体的暴力で女性では2割を超え、内容では「押されたり、つかまれたり、こぶかれたりした」が高く、「蹴られたり、殴られたりした」という重篤な被害も6.0%と高くなっていた。社会的暴力は男性では2番目に高く、「身内や友だちとのつきあいや外出を制限された」「携帯電話のメールや通信履歴をチェックされた」は男女ともある程度被害がある。性的暴力は男性ではほとんど受けておらず、女性では「望まない性交渉を強要された」「避妊に協力しない」が高くなっている。経済的暴力の被害経験も男性は低く、女性では「生活費を細かくチェックする」「生活費などの必要なお金を渡さない」が5%前後となっている。

DVを受けた経験がある人のうち、「どこ（誰にも）相談しなかった」は男女とも半数を超えている。誰かに相談した人は女性では3割半ばあり、男性は女性を20ポイント下回るが、30代以下の年齢の低い層では約3割から4割弱と比較的に高い。相談先は、「友人・知人」が最も高く、「家族や親戚」も女性では高いが、男性では約3割にとどまる。専門家の比率は低く、その中でも高いのは「医師・カウンセラー」が男女とも約7%あるが、「筑紫野市女性センター」「警察・交番」は女性のみで4%台にとどまる。

誰にも相談しなかった人の理由は、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く6割近くあり、続いて「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思っ

た」「相談しても無駄だと思った」「自分にも悪いところがあると思った」が3割台で高い。これら上位の項目はすべて男性の方が女性よりも割合が高い。また男性では、「どこに相談してよいかわからなかった」も約2割と高い。女性では、「子どものためにがまんするしかないと思ったから」が男性より約10ポイント高くなっていた。

適切な対応が期待できる専門家や相談機関、公的機関がDV対策においては重要となるが、そのような窓口で相談した被害者はわずかしかないのは課題である。今後は、被害者の人権を守り、被害者を支援するために、相談機関を被害者が利用しやすいように整備するとともに支援の情報を提供し、DVは加害者に行為の責任があり被害者が耐えたり自分を責めたりする必要はないこと、また、子どもへの影響が大きいことなどを啓発していき、DV被害者のみならず周囲の人間が適切な支援につなげるような環境をつくっていくことが必要である。また、若年層や未婚者に対しては、デートDVへの啓発を進め、対応についての情報提供も進める必要がある。

9. 男女共同参画社会の実現について

男女共同参画に関する法律や制度、本市の条例や計画等の取組み、用語について、「内容を知っている」「聞いたことがある」を合わせた認知度をみってみる。

法律では、「男女雇用機会均等法」の認知度が男女とも約9割と高かった。政策の基本方針を示す「男女共同参画社会基本法」は約6割で、男女とも10代・20代では高く「内容を知っている」が3割半ばから4割にのぼった。2016年4月に施行された新しい法律である「女性の活躍推進法」は全体で約5割であった。法律については、男性の方が女性より認知度は高かった。

筑紫野市の取組みであるプランや条例については、法律よりも認知度は低く、女性の方が男性より高く、年齢の高い層で高いなど、法律とは逆の傾向があった。「筑紫野市男女共同参画推進条例に基づく救済・苦情処理制度」の認知度は約1割と低くなっていた。

用語については、「男女共同参画社会」が男女とも約8割で最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランス」は6割前後と、男女とも10・20代での認知度が高く、男性の方が「内容を知っている」が高かった。「LGBT」は5割弱で、男女とも30代と40代が高かった。「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」で、1割強にとどまり認知度は低かった。

10・20代の男女とも、基本法や用語などの認知度が高いのは、学校の教科学習で知識を習得していることが理由と考えられ、学校教育の重要性が示されるが、身近な市の取組みが実生活に活かされるような学習機会の必要性が示される。また、DV被害の現状では、性的暴力を受ける女性が一定数いたことから、避妊や妊娠における性的自立の意識を男女とも高めるために、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の認知度を上げることも必要である。

「男女共同参画社会」を実現するために市に望むことについて、女性が男性を上回った項目は多く、上位に「保育所・学童保育所の整備、育児休業制度の普及など、男女が共に働き続けるための条件整備を行う」「女性の再就職・資格取得などの職業教育や訓練の機会を提供する」「高齢者や障がい児・者の介護者への支援策を充実する」「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すよう啓発を行う」があげられ、現状では女性が担っている家事や

育児などの家庭責任に対しての支援策や啓発が求められていた。男女が共に働き続ける条件整備に対しては、男女とも 30 代の子育て世代で高く、女性の再就労支援策も女性の 30 代で高くなっていた。介護支援策は、男女とも 50 代で高く、介護世代には切実な課題であることがわかる。一方で、男性の家事育児への啓発は、女性では未婚者の比率の高い 10・20 代で高くなっており、厚生労働省の出生動向調査において、2002 年以降女性が結婚相手に求める条件として「家事・育児の能力」が 9 割を超えている結果とも呼応する。「行政・企業・地域などあらゆる分野での女性の積極的な登用を行う」「審議会など行政の政策・方針決定の場の女性の参画を増やす」は男性に高い項目であったが、女性も年齢の高い層で高く、また「各種団体の女性リーダーを育成する」も男性に高く、男性や年齢の高い層の女性では、女性の登用やリーダー育成に関する施策への期待が高い。

女性は、現状では『妻中心型』であった家事やケア役割に対して社会的支援や男性の参画を求める施策を重視し、男性は就労環境の整備と学習や啓発を重視している傾向がうかがえる。女性の決定の場への参画に関わることへの支援を進めることは重要であるが、その前提に固定的な性別役割分担の解消が必要であり、社会全体の意識改革をめざして啓発を進めていかねばならない。いずれにしろ、多様な支援が行政へ求められており、性・年代に応じた事業を提供していくとともに、市民の実情に応じた支援策や啓発事業を進めていくことが求められる。今回の調査結果をふまえながら、筑紫野市の男女共同参画プランが実効性の高い計画となり、条例に基づいて男女共同参画のまちづくりを進めることが重要である。

◎参考資料
使用した調査票

男女共同参画社会づくりに向けての 市民意識調査

平成28年11月
調査主体：筑紫野市

調査ご協力のお願い

市民のみなさまには、日ごろから市政へのご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

本市では“一人ひとりが輝き、豊かで活力あるまち ちくしの”を基本理念とした“第2次ちくしの男女共同参画プラン”を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを推進しているところです。このプランは平成20年度から平成29年度までとなっており、来年度には“第3次ちくしの男女共同参画プラン”の策定を行います。

つきましては、広く市民のみなさまのご意見を伺い、市政に反映させたいと思っております。

大変お忙し中、誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

【記入上の注意】

この調査は無作為（統計的手法）に選ばせていただいた市内にお住いの18歳以上の男女計3,000人を対象に実施するものです。

お答えいただいた内容の集計業務については、市が委託した業者が行いますが、氏名・住所の情報については、業者へお渡しすることはございません。

また、お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理いたしますので、ご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。

<注意事項>

1. 必ずご本人がお答えください。ただし、ご本人が書くことが困難な場合、代筆でもけっこうです。
2. お答えはあなた自身のお考えに最も近い番号を、指定しております数に合わせて○をつけてください。
3. お答えが「その他」にあてはまる場合は、（具体的に ）内に具体的な内容をご記入ください。

※記入されたアンケート用紙は、お手数ですが12月13日（火）までに同封の返信用封筒に3つ折りにして入れ、ポストに投函してください。（切手は不要です）

※この調査票の内容についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

筑紫野市 市民生活部 男女共同参画推進課
電話：092（918）1311 FAX：092（923）0416

男女平等に関する考え方についておたずねします

問1. 「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方があります。あなたの気持ちとして、この考え方にどの程度同感しますか。 あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 同感する | 3. あまり同感しない |
| 2. ある程度同感する | 4. 同感しない |

問2. あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧のそれぞれについて、あなたの気持ちに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	女性の方が優遇	女性の方が優遇 どちらかといえば	平等	男性の方が優遇	男性の方が優遇 どちらかといえば	わからない
① 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
② 職場で	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体で見た場合	1	2	3	4	5	6

問3. 女性の社会進出は進みつつありますが、政策・方針決定の場にはまだまだ女性が少ないのが現状です。そこにはどのような理由があると思いますか。あてはまるものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

1. 男性優位の組織運営になっているから
2. あらゆる場面において、男女で役割を分ける意識が根強いから
3. 家族の支援・協力が得られないから
4. 家事・育児や介護に支障がでるから
5. 女性の能力開発の機会が不十分だから
6. 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
7. 女性の積極性が十分でないから
8. その他（具体的に)

子育て・教育に関する考え方についておたずねします

問4. あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方をお持ちですか。次の①～③のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを1つ選び番号に○印をつけてください。

【現在、子育て中でない方も、お答えください。】

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	賛 成	賛 成 ど ち ら か と い え ば	反 対 ど ち ら か と い え ば	反 対	わ か ら な い
① 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	1	2	3	4	5
② 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5
③ 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい	1	2	3	4	5

問5. これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選び番号に○印をつけてください。

1. 一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと
2. 発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること
3. 家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと
4. 生活指導や進路指導において、性別にかかわらず無く能力を活かせるよう配慮すること
5. 子どもの健全な育成に向けてメディア・リテラシー*の能力を高めること
6. PTAなどと連携して、男女平等教育の理解と協力を深めること
7. 働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと
8. 管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと
9. 教職員に対する男女平等などの研修を行うこと
10. その他（具体的に _____ ）

※「メディア・リテラシー」とは・・・

メディアの情報を主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし活用する能力、メディアを通じコミュニケーションをする能力の3つを構成要素とする複合的な能力をいいます。

家庭に関することについておたずねします

【この質問は、配偶者・パートナーと同居している方がお答えください。】

問6. あなたの家庭では、次のような家庭内の仕事を主にどなたがしていますか。

①～⑩のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を負担している	同じ程度分担している	主に夫が行い、妻が一部を負担している	主に夫が行っている	その他
① 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
② 炊事、掃除、洗濯などの家事をする	1	2	3	4	5	6
③ 日々の家計を管理する	1	2	3	4	5	6
④ 育児・子どものしつけをする	1	2	3	4	5	6
⑤ 親の世話（介護）をする	1	2	3	4	5	6
⑥ 自治会・町内会などの地域活動を行う	1	2	3	4	5	6
⑦ 子どもの教育方針・進路目標を決める	1	2	3	4	5	6
⑧ 保育所・幼稚園・学校行事に参加する	1	2	3	4	5	6
⑨ 土地・家屋など的高額商品を購入する	1	2	3	4	5	6
⑩ 家庭の問題における最終的な決定をしている	1	2	3	4	5	6

防災に関することについておたずねします

問7. 過去の災害対応における経験から、男女共同参画の視点による対策や対応が求められています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選び番号に○印をつけてください。

1. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
2. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
3. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
4. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
5. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
6. 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
7. 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
8. その他（具体的に

仕事についておたずねします

問8. 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. ずっと職業をもっている方がよい
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他（具体的に)
7. わからない

付問8-1【問8で、「2」～「5」のいずれかに○印をつけられた方は下の質問にお答えください。】

あなたがそう思われる理由は何ですか。あなたのお考えに近いものを2つまで選び数字に○印をつけてください。

1. 女性は家事などに専念し家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正當に評価されにくいから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度はあるが、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 仕事と家庭が両立できるための制度はあるが、それでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整っていないから
8. その他（具体的に)

問9. では、あなた（男性の場合は、配偶者・パートナー）の今の働き方は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

【**独身の方も、結婚した場合を想定してお答えください。**】

1. ずっと職業をもっている
2. 結婚するまで職業をもち、あとはもっていない
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもっていない
4. 子どもができたら職業をやめ、大きくなって再び職業をもった
5. 働いていない
6. その他（具体的に)
7. わからない

【現在職業をもっている方におたずねします。】

問 10. 現在あなたの職場の女性の中に、下記のことがらにあてはまる方がいますか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

1. 募集や採用人数に男女差があり、女性は男性より不利である
2. 同期に同年齢で入社した男性との賃金に格差がある
3. 女性は補助的な仕事や雑用が多い
4. 昇進や昇格に男女格差がある
5. 女性は男性より出張や視察などの機会が少ない
6. 女性は男性より研修や教育訓練を受ける機会が少ない
7. 結婚や出産時に退職する慣例や圧力がかかる
8. 中高年女性に退職を促すような圧力がかかる
9. 定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）
10. 女性は転勤などの人事異動で男性より不利である
11. 仕事と家庭が両立できる制度が十分に整っていない
12. 家族手当、住居手当などがつかない。資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある
13. その他（具体的に _____)
14. 特にない

社会活動などへの参加・参画についておたずねします

問 11. 男性が地域活動（自治会・コミュニティの活動・子ども会など）や家庭生活（家事・育児・介護など）へ参加しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選び数字に○印をつけてください。

1. 行政が、男性の参加をすすめるための啓発活動をする
2. 行政が、男性が家庭生活に参加しやすくなるような学習機会を増やす
3. 家庭の中で男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える
4. 学校で男性の地域活動や家庭生活への参加の必要性を教える
5. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合う
6. 労働時間を短くして余暇を増やす
7. 職場の中で地域活動や家庭生活に参加しやすい雰囲気をつくる
8. 企業などが仕事と家庭の両立を支援する体制の整備をはかる
9. その他（具体的に _____)
10. 特にない

問 12. 区長やPTA会長などの地域の役職についておたずねします。女性の場合は、もしあなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の場合は、妻などが推薦されたら引き受けることをすすめますか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. 引き受ける（引き受けることをすすめる）
2. 断る（断ることをすすめる）

付問 12-1 【問 12 で「2. 断る（断ることをすすめる）」と答えた方は、下の質問にお答えください。その理由は何ですか。あてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

1. 家族の協力が得られないから
2. 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3. 家事・育児や介護に支障がでるから
4. 役職につく知識や経験がないから
5. 女性には向いていないから
6. 世間体が悪いから
7. その他（具体的に

慣習・しきたりについておたずねします

問 13. 身の回りのことにおける男女の役割分担についておたずねします。

(1) 現状：あなたの身の回りのことについて、下記の①～⑧のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

(2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。下記の①～⑧のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	(1) 現状			→	(2) 意識		
	そうしている	そうしていない	わからない		現状のままでいい	改善すべき	わからない
① 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	→	1	2	3
② 地域での集会の時は女性がお茶くみや後片づけをしている	1	2	3	→	1	2	3
③ 地域の役員はほとんど男性になっている	1	2	3	→	1	2	3
④ 地域での集会では男性が上座に座る	1	2	3	→	1	2	3
⑤ 役員会での女性の発言が少ない	1	2	3	→	1	2	3
⑥ 自治委員（隣組長など）の登録は男性（夫）だが、会議の出席は女性（妻）が出ることが多い	1	2	3	→	1	2	3
⑦ 結婚の際、氏は男性側とする	1	2	3	→	1	2	3
⑧ PTA会長は男性がなり、副会長は女性が多い	1	2	3	→	1	2	3

問 14. 「選択的夫婦別姓[※]」について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つ選び数字に○印をつけてください。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対

※「選択的夫婦別姓」とは・・・

現行制度と同じように夫婦が同じ名字（姓）を名乗ることのほか、夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦それぞれが婚姻前の名字（姓）を名乗ることができる制度。

暴力などの人権侵害についておたずねします

問 15. この5年ぐらいの間に、(A) 職場、(B) 地域活動の場、(C) 学校に関わる場で①～⑩のようなセクシュアル・ハラスメント（他の者を不快にさせる性的な言動）を受けたことがありますか。経験のあるものをいくつか選んで番号に○印をつけてください。

	(A)	(B)	(C)
	職場で	地域活動の場で	学校に関わる場で
① じろじろ眺められたり、容姿を話題にされた	1	1	1
② 性的な関係を強要された	2	2	2
③ からだに触られた	3	3	3
④ 食事などにしつこく誘われた	4	4	4
⑤ 性的なジョークを言われたり、猥談がかわされた	5	5	5
⑥ 身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	6	6	6
⑦ ヌード写真やわいせつな本を見せられた	7	7	7
⑧ 性的なうわさを流された	8	8	8
⑨ 宴席でお酌やデュエット、ダンスを強要された	9	9	9
⑩ いつ結婚するのかわ言われた	10	10	10
⑪ 受けたことはない	11	11	11

付問 16-1-2 【問 16-1 で「2. どこ（誰にも）相談しなかった」と答えた方は、下の質問にお答えください。】

どこ（誰にも）相談しなかったのはなぜですか。あてはまるものをいくつでも選び数字に○印をつけてください。

1. どこに相談してよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思った
4. 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
5. 世間体が悪いと思った
6. 子どものためにがまんするしかないと思ったから
7. 他人を巻き込みたくなかった
8. 自分にも悪いところがあると思った
9. そのことについて思い出したくなかったから
10. 相談するほどのことではないと思った
11. その他（具体的に

)

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 17. 下記のそれぞれの言葉について、あなたはどの程度ご存知ですか。

①～⑩のそれぞれについてあてはまるものを1つ選び番号に○印をつけてください。

※各項目ごと横に見てお答えください (○印はそれぞれ1つずつ)	知 内 容 を い る	が 聞 い た こ と	全 然 知 ら な い
① 男女共同参画社会	1	2	3
② ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法	1	2	3
④ 男女共同参画社会基本法	1	2	3
⑤ 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の促進に関する法律）	1	2	3
⑥ ちくしの男女共同参画プラン	1	2	3
⑦ 筑紫野市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑧ ⑦の条例に基づく救済・苦情処理制度	1	2	3
⑨ リプロダクティブ・ヘルス／ライツ*	1	2	3
⑩ LGBT*	1	2	3

※「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」とは・・・

性と生殖に関する健康と権利。特に妊娠、出産に関わる女性の人権として認識されている。

※「LGBT」とは・・・

L（レズビアン＝女性同性愛者）、G（ゲイ＝男性同性愛者）、B（バイセクシュアル＝両性愛者）、T（トランスジェンダー＝生まれたときの生物学的・社会的性別とは一致しない、またはとらわれない生き方を選ぶ人などを表現する包括的な言葉。一般的に性同一性障害も含む）の総称。

男女共同参画社会づくりに向けての
市民意識調査報告書

発行 筑紫野市

発行年 平成 29 年 3 月

〒818-0057 福岡県筑紫野市二日市南一丁目9番3号

TEL 092-918-1311 FAX 092-923-0416